
独立行政法人 国立健康・栄養研究所

研究報告

第58号(平成21年度)

独立行政法人
国立健康・栄養研究所

序

国立健康・栄養研究所は、1920（大正 9）年に内務省所管の栄養研究所（初代所長 佐伯矩）として創設されました。1938（昭和 13）年には厚生省所管の研究所となり、1948（昭和 23）年に「国立栄養研究所」として、現在の新宿区戸山に移設されています。1989（平成元）年には、身体活動・運動に関する研究部門が追加され、「国立健康・栄養研究所」となっています。2001（平成 13）年には独立行政法人化され、2006（平成 18）年 4 月からは第 2 期中期目標・計画期間に入り、3 重点調査項目として、生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究、日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究、「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究を挙げ、調査・研究を実施しております。この 2010 年度には第 2 期中期目標・計画が終了いたします。

国立健康・栄養研究所は、今年で 90 周年を迎えますが、この間、一貫して食・栄養、食品、身体活動に関する調査・研究を行い、厚生労働省をはじめとする国の行政施策をサポートする業務を実施し、国民の生命の質、生活の質、人生の質の向上に貢献しております。

独立行政法人として、厚生労働省独立行政法人評価、総務省政策評価・独立行政法人評価を受けておりますが、行政刷新会議はヒト・モノ・カネにムダ・重複がないか、不透明なところがないかの観点から、抜本的な独立行政法人見直し・事業仕分けを行い、医薬基盤研究所との統合に関しても検討が進められています。

国立健康・栄養研究所では、食・栄養、食品、身体活動をキーワードとして、生活習慣病、糖尿病、メタボリック症候群の予防、健康増進に関する調査・研究を実施しております。研究者のアクティビティは高く、一人当たりの競争的研究資金獲得額および論文引用回数は、国立研究機関の中で上位にあります。また、論文 1 報あたりの交付金充当額は少なく、論文生産効率は高いです。

事業としては、毎年、厚生労働省とともに国民健康・栄養調査を行い、食事・栄養摂取状況、身体活動・運動状況、生活習慣（喫煙・飲酒などを含む）状況を調べ、その動向と推移を報告しています。それは国の健康づくり施策へ反映されています。すなわち、食事摂取基準、運動基準の策定に活かされ、学校、病院、各種施設の給食・調理の基準値となり、食品添加物や農薬などの摂取量・曝露量の把握といった食品の安全性評価にも活用され、「健康日本 21」「特定健診・特定保健指導」（いわゆるメタボ健診）の参考値となり、国民の健康状態を計るものさしになっています。また、健康食品の許可試験・収去試験を行い、専門家および国民に食の安全・安心情報を発信し、公正・中立な健康食品情報を提供する栄養情報担当者（NR）を認定しております。

ここに、国立健康・栄養研究所研究報告書第 58 号（平成 21 年度）をまとめました。ご高覧のうえ、ご叱声・コメントをくだされば幸いです。

皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 22 年 3 月 31 日

独立行政法人 国立健康・栄養研究所
理事長 徳 留 信 寛

目 次

I 研究所概要

1. 平成 21 年度研究・業務の概況	5
2. 評価委員会	5
3. 研究所主催・共催セミナー	6
4. 意見交換会	6
5. 研究倫理審査委員会	7
6. 栄養情報担当者（NR）	8
7. 連携大学院	8
8. 他の研究機関等との連携	8

II 研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	9
2. 年度計画	9
3. 進捗状況（成果）	10

健康増進プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	12
2. 年度計画	13
3. 進捗状況（成果）	13

臨床栄養プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	15
2. 年度計画	16
3. 進捗状況（成果）	16

栄養教育プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	18
2. 年度計画	18
3. 進捗状況（成果）	19

基礎栄養プログラム

1. プログラム（プロジェクトの概要）	20
2. 年度計画	20
3. 進捗状況（成果）	20

食品保健機能プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要	21
2. 年度計画	21
3. 進捗状況（成果）	22

情報センター

1. センター／プロジェクトの概要	23
2. 年度計画	23
3. 進捗状況（成果）	24

国際産学連携センター

1. センター／プロジェクトの概要	25
2. 年度計画	25
3. 進捗状況（成果）	26

Ⅲ 研究成果等の公表

1. 業績目録	
著書	28
原著論文	28
総説	34
解説等	37
研究報告書	39
国際学会等	42
国内学会等	45
2. 公的資金による研究	
厚生労働科学研究費補助金	51
文部科学研究費補助金	53
その他の公的研究費	54
3. 民間企業等の共同研究等	54
4. 研究所外での講義、講演等	55
5. 政府関係機関審議会、委員会等	66
6. 関連学術団体等への貢献	68
7. 併任、非常勤講師等	68
8. 国際貢献	69
9. 知的財産権等	70

Ⅳ 資 料

1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標	71
2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画	74
3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画	83
4. 予算	94
5. 所内研究セミナー	95
6. 食品分析リスト	98
7. 海外出張	99
8. 人事異動	102
9. 特別研究員	104
10. 名誉所員	105
11. 客員研究員	106
12. 協力研究員	109

I 研究所概要

1. 平成 21 年度研究・業務の概況

当研究所は、平成 13(2001)年度より独立行政法人となり、平成 21 年度は第 2 期中期計画(～平成 22 年度)の第 4 年度に当たる。人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関として、「特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たす。厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担う」(中期目標)ことが、当研究所に求められる役割である。

こうした目標を達成するために、三つの重点調査研究業務を行っている。

- ①生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究
- ②日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究
- ③「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

その他にも、外部の競争的研究資金を獲得して、関連領域の基礎から応用、開発型の研究を行っている。また、今後の新たな研究展開につながるような萌芽的研究を若手研究者を中心に活発に行っている。(下表)

(表) 外部研究費の獲得状況 (単位: 千円)

		競争的研究費		受託研究費			計
		補助金	助成金	受託契約	共同契約	寄付金	
		(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	(件数) 金額	
公 公 機 関	主任	(31) 271,860	(-) -	(3) 4,156	(1) 192	(-) -	(35) 276,208
	分担	(21) 30,788	/	/	/	/	(21) 30,788
民 間 企 業 等	主任	/	(6) 13,300	(7) 12,425	(11) 33,158	(-) -	(24) 58,883
	分担	/	/	/	/	/	/
計		(52) 302,648	(6) 13,300	(10) 16,581	(12) 33,350	(-) -	(80) 365,879

個々の研究内容及び研究成果の発表については、各プログラム/センターからの報告及び、研究成果の発表を参照されたい。研究成果の公表実績の一部を下表にまとめた。

(表) 研究成果の公表実績

原著論文		学会発表(招待講演)		学会発表(一般演題)	
英文	和文	国際学会	国内学会	国際学会	国内学会
92	17	8	16	46	113

また、研究の成果を社会に還元し、国民の健康づくりに役立てていただけるよう、情報センター(情報部

門)及び国際産学連携センター(対外部門)、並びに事務部業務課が中心となって、ホームページ等を介した情報提供、NR 事業、セミナー(一般及び専門家向け)、研究所の公開(オープンハウス)等を行った。NR 事業としては、平成 21 年 6 月には第 6 回 NR 認定試験を行い、累計で 4,093 名の NR を世に送り出すとともに、有資格者へのフォローアップ研修を行った。専門家を対象としたセミナーとしては、都道府県等の健康・栄養調査手法の標準化を目指すセミナーを主催した。

若手研究者の育成という観点からは、お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学、名古屋市立大学及び福岡女子大学との連携大学院や、全国の管理栄養士を養成する大学・大学院での特別講義等を通じて、ネットワーク型の人材育成を着実に進めてきた。また、国際協力についてもアジア諸国における栄養関係の研究機関との連携を中心に、研究ネットワークの構築を進めている。

2. 評価委員会

(1) 外部評価委員会

下記の 9 名の委員で構成される国立健康・栄養研究所外部評価委員会については、平成 22 年 3 月 15 日(月)に平成 21 年度業務実績事後評価及び平成 22 年度計画事前評価を行った。

【委員】

五十嵐脩	(お茶の水女子大学名誉教授)(委員長)
伊藤 裕	(慶應義塾大学医学部教授)
逢坂哲彌	(早稲田大学理工学術院教授)
加賀谷淳子	(日本女子体育大学客員教授)
加藤則子	(国立保健医療科学院生涯保健部長)
川島由起子	(聖マリアンナ医科大学病院栄養部長)
林 徹	((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所長)
豊田正武	(実践女子大学教授)
三保谷智子	(女子栄養大学出版部書籍編集長)

(2) 内部評価委員会

下記により構成される国立健康・栄養研究所内部研究業務評価委員会については、平成 21 年 11 月 25 日(水)にプログラム/センター中間報告会を、平成 22 年 3 月 15 日(月)には平成 21 年度事後評価を行った。

【委員】

芝池伸彰	(理事)
大森豊緑	(研究企画評価主幹)～7 月
阿部重一	(研究企画評価主幹)8 月～
森田明美	(栄養疫学プログラムリーダー)
田畑 泉	(健康増進プログラムリーダー)
門脇 孝	(臨床栄養プログラムリーダー)
江崎 治	(基礎栄養プログラムリーダー)
饗場直美	(栄養教育プログラムリーダー)

石見佳子 (食品保健機能プログラムリーダー)
 梅垣敬三 (情報センター長)
 西 信雄 (国際産学センター長)

3. 研究所主催・共催セミナー

(1) 当研究所主催第 11 回一般公開セミナー

主 題: 栄養・食生活と「健康食品」－「健康食品」
 とのつきあい方を中心に－
 日 時: 平成 22 年 1 月 30 日 (土)
 場 所: よみうりホール (東京都千代田区)
 主 催: 独立行政法人国立健康・栄養研究所
 後 援: 厚生労働省、文部科学省、消費者庁、東京都、
 千代田区、国立保健医療科学院、国立国際医
 療センター、独立行政法人国民生活センター、
 社団法人日本医師会、社団法人日本フィット
 ネス協会、社団法人日本栄養士会、社団法人
 健康食品管理士認定協会、財団法人健康・体
 力づくり事業財団、特定非営利法人日本健康
 運動指導士会
 賛助企業: アサヒ飲料株式会社、味の素ゼネラルフーズ
 株式会社、株式会社伊藤園、インデナジャパ
 ン株式会社、エムジーファーマ株式会社、大
 塚製菓株式会社、オムロンヘルスケア株式会
 社、花王株式会社、キッコーマン株式会社、
 協和発酵バイオ株式会社、キリンホールディ
 ングス株式会社、株式会社クリニコ、産業栄
 養指導者会、サントリー食品株式会社、第一
 出版株式会社、株式会社同文書院、株式会社
 日米クック、株式会社ニチレイフーズ、日清
 オイリオグループ株式会社、日本サプリメント
 株式会社、日本豆乳協会、社団法人日本酪
 農乳業協会、ネスレ日本株式会社、富士産業
 株式会社、富士産業株式会社、不二製油株式
 会社、明治製菓株式会社、株式会社ヤクルト
 本社、株式会社山田養蜂場、株式会社リコム、
 株式会社ルネサンス

プログラム:

○研究所の活動報告 (阿部重一)

(基調講演) 現代の食生活と「健康食品」

(甲子園大学長 田中平三)

(講演 1) 「健康食品」の安全な利用法 (梅垣敬三)

(講演 2) 「健康食品」の必要性－新しい食事摂取基準
 に照らして－ (森田明美)

(講演 3) 身体活動と「健康食品」 (田畑 泉)

(パネルディスカッション)

「健康食品」の適切な情報提供について

コーディネーター: 芝池伸彰、石見佳子

パネリスト: 宗林さおり ((独) 国民生活センター商品
 テスト部調査役)、長村洋一 ((社) 健康
 食品管理士認定協会理事長)、芳賀めぐ
 み (消費者庁食品表示課衛生調査官)、
 三橋清治 (栄養情報担当者協会副理事
 長)

(2) 当研究所主催専門家向けセミナー

ア 調査実務編

日時・場所: 平成 21 年 7 月 27 日 (月) (栃木県)
 平成 21 年 7 月 30 日 (木) (鳥取県)
 平成 21 年 7 月 31 日 (金) (香川県)
 平成 21 年 8 月 3 日 (月) (石川県)
 平成 21 年 8 月 6 日 (木) (北海道)
 平成 21 年 8 月 20 日 (木) (熊本県)
 平成 21 年 8 月 27 日 (木) (東京都)

プログラム:

(講義 1) 「健康・栄養調査の信頼性を高める一標準
 化・精度管理の必要性」 (由田克士)

(講義 2) 「適切な食品番号の選択、調理による変化や
 栄養素が強化されている食品の考え方につ
 いて」 (野末みほ)

(講義 3) 「身体状況調査及び生活習慣調査における精
 度向上に向けた留意点について」 (荒井裕
 介)

(演習 1) 模擬調査票を使った食事調査聞き取りのポ
 イント

(情報提供・演習 2) 名簿や調査票の確認のポイント

(講義 4) 「健康・栄養調査の企画・評価概論」 (由田
 克士)

(意見交換)

イ 「食事しらべ」編

日時・場所: 平成 21 年 8 月 21 日 (金) 午前・午後の
 2 回開催 (熊本県)
 平成 21 年 8 月 29 日 (土) 午前・午後の
 2 回開催 (東京都)
 平成 21 年 9 月 9 日 (水) 午前・午後の
 2 回開催 (大阪府)

プログラム:

(講 義) 「食事しらべ」の使用方法について (野末
 みほ)

(演習 1) 「模擬調査票による、データ入力、エラーチ
 ェック、調査票提出時の対応方法」 (由田克
 士、荒井裕介、野末みほ)

4. 意見交換会

【関係団体】

(1) 独立行政法人国立病院機構

日時: 平成 21 年 5 月 12 日 (火)

議題: 国立健康・栄養研究所における取り組みにつ
 いて

国立病院機構・国立国際医療センターにおけ
 る取り組みについて

今後の連携の可能性を踏まえた意見交換

(2) 国立スポーツ科学センター

日時: 平成 21 年 8 月 4 日 (金)

議題: 国立スポーツ科学センターの紹介及び国立健
 康・栄養研究所の紹介

両機関の連携について

今後の共同研究などの可能性について

(3) 江戸川保健所

日時：平成 21 年 9 月 11 日（金）

議題：国立健康・栄養研究所における取り組みについて

江戸川保健所における取り組みについて

今後の連携の可能性を踏まえた意見交換

(4) 株式会社ヤクルト研究所

日時：平成 21 年 10 月 16 日（金）

議題：国立健康・栄養研究所の概要や健康食品に関する取り組みの紹介

幹部職員との今後の連携の可能性を踏まえた意見交換

(5) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

日時：平成 21 年 12 月 8 日（火）

議題：食品総合研究所の動向

国立健康・栄養研究所の動向

ディスカッション、研究交流セミナー

(6) 独立行政法人国民生活センター

日時：平成 22 年 1 月 28 日（木）

議題：国立健康・栄養研究所における健康食品に関する情報の収集と公開状況等

国民生活センターにおける健康食品関連の対応状況等、意見交換

【行政機関】

(1) 消費者庁食品表示課

日時：平成 21 年 10 月 26 日（月）

議題：消費者庁食品表示課の業務協力依頼について
今後の特定保健用食品の審査体制について
厚生労働省新開発食品調査会について
特別用途食品の審査について
リスクコミュニケーションについて
今後の特定保健用食品のあり方について
情報センターが作成した「特別用途食品」の
情報に関する HP の運営について その他

(2) 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室

日時：平成 22 年 3 月 9 日（火）

議題：日本人の食事摂取基準（2010 年版）の普及啓発について

国民健康・栄養調査について

健康づくりのための運動基準 2006～身体活動・運動・体力～について

「特別用途食品」「栄養療法エビデンス」情報について

(3) 厚生労働省医薬食品局食品安全部新開発食品保健対策室

日時：平成 22 年 3 月 9 日（火）

議題：国立健康・栄養研究所食品部門における食品に関する研究業務及び情報収集の公開状況について

厚生労働省食品安全部の国立健康・栄養研究所に対する情報提供、指導・助言等

今後の食品関係の調査研究等に関する意見交換

5. 研究倫理審査委員会

研究倫理審査委員会の各部会において、以下の課題について、研究計画の倫理的妥当性等を審査した。

(1) ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会

・生活習慣病予防のためのコホート研究「佐久長寿プロジェクト」参加者に於ける網羅的遺伝子多型解析

(2) 実験動物研究部会

・機能性食品素材の組合せによる有効性と安全性に関する研究

・視床下部腹内側核破壊動物の肥満病態に関する研究

・熱産生における脳および消化管ペプチドの役割

・睡眠とエネルギー代謝調節の脳機構の研究

・骨粗鬆症の予防に関する栄養学的研究

・糖代謝に及ぼす身体活動の影響

・筋萎縮発症機序の解明

・運動による生活習慣病予防機序の解明

・肝臓における脂質代謝・合成の制御による生活習慣病予防法の開発

・特定栄養素欠乏による脳血管障害への影響およびそのメカニズムの解明

・血管内皮細胞と膵β細胞における IRS-2 の役割について

・健康食品素材に関する有効性と安全性の検討

・生体指標プロジェクトに関する分子生物学的研究

(3) 疫学研究部会

・若年成人の朝食欠食に関わる要因の検討－親の食習慣や食育実施状況を含めて－

・日本人の食育の意識に関する研究（食育の文化的な分野の統一見解分析）

・閉経後女性におけるビタミン K の機能性評価に関する研究 3

・高齢者を対象としたスローレジスタンストレーニング法の長期的運動効果に関する研究

・女子大学生を対象とした牛乳摂取による体脂肪制御効果に関する介入研究

・妊娠中の経過と生後の健康調査：母子健康手帳を利用した小児健康と肥満の要因解析

・内臓脂肪測定における、CT による立体解析法および生体インピーダンス法の有用性の検討

・身体活動がエネルギー摂取調節機構の反応性に与える影響

・船内供食における栄養管理に関する研究

・青少年スポーツ選手の健康食品・サプリメント摂取に関するアンケート調査

・メタボリックシンドロームを対象とした実食型フードモデルの有効性に関する研究

・生体インピーダンス法（BIA）を用いた皮下脂肪厚測定に関する精度評価試験

・大豆イソフラボン代謝産物の産生能に及ぼすフラクトオリゴ糖の影響

・特別用途食品に関するアンケート調査

・長距離競技者の身体組成と安静時代謝量に関する研究

・妊婦のサプリメント摂取に関するアンケート調査

・国民健康・栄養調査 調査担当者の課題の抽出と検討

- ・栄養分野の国際保健人材の研究能力強化に関するニ
ーズ調査

東京会場：平成 21 年 12 月 12 日(土)
東京会場：平成 22 年 1 月 23 日(土)

【ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会委員名簿】

芝池伸彰 (理事：委員長)
稲葉 裕 (実践女子大学教授)
後藤田貴也 (東京大学医学部附属病院助教授)
辻 誠治 (日本女子大学附属豊明小学校教諭)
大森豊緑 (研究企画評価主幹)～7 月
阿部重一 (研究企画評価主幹)8 月～
森田明美 (栄養疫学プログラムリーダー)
門脇 孝 (臨床栄養プログラムリーダー)
江崎 治 (基礎栄養プログラムリーダー)

【実験動物研究部会委員名簿】

江崎 治 (基礎栄養プログラムリーダー：委員長)
窪田哲也 (臨床栄養プログラム栄養療法プロジ
ェクトリーダー)
永田純一 (食品保健機能プログラム食品機能プ
ロジェクトリーダー)
大坂寿雅 (健康増進プログラム上級研究員)

【疫学研究部会委員名簿】

森田明美 (栄養疫学プログラムリーダー：委員長)
稲葉 裕 (実践女子大学教授)
辻 誠治 (日本女子大学附属豊明小学校教諭)
大前和幸 (慶應義塾大学教授)
饗場直美 (栄養教育プログラムリーダー)
由田克士 (栄養疫学プログラム国民健康・栄養
調査プロジェクトリーダー)
石見佳子 (食品保健機能プログラムリーダー)
田中茂穂 (健康増進プログラムエネルギー代謝
プロジェクトリーダー)

6. 栄養情報担当者(NR)の養成

(1) 第 6 回栄養情報担当者認定試験

日 時：平成 21 年 6 月 7 日(日)
場 所：明治学院大学(東京都港区)
関西大学(大阪府吹田市)
受験者数：1,072 名
合格者数：613 名

(2) 第 7 回栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験

日 時：平成 21 年 11 月 15 日(日)
場 所：慶應義塾大学芝校舎(東京都港区)
関西大学(大阪府吹田市)
受験者数：246 名
合格者数：123 名

(3) 栄養情報担当者(NR)研修会の開催

仙台会場：平成 21 年 10 月 4 日(日)
大阪会場：平成 21 年 10 月 18 日(日)
名古屋会場：平成 21 年 10 月 25 日(日)
岡山会場：平成 21 年 11 月 29 日(日)
福岡会場：平成 21 年 12 月 5 日(土)

7. 連携大学院

- (1) 国立大学法人お茶の水女子大学
- (2) 東京農業大学大学院
- (3) 女子栄養大学大学院
- (4) 早稲田大学スポーツ科学学術院
- (5) 名古屋市立大学大学院
- (6) 公立大学法人福岡女子大学

8. 他の研究機関等との連携

- (1) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- (2) 国立医薬品食品衛生研究所
- (3) 国立極地研究所

Ⅱ 研究・業務の進捗及び成果の概要

栄養疫学プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラムの概要

栄養疫学に関する基礎ならびに応用研究を行い、日本人の食生活の多様化と健康への影響を明らかにするとともに、わが国の公衆栄養行政に不可欠な科学的根拠を提供する。具体的には、国民健康・栄養調査の集計業務を担当するとともに、調査の質の向上をめざした環境整備や基礎研究を行う。また、食事摂取基準の改定において必要とされる学術的資料を作成するとともに、そのための基礎研究を行う。

(2) プロジェクトの概要

a. 国民健康・栄養調査プロジェクト

- ・当研究所の法定業務である国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。
- ・国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供等の支援業務を行う。

b. 食事摂取基準プロジェクト

- ・5年ごとに改定されている「日本人の食事摂取基準」の策定に必要な栄養学的知見を系統的、かつ、網羅的に収集、蓄積、解説し、策定の効率化と質の向上の一助とする。
- ・日本人の食事摂取基準の策定に資する基礎資料を得るための、ヒトを対象とした栄養疫学研究を実施する。

c. 生体指標プロジェクト

- ・栄養素摂取量並びにその生体指標の収集を中心とした疫学研究及び脂溶性ビタミン類とその代謝に関与する栄養素に着目し、その必要量に関する基礎的研究を行い、日本人の食事摂取基準のための基礎的資料を作成する。
- ・新たな生体指標の確立を目指す。

(3) 構成メンバー

プログラムリーダー：

森田明美

プロジェクトリーダー：

由田克士（国民健康・栄養調査プロジェクト）

森田明美（食事摂取基準プロジェクト／併任）
（生体指標プロジェクト／併任）（5月～）

石見佳子（生体指標プロジェクト）（～4月）

上級研究員：

山内 淳

研究員：

荒井裕介

野末みほ

坪田 恵

特別研究員：

河嶋伸久

大瀧（東泉）裕子（～4月）

客員研究員：

佐々木敏（東京大学）

山本祐司（東京農業大学）

太田篤胤（城西国際大学）（～4月）

呉 堅（日清オイリオグループ株式会社中央研究所）（～4月）

藤井康弘（大塚製薬佐賀栄養製品研究所）（～4月）

協力研究員：

猿倉薫子（お茶の水女子大学）

小松久美（川崎市）

宇田川孝子（杉並区）

千葉大成（城西大学）（～4月）

王 新祥（北京中医薬大学）（～4月）

佐藤七枝（聖徳大学）（～4月）

高市麻貴（国立国際医療センター）（6月～）

技術補助員：

石井美子、大野尚子、福羅由美、鈴木洋子、紙 貴子、峯 恵美、望月恵理子、後藤千春、井上絵里奈（～9月）、関口真理子（9月～）、小坂谷典子（～4月）、谷中かおる（～4月）、石川由花（～4月）、吉田真咲（～4月）

事務補助員：

近藤明子

研修生：

中山絵通子（Tulane University）（6～8月）

白鳥明日香（東京農業大学）

安部文子（実践女子大学）（～4月）

2. 年度計画

a. 国民健康・栄養調査プロジェクト

- ・国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。
- ・国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供

等の支援業務を行う。

b. 食事摂取基準プロジェクト

- ・厚生労働省が実施する日本人の食事摂取基準（2010 年版）の策定・普及啓発に協力し、検討委員・WG メンバーとしての参加および厚生労働省・策定検討会に必要な資料提供・技術提供を行う。また、2005 年版策定時からの関係基礎資料をすべて収集・分類整理し、今後の策定時に活用するためのデータベースの構築作業を行う。
- ・食事摂取基準の策定に資する基礎資料を得るためのヒトを対象とした栄養疫学研究として、地域在住高齢者および介護施設入所者の栄養摂取状況とビタミン・ミネラルの栄養状態について調査を実施する。
- ・人間ドック受診者を対象に、肥満解消を目的とした介入研究及び肥満や糖尿病リスク因子抽出のための大規模コホート研究を行う。

c. 生体指標プロジェクト

- ・栄養素摂取量ならびにその生体指標の収集を目的とした疫学研究を行なう。特に閉経後女性を対象に、ビタミン K2 の骨代謝マーカー及びその他の生体指標に及ぼす影響について試験を実施する。
- ・新たな生体指標の確立を目指す。特にインスリン抵抗性を早期に検出できるレチノール結合タンパク質 (RBP4) の生体指標としての可能性を探る。

3. 進捗状況（成果）

a. 国民健康・栄養調査プロジェクト

●平成 20 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 20 年国民健康・栄養調査について、基本集計表一式を平成 21 年 6 月 25 日に厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室へ提出（前年度比 5 日の短縮）した。また、平成 20 年国民健康・栄養調査の概要（速報値）は平成 21 年 11 月 9 日に厚生労働省より公表された（前年度比 45 日の短縮）。

なお、平成 20 年の調査概要については、過去の国民健康・栄養調査（国民栄養調査）における成績を加味した縦断的な評価が行われており、表面上には示されていないが、客観的な評価ができるように、統計学的な解析が施されている。

●平成 21 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 21 年国民健康・栄養調査については、各自治体からの調査票の提出を確認後、順次集計作業を開始・継続している。

●健康・栄養調査業務支援ソフトウェア「食事しらべ（2009 年版）（確定版）」の作成と普及

- ・国民健康・栄養調査を実施する自治体担当者用説明資料を作成、栄養摂取状況調査ならびに身体状況調査に対応したソフトウェア（「食事しらべ（2009 年版）」（確定版））の開発・普及を行った（名称および著作権登録済み）。利用を希望する自治体に対しては無償で配布し、その利用状況や使い勝手等についてアンケート調査を実施した。

●健康・栄養調査技術研修セミナーの開催

- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政

栄養士を対象とした「健康・栄養調査技術研修セミナー（調査実務編）」を栃木県宇都宮市（7 月 27 日）、鳥取県米子市（7 月 30 日）、香川県高松市（7 月 31 日）、石川県金沢市（8 月 3 日）、北海道札幌市（8 月 6 日）、熊本市（8 月 20 日）、当研究所（8 月 27 日）において開催した。また、「健康・栄養調査技術研修セミナー（食事しらべ編）」を熊本市（8 月 21 日）で 2 回、東京都千代田区（8 月 29 日）で 2 回、大阪市（9 月 9 日）、で 2 回開催した。以上 13 回のセミナーにおいて、のべ 412 名の参加があった。

●平成 21 年国民健康・栄養調査及び各自治体等が実施する健康・栄養調査に関する情報提供

- ・当研究所のホームページ上で平成 21 年国民健康・栄養調査の適正な実施に資する情報（45 コンテンツ）を提供した（昨年度比 20 コンテンツ増）。今年度についても、過去に実施された国民健康・栄養調査の際に問い合わせが多かった事項や誤りが多かった点について、Q&A 方式の対応事例を追加した。また、実際の調査主体となる保健所における調査員の研修に用いる教材や具体的な練習問題についても内容を追加・改訂し充実させた。
- ・国民健康・栄養調査及び各自治体等が独自に実施する健康・栄養調査等に関して、質問や依頼があった場合は、個別に技術支援を行った。
- ・栄養摂取状況調査の精度向上と標準化を主たる目的とした「標準的図版ツール（2009 年版）（確定版）」を作成した。これは平成 19 年度からの試作版を利用者の意見に基づいて発展的に改訂し、完成させたものである。利用希望のあった保健所担当者へ無償配布し、実際の調査に使用してもらった後、それらの内容に関してアンケート調査を実施した。また、「栄養摂取状況調査のための標準的図版ツール（2009 年版）に基づく重量目安表（2009 年版）」も作成し、同様の対応とした。

- ・国民健康・栄養調査を担当した地方自治体主管部局や保健所の管理栄養士等を対象としたアンケート調査を実施し、本年度の支援業務の評価と次年度以降における支援の在り方等について情報収集を行った。

●厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室との連携

- ・平成 21 年国民健康・栄養調査の企画、各種調査票の設計、食品番号表・調査必携の作成並びに厚生労働省が開催している担当者会議の内容等に関して、必要に応じ生活習慣病対策室と連携し、適切な調査が実施されるよう最大限の対応を行った。

●その他関連する請負業務等

- ・国立医薬品食品衛生研究所からの請負業務として、マーケットバスケット方式による食品添加物一日摂取量推定調査のための基本データ集計を実施した。

b. 食事摂取基準プロジェクト

●日本人の食事摂取基準（2010 年版）策定・普及・啓発

- ・「日本人の食事摂取基準（2010 年版）」の策定業務に検討委員、WG メンバー等として参加した。また、厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室に協力して、報告書の編集・校正作業に従事した。なお、「日本人の食事摂取基準（2010 年版）」は 2009 年 5 月に厚生労働省

から公表され、厚生労働省ホームページ上に報告書全文が掲載された。

- ・プロジェクト内に、日本人の食事摂取基準の策定のための REFERENCE 事務局を設置し、所内外からの策定のための資料の収集・提供に応じるとともに、各 WG メンバーから今回の策定で使用した文献を収集した。さらに、今後の食事摂取基準策定に向けて、これまでに参考にされた文献のデータベースを作成中である。また、一般利用者向けの食事摂取基準に関する資料のデータベースも同時に作成中であり、試用版を公開した。
- ・「日本人の食事摂取基準（2010 年版）」の普及・啓発に向けた活動を行った。厚生労働省主催の講演会ならびに各地方自治体などが主催する講習会での講演、およびそれに関わる発表用資料の作成・整理・統合などを行った。講習用資料に関しては国立健康・栄養研究所ホームページ内に食事摂取基準のページを作成し、2009 年 12 月より公開した。
- ・Codex 会議用の資料として、食事摂取基準の英語版概要の表作成・翻訳作業に協力した。

●栄養素摂取状況と健康状態に関する栄養疫学研究

- ・高齢者の栄養摂取状況および栄養摂取量が血中の微量栄養素や身体状況に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、高齢者施設の入居者や在宅サービス利用者を対象にした調査を継続中である。これまでに、提供食の食品分析を行い、提供食に含まれるエネルギー及び各栄養素量を明らかにした。
- ・佐久総合病院人間ドックを中心とした介入研究を実施した。肥満者の栄養教育・運動指導による介入研究である「佐久肥満克服プログラム（SCOP）」は、2009 年 7 月の健診で 3 年間の介入プログラムが完了した。介入後の追跡では体重の増加は見られたが、依然として介入開始前よりも低い体重であり、介入効果の維持を確認した。
- ・2009 年 1 月から、佐久総合病院人間ドック受診者を対象とした新規コホートをスタートさせた。本コホートは、一般診療に加え、栄養・運動・身体状況・精神状態に関する項目の調査を実施し、生活習慣病への罹患率とそのリスク要因を明らかにすることが目的である。現在までに約 2,000 名のコホートへの登録が完了した。ここまでの分析では抑うつ状態などのメタボリックシンドロームに関わるリスクへの影響が男女によって違うことなどが明らかになった。

c. 生体指標プロジェクト

●ビタミン K の栄養生理学的意義に関する研究

- ・閉経後女性を対象としたビタミン K2 の骨代謝マーカー及びその他の生体指標に及ぼす影響についての試験を開始した（食品保健機能プログラムとの共同研究）。

●生体指標の定量システム確立に関する研究

- ・RIA 法による血中 25(OH)D の定量システムを用い、ヒトを対象とした栄養素及び食品成分の栄養生理学的意義に関する研究で活用した。
- ・血中ビタミン K の定量システムの確立に向けた研究を継続した。
- ・β-カロテン開裂酵素である BCMO1 遺伝子の、レチノイン酸による発現制御に関する研究を開始した。

●新規生体指標の開発に関する研究

- ・メタボリックシンドロームの指標となるビタミン A 結合タンパク（RBP4）遺伝子発現制御機構を明らかにするための研究を実施し、インスリン抵抗性と RBP4 遺伝子発現亢進のメカニズムの一端を明らかにした。

健康増進プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラムの概要

健康増進プログラムは、(独) 国立健康・栄養研究所 中期計画に示された生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究を行う。

厚生労働省が 5 年ごとに行っている「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」及び「日本人の食事摂取基準」の改定作業に積極的に関与すると同時に、それらの改定のための科学的根拠の提示を行う。

また、エクササイズガイド達成のための積極的な休養法についての研究を行う。

さらに、身体活動・運動量の増加によるメタボリック シンドローム、生活習慣病の予防等に関する科学的根拠を明らかにするための研究を行う。

(2) プロジェクトの概要

a. 運動ガイドラインプロジェクト

厚生労働省の「健康づくりのための運動基準」や「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」策定及びその普及・啓発に資する研究・調査並びに、それらを活用した生活習慣病予防の方策に関する以下の研究・調査を実施する。

- ・「健康づくりのための運動基準 2006」に示された生活習慣病予防のために必要な身体活動量・運動量・体力の基準の妥当性を検討するための大規模無作為割付介入研究を行う。
- ・安全で効果的な生活習慣病予防と介護予防のための筋力トレーニング法に関する研究を行う
- ・健康づくりのための運動基準ならびに運動指針作成のための文献収集並びに検討を行う。

b. エネルギー代謝プロジェクト

厚生労働省の「日本人の食事摂取基準」における推定エネルギー必要量、および「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」における身体活動量・運動量の把握に資する研究として、以下の調査・研究を行う。

- ・エネルギー消費量の推定法、および身体活動・運動の定量化の方法を開発する。
- ・身体活動レベルに寄与する活動強度や活動内容を対象特性別に明らかにする。
- ・運動の種類の違い(レジスタンス運動など)がエネルギー代謝と基質代謝に及ぼす影響を明らかにする。

c. 休養プロジェクト

「健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)」で示された身体活動量及び運動量の達成を可能とするために、適切な休養の取り方に関する以下の研究を行う。

- ・休養の必要性また回復をみる目的で、身体疲労と精神

疲労の定量化に関する研究を行う。

- ・休養に重要である睡眠に関する研究を行う。

(3) 構成メンバー

プログラムリーダー：

田畑 泉

プロジェクトリーダー：

宮地元彦 (運動ガイドラインプロジェクト)

田中茂穂 (エネルギー代謝プロジェクト)

田畑 泉 (休養プロジェクト／併任)

上級研究員：

高田和子

熊江 隆

大坂寿雅

特別研究員：

村上晴香 (運動ガイドラインプロジェクト)

朴 鍾薫 (エネルギー代謝プロジェクト)

流動研究員：

田中憲子 (日本学術振興会特別研究員)

大河原一憲 (日本学術振興会特別研究員)

客員研究員：

大森豊緑 (名古屋市立大学大学院)

木村靖夫 (佐賀大学)

川中健太郎 (新潟医療福祉大学)

寺田 新 (早稲田大学)

真田樹義 (立命館大学)

山元健太 (北テキサス大学)

家光素行 (環太平洋大学)

福 典之 (東京都老人医療センター)

谷本道哉 (順天堂大学)

二見 順 (東日本国際大学)

田中千晶 (桜美林大学)

引原有輝 (千葉工業大学)

緑川泰史 (桜美林大学)

大島秀武 (オムロンヘルスケア株式会社)

吉武 裕 (鹿屋体育大学)

協力研究員：

安田 剛 (株式会社ティップネス)

河野 寛 (早稲田大学)

片山利恵 (NPO 法人健康早稲田の杜)

高山光尚 (日本事務機)

大賀英史 (ヘルシーライフクリエイティブ・リサーチ&コンサルティング合同会社)

島田美恵子 (千葉県立保健医療大学)

松尾知明 (筑波大学)

別所京子 (聖徳大学)

鈴木洋子 (株式会社ウェル・ビーイング)

上野 (目加田) 優子 (東京栄養食糧専門学校)

呉 泰雄 (松本短期大学)

劉 莉莉 (早稲田大学)

曹 振波 (早稲田大学) (10 月～)

技術補助員：

佐々木梓、吉池秀之、曹 振波（～9月）、藤本恵理、大森由美、塙 智史、丸藤祐子、川上諒子、広佐古愛湖、小暮寛子、三宅理江子、安藤貴史、田中祥子、坂田晶子、東 保子、山本久子、吉田美代子、鈴木明子、魚住佳代

研修生：

吉田明日美（昭和女子大学）
吉田夏美（昭和女子大学）
川上 恵（昭和女子大学）

2. 年度計画**a. 運動ガイドラインプロジェクト**

- 生活習慣病発症に関する大規模前向き研究に関してコホートを構築し、ベースラインデータの分析を行うとともに、介入を開始し、その効果を検討する。
- 介護予防と動脈硬化予防を両立させることを目的として、筋力トレーニングの新しい実施方法である筋張力維持法(スロトレ)の効果を、高齢者を対象として検討する。
- 身体活動・運動指導を行うための研究論文データベースに新しい論文を追加し、一層の充実を図る。
- 「エクササイズガイド 2006」に基づいた肥満改善のための身体活動・運動保健指導マニュアルを構築し、地域において指導効果を検証する。
- 生活習慣病発症と関係の深い体力である最大酸素摂取量の日本人の現状値の測定を行う。
- 新しいエクササイズガイド策定のための研究会を開催する。

b. エネルギー代謝プロジェクト

- 成人および子どもにおいて、1日当たりの身体活動レベルおよび総エネルギー消費量を推定するために、質問紙や歩数を用いた推定法を確立する。また、様々な対象特性をもつ集団（職業、運動習慣、生活地域、年齢など）において、既存の方法および新たに開発した推定法の妥当性を検討する。
- 成人や子どもにおいて、代表的な活動の強度（メッツ値）の標準値を再検討するとともに、加速度計を用いて客観的に評価する方法を確立する。
- 身体活動レベルや総エネルギー消費量の変動要因（行動の種類や活動強度の分布など）を、対象特性別に特定する。
- 体重と身体活動レベルとの関係について、二重標識水（DLW）法の結果に基づいた横断的研究により検討する。また、ヒューマンカロリーメーターを用いて評価した睡眠時代謝量や基礎代謝量と、その後の体重増加との関係について検討する。

c. 休養プロジェクト

- 独自に開発した血清及び唾液の総抗酸化能の測定法を用い、強化合宿等で身体疲労の発生が十分に疑われる状況にある競技選手を被験者とし、休養の新しい客観的指標としての総抗酸化能の有用性を検討する。
- 生理周期による睡眠への影響を心拍スペクトル解析による睡眠時心臓自律神経バランスの変動により客観的に評価し、休養の指標として検討する。

- 長距離選手等の運動選手を被験者とし、継続的な肉体的負荷による身体疲労の変動を血清生化学検査及び非特異的免疫能で明らかとする。
- 実験動物を用い、エネルギー代謝調節および肥満制御の脳機構を明らかにする。

3. 進捗状況（成果）**a. 運動ガイドラインプロジェクト**

- 運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準値の妥当性について検討するための大規模無作為割付け介入研究について、本年度は、1月末日現在までで 818 名を活動群、身体活動介入群、非活動対照群の 3 群に割り付け、身体活動介入群に対し三次元加速度計を用いた身体活動改善指導を実施した。

ベースライン測定結果を横断的に分析すると、体力の一要素である全身持久力（最大酸素摂取量）の低い者は高い者と比較して、動脈スティフネス、血圧、体重、腹囲、血糖値、左心室壁厚などほぼ全ての生活習慣病危険因子が高いことが示された。また、3次元活動量計で評価した、3メッツ以上の強度の身体活動の量も、体力ほどその関連は強くないが、動脈スティフネスや中性脂肪と関連することが示唆された。

また、柔軟性（座位体前屈）の低い＝からだが硬い中高年者では、動脈スティフネスが高い＝動脈が硬いということが示唆された。

1年間の介入期間が終了した 464 名の分析結果では、身体活動介入群の歩数ならびに 3メッツ以上の強度の身体活動の量の増加が、非介入群よりも大きかった。現状では、生活習慣病リスクファクターの変化に有意差は認められなかった。

- 新しい筋力トレーニング方法の一つである緊張力維持法(スロトレ)の、高齢者に対する筋力増強効果と生活習慣病リスク改善効果を検討するために、60 名の高齢健康男性を対象として、スロトレ群、通常筋トレ群、対照群の 3 群を比較する 6ヶ月間の無作為割付け介入研究を実施した。
- 健康運動指導士がエビデンスに基づいた身体活動・運動指導を行うための研究論文データベースを、健康・体力づくり事業財団と協力して作成した。平成 18 年度末には約 1,200 本の論文データベースが構築されたが、本年度は行動変容、分子生化学、運動リスクマネジメントなどのテーマを中心に約 50 編の論文をデータベースに追加した。
- 佐久肥満克服プログラムにおける無作為割付け交差比較研究の身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入を担当した。平成 19 年 7 月の 1 日目測定から約 36ヶ月間の身体活動量評価及び活動量計を活用した自己管理による介入を実施した結果、一日あたり約 1,600 歩＝0.9 メッツ／日の身体活動量の増加が見られ、収縮期血圧約 6 mmHg、体重 5kg、腹囲 4.5cm、並びに内臓脂肪量の低下が観察された。また、235 名の参加者の約 12%が、運動中止には至らない程度であるが、脚や腰の痛みを訴えた。
- コンピュータゲーム制作会社との共同研究として、身体活動・運動を伴うコンピュータゲーム実施中のエネルギー消費量を、エネルギー代謝プロジェクトと協力し、

ヒューマンカロリーメーターを用いて測定した。58 種類のゲーム種目の約 3 分の 1 が 3~6 メッツの中強度運動であることが明らかとなった。

- ・生活習慣病発症と関係の深い体力である最大酸素摂取量の日本人の現状値の測定を行い、男性では全ての年齢で低下傾向であること、また女性では 20 歳代から 40 歳代は低くなっているが、50 歳代及び 60 歳代は、従来の値よりも高くなっている可能性が示唆された。
- ・「新しいエクササイズガイドの策定に関する研究会」を平成 21 年 5 月 23 日 (土) に当所で実施した。その結果、20 歳未満及び 70 歳以上の望ましい身体活動量・運動量の基準値の策定等の必要性が明らかになった。

b. エネルギー代謝プロジェクト

- ・成人男女 278 名について、職種と運動習慣別に DLW 法で測定した 1 日のエネルギー消費量から求めた身体活動レベル (PAL) を比較した。PAL が大きい職種は製造・労務業、スポーツインストラクター、販売・サービス業、育児・介護中の主婦であり、PAL の低い職種では運動習慣により PAL の差が顕著である可能性がみられた。
- ・小学生から高校生の身体活動量の評価の研究の一環として、小学生について、エネルギー消費量の測定として、DLW 法のサンプルの分析を行った。小学校 1~6 年生の身体活動レベルは 1.70 ± 0.29 であった。学年別、生活内容別の解析を進めている。
- ・69 名の小学生を対象に、様々な活動別の活動強度を測定するとともに、加速度計による推定法の妥当性を検討したところ、加速度の割にメッツ値が小さく、成人と異なる関係式が得られた。
- ・自立した高齢者を対象に、加速度計による異なる速度の歩行のエネルギー消費量の評価の精度について検討した。加速度計はすべての歩行速度でエネルギー消費量を過小評価する傾向にあった。歩行速度と誤差の関係は、成人と異なる可能性がみられた。
- ・幼児 157 名における日常生活の調査から、歩行が中高強度活動時間に大きく寄与していることを明らかにした。成人の場合もそのような傾向はあるものの、両者の関連に性差がみられた。
- ・成人女性 100 名を対象に、体格・身体組成と DLW 法で評価した身体活動レベルの関係を検討し、体脂肪の蓄積が多い者で身体活動レベルが低いことを明らかにした。
- ・睡眠時代謝量とその後の体重増加との間には、有意な関係はみられなかった。
- ・(独) 国立健康・栄養研究所の基礎代謝量推定式 (Ganpule et al., EJCN, 2007) は、肥満者においても基礎代謝量を系統誤差なく推定できることが明らかとなった。

c. 休養プロジェクト

- ・女子長距離選手を被験者とし、夏期合宿が非特異的免疫に及ぼす影響をサイトカイン、ミエロペルオキシダーゼ、血清オプソニン化活性を指標として検討し、血清オプソニン化活性は好中球の活性や数の低下に対して相補的であり、非特異的免疫の維持に重要である事

を明らかとした。

- ・大学生の短距離選手を被験者とし、1 週間の強化合宿による精神的・肉体的疲労を、心理状況アンケートと血清生化学検査結果を指標として調査した。合宿後に疲労感を訴えない選手でも血中逸脱酵素活性は上昇しており、心理状況アンケートのみではオーバートレーニングや慢性疲労の予防に不十分であり、休養の客観的指標として血清生化学検査の必要性を明らかとした。
- ・非特異的免疫能の指標の一つである血清オプソニン化活性の測定に関して検討を行い、測定条件等を報告した。
- ・生理周期による睡眠への影響について女子大学生 11 名を被験者とし、心拍スペクトル解析により睡眠時心臓自律神経バランスの変動として検討した。睡眠に対する主観的満足度 (熟睡感) が高い場合には睡眠時の副交感神経活動が優位となる可能性が示唆され、さらに例数を増やして解析を行う必要があると考えられる。
- ・横浜国立大学との共同研究で安静時代謝をフッド法で測定する場合の測定精度等について、従来に無い動的な検定方法である呼吸器モデルを用いて検討し、成果を報告した。
- ・ノルアドレナリンが視床下部の終板器官周囲部に作用して熱放散を促進し、同時に熱産生を抑制することにより体温を低下させる作用があることを見いだした。このノルアドレナリンの作用は一酸化窒素の産生を介しておきることを明らかにした。また、中枢性肥満における胃の細胞増殖には迷走神経胃枝が不可欠であることを明らかにした。

臨床栄養プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラムの概要

臨床栄養プログラムは、「重点調査研究に関する事項」の「生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究」に対応し、運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテーラーメイド予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた研究を行う。近年、我が国において糖尿病患者は増加の一途をたどり、罹患者数は約 890 万人を数えるに到っている。糖尿病は高齢者における主要な疾患の 1 つであり、糖尿病に肥満・高脂血症・高血圧が合併するメタボリックシンドロームは動脈硬化を促進し、心筋梗塞・脳卒中のリスク増大を介して日本人の健康寿命を短縮する最大の原因となっている。糖尿病などの生活習慣病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病であり、その 1 つ 1 つの因子は単独では生活習慣病を発症させる効果は弱い、複数の因子が組み合わさって生活習慣病を発症させると考えられている。また近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、日本人が欧米人に比べ、膵β細胞のインスリン分泌能が低い(遺伝的素因)ために、高脂肪食などの食事内容の欧米化や運動量の低下といった変化(生活習慣要因)による肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。このような生活習慣病の特性を踏まえて、本プログラムでは糖尿病や動脈硬化症の発症・進展の遺伝的要因、環境要因並びにその分子メカニズムを解明する。

(2) プロジェクトの概要

a. メタボリックシンドロームプロジェクト

生活習慣病を効果的に予防するためには、生活習慣病の根本的な分子病態の解明とそれに立脚した生活習慣への介入が必須である。現在急増している 2 型糖尿病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病である。そこで本プロジェクトは、2 型糖尿病を発症しやすくする遺伝子多型を同定し、その機能が未知のものに対しては、動物モデルを用いて解析する。また半定量食品摂取頻度調査に基づいた個々人の各栄養素摂取量並びに身体活動量と、これまでに同定した 2 型糖尿病を発症しやすくする遺伝子多型の組み合わせが、肥満度や血糖値などの臨床指標にどのように影響を及ぼしているか、コホート集団を対象に調査・解析する。

b. 栄養療法プロジェクト

近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、高脂肪食に代表される食習慣の欧米化や車の普及などによる運動不足といった生活習慣に基因する肥満・インスリン抵抗性に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。そこで、本プロ

ジェクトでは高脂肪食負荷に伴うインスリン抵抗性と代償性のインスリン分泌増加の分子メカニズムについてモデル動物を用いて詳細に検討する。

(3) 構成メンバー

プログラムリーダー：

門脇 孝

プロジェクトリーダー：

窪田直人 (メタボリックシンドロームプロジェクト)

窪田哲也 (栄養療法プロジェクト)

研究員：

井上真理子 (8 月～)

特別研究員：

河合智子 (10 月～)

客員研究員：

門脇弘子 (東京家政学院大学大学院・家政学部児童学科教授、保健管理センター所長)

野田光彦 (国立国際医療センター戸山病院糖尿病・代謝症候群診療部長)

原 一雄 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

協力研究員：

眞鍋一郎 (東京大学医学系研究科循環器内科)

窪田直人 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

松下由実 (国立国際医療センター研究所・国際保健医療研究部国際疫学研究室長)

大石由美子 (東京大学医学系研究科循環器内科) (～8 月まで)

流動研究員：

高本偉碩 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

栗澤元晴 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

技術補助員：

加藤美智子、平野恵子

研修生：

泉 和生 ((財)国際協力医学研究振興財団)

加藤昌之 ((財)国際協力医学研究振興財団)

勝山修行 (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

小島敏弥 (東京大学医学系研究科循環器内科)

笹本さやか (東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科)

内山弓子 (東京家政学院大学大学院・人間生活学研究科)

2. 年度計画

a. メタボリックシンドロームプロジェクト

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

これまで罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析と候補遺伝子アプローチを組み合わせた統合的解析によって PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子、TCF7L2 遺伝子と HHEX 遺伝子が日本人におけるインスリン抵抗性や 2 型糖尿病の感受性遺伝子であることを明らかにしている。さらに平成 20 年度は Genome-Wide Association Studies (GWAS) によって 6 回膜貫通型のカリウムチャンネルである KCNQ1 遺伝子が日本人の 2 型糖尿病感受性遺伝子であることを明らかにした。しかしながら、糖尿病をはじめとする生活習慣病は遺伝素因に環境因子の影響が組み合わさって発症する多因子病であり、個々人の易罹患性を予測するためには、個々の遺伝素因と環境因子に加えて遺伝素因・環境因子の相互作用を考慮に入れた解析を行いそのデータに立脚した易罹患性予測を構築する必要がある。これまでアディポネクチン遺伝子多型は肥満者でより強く血中アディポネクチン値に影響を与えていることを明らかにしているが、本プロジェクトでは、これまでに明らかにしたインスリン抵抗性やインスリン分泌、2 型糖尿病に関与する遺伝子多型、各栄養素摂取量、身体活動量、それらの相互作用項を説明因子として、肥満度、血糖値、糖尿病の有無などの従属変数をどのように説明しうるかをロジスティック解析によって検討する。本年度はコホートの対象者について PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子、TCF7L2 遺伝子、HHEX 遺伝子に加えて、平成 20 年度に明らかにした 2 型糖尿病感受性遺伝子である KCNQ1 遺伝子のタイピングを行い、ロジスティック解析によってインスリン抵抗性、2 型糖尿病発症に関与する遺伝素因と環境因子の組み合わせを抽出する。

●遺伝素因の機能解析

これまでに 2 型糖尿病を発症させやすくしていることが遺伝子多型を利用した患者対照相関解析によって明らかにした遺伝子で、その機能が未知のものについては、遺伝子欠損マウスの解析を行う。昨年度までに当該遺伝子欠損マウスに対してインスリン負荷試験とグルコース負荷試験を行い、インスリン抵抗性は認めず、インスリン分泌低下に伴う耐糖能異常を呈していることを明らかにした。本年度はさらにインスリン分泌低下のメカニズムについて解析するとともに、高脂肪食などの環境因子を負荷して表現型を解析し栄養と遺伝子多型の相互作用について検討を行う。

b. 栄養療法プロジェクト

●糖尿病の研究（インスリン分泌を中心に）

欧米人と同様、日本人においても 2 型糖尿病感受性遺伝子である TCF7L2 は、欧米などの解析から、インスリン分泌能が低下していることが、糖尿病の発症要因であると考えられている。しかしその機能については、全く不明である。そこで本年度は、TCF7L2 の機能を膵 β 細胞で低下させた遺伝子改変モデル動物を作製し、インスリン分泌に与える影響について検討する。

●メタボリックシンドロームの研究（インスリン抵抗性を中心に）

高脂肪食は、肝臓や骨格筋の中性脂肪含量を増加させ、肝臓や骨格筋のインスリンシグナルを様々な分子メカニズムにより障害することで、インスリン抵抗性を惹起すると考えられるが、我々は最近、高脂肪食を負荷した生活習慣病モデル動物では、血管や血管内皮細胞におけるインスリンシグナルが低下しており、このことが骨格筋のインスリン抵抗性に関与している可能性があるという興味深い知見を得た。そこで本プロジェクトでは、血管内皮細胞をターゲットにした遺伝子操作動物を作出しその解析を行うことで、血管内皮細胞におけるインスリンシグナルが全身のインスリン抵抗性に果たす役割を検討する。

3. 進捗状況（成果）

a. メタボリックシンドロームプロジェクト

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

これまでに罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析、候補遺伝子アプローチを組み合わせた統合的解析や GWAS によって PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子、PGC-1 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、HNF4 α 遺伝子、TCF7L2 遺伝子、HHEX 遺伝子、KCNQ1 遺伝子が、日本人における 2 型糖尿病感受性遺伝子であることを明らかにしている。さらに平成 21 年度は、ヒトの脂肪組織を利用し新規糖尿病感受性遺伝子の探索を行った。その結果 BMI22 以上で発現が亢進する遺伝子としてレブチンなど 75 遺伝子が、BMI22 未満でアディポネクチンなど 100 遺伝子が候補遺伝子としてあげられた。今後 SNP による相関解析などの情報と統合してさらに絞り込みを行い、新たな 2 型糖尿病感受性遺伝子を同定する。

●基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

2 型糖尿病感受性遺伝子のひとつで、その機能が未知のものについて、遺伝子欠損マウスを作製し解析を行い、昨年度までに当該遺伝子欠損マウスは、インスリン抵抗性を認めず、インスリン分泌低下に伴う耐糖能異常を呈していることが明らかとなった。そこで本年度は、当該遺伝子欠損マウスのインスリン分泌低下のメカニズムを明らかにするために膵島の面積を検討したところ、コントロールマウスと差を認めなかった。しかし当該遺伝子欠損マウスから単離した膵島では、グルコース刺激後の細胞内 Ca 濃度が有意に低下しており、このマウスで認められたインスリン分泌低下のメカニズムの一つと考えられた。

b. 栄養療法プロジェクト

●糖尿病の研究（インスリン分泌を中心に）

欧米人と同様、日本人においても 2 型糖尿病感受性遺伝子である TCF7L2 は、欧米などの解析から、インスリン分泌能が低下していることが、糖尿病の発症要因であると考えられているが、その機能については、全く不明である。そこで TCF7L2 の機能を膵 β 細胞で低下させたトランスジェニックマウスを作製し検討した。このマウスにインスリン負荷試験、グルコース負荷試験を行ったところ、インスリン抵抗性は認めなかったが、インスリン分泌低下に伴う耐糖能異常を呈し、TCF7L2 はインスリン分泌低下に関与していることが示唆された。

●メタボリックシンドロームの研究（インスリン抵抗性を中心に）

血管内皮細胞とインスリン抵抗性について検討するために、血管内皮細胞において主要な IRS である IRS-2 に着目し、血管内皮細胞特異的 IRS-2 欠損マウス (ETIRS2KO マウス) と高脂肪食誘導性肥満モデル動物 (HFD マウス) を用いて検討を行った。その結果、血管内皮細胞のインスリンシグナル障害により eNOS 活性化が低下し、骨格筋の間質へのインスリンの移行が低下し、インスリン依存性の骨格筋の糖取り込みが障害されるというメカニズムが存在することが示唆された。しかしどのように血漿から間質へのインスリンの移行が調節されているかは不明であった。インスリン投与後の骨格筋におけるインスリン作用のタイムコースは、はじめに動脈中のインスリンが上昇し、ついで毛細血管が拡張し、それに伴い間質のインスリン濃度が上昇、その後比較的速やかにインスリン依存性の糖取り込みが起こることが知られている。そこで両マウスの毛細血管拡張能を検討したところ、骨格筋の毛細血管拡張能の増大が有意に障害しており、その結果血漿から間質へのインスリンの移行が低下したと考えられた。次に eNOS の遺伝子発現を増加する PGI₂ アナログ を両マウスに投与し、インスリン刺激後の eNOS 活性化を改善したところ、ETIRS2KO マウスと HFD マウスで認めた毛細血管拡張能と骨格筋の間質のインスリン濃度低下は、コントロールマウスとほぼ同程度まで増加し、インスリン依存性の骨格筋の糖取り込みが改善した。このことから、血管内皮細胞のインスリンシグナルは、毛細血管拡張能を介し、骨格筋間質へのインスリン移行を増加させ、インスリン依存性の骨格筋の糖取り込みを調節していることが明らかとなった。

栄養教育プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラムの概要

生涯を通じた健康づくりのための健康・栄養教育のあり方や環境整備について、食育・生活習慣病予防・栄養ケア・マネジメント(食介護)の 3 プロジェクトで研究する。

栄養教育(保健指導)や食育、食介護の実践現場で抱える問題点を掘り起こし、より効果的な事業展開をするための方法論や評価法の開発を含める実践的研究を産官学共同で取り組む。子供、成人、高齢者それぞれのライフステージにおける食生活および食習慣と健康に関する問題を明らかにする。また、コホートを使った研究によって、生活習慣病等の疾患発症とそれら疾患の発症に関連する種々の要因(環境要因、遺伝的要因)との関連性を検討し、栄養教育、食育等の実施への基礎データを構築し、テララーメードヌトリションの確立を目指す。

(2) プロジェクトの概要

a. 食育プロジェクト

平成 17 年に施行された「食育基本法」に基づいて、多くの団体(国、地方自治体、地域ボランティア、生産者、企業など)が積極的に展開している食育の実践活動を支援する為の調査研究を行う。また、食育活動展開の為の科学的基盤を得るためにフィールドでの調査研究を実施すると共に食育の現状解析と評価法について研究する。特に、食育の効果的な展開につながる社会環境整備のあり方について検討し、企業や地域との連携のあり方について提案する。

b. 生活習慣病予防プロジェクト

成人期の生活習慣病予防のためのリスク因子抽出・介入方法検討の基礎的基盤を築く。新規健診・保健指導に寄与するため、メタボリックシンドローム予備群・有病者群を減少させる効果的介入の科学的基盤を確立する。肥満者を対象に運動および栄養教育による介入研究を実施し、肥満や生活習慣病の発症にかかる様々な環境要因(食事・生活習慣・社会環境等)や遺伝的要因を総合的に検討し、効果的な栄養教育の方法や成果にかかる評価指標について研究する。また、大規模コホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子抽出のための縦断研究を行い、肥満や糖尿病と遺伝的要因や食生活・運動習慣や心理的要因との関連性について解析を行い、肥満や糖尿病予防のための栄養教育法を確立する。

c. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

高齢者の食環境を調査研究し、QOL を高く保つ方法を研究する。摂食・嚥下困難を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策を立案する。異分野の専門家によるワークショップを開催し、実行に向けて改善案を提言する。高齢者施設や在宅での摂食・嚥下困難を伴う高齢者への栄養ケア・マネジメントの質的向上を目指して、わが国の高齢者の介護現場で

の食をめぐる問題点を抽出し、その改善策を検討する。特に、食介護(食を通じた介護)を、食事を通じての全人的ケア・マネジメントとして位置づけ、「最期まで口から食べる幸せ」を維持できる食介護を目指して、産官学共同で食介護のあり方について検討する。

(3) 構成メンバー

プログラムリーダー：

饗場直美

プロジェクトリーダー：

饗場直美(生活習慣病予防プロジェクト)

Melissa Melby(食育プロジェクト)

手嶋登志子(栄養ケア・マネジメントプロジェクト)

上級研究員：

山田晃一

特別研究員：

中出麻紀子

客員研究員：

渡邊 昌(生命科学振興会)

石渡尚子(跡見学園)

協力研究員：

平川あずさ(生命科学振興会)

石田淳子(浜松大学)

山田五月(多摩小平保健所)

川上純子(相模女子大学短期大学部)

吉田 智(サラヤ株式会社)

技術補助員：

竹澤 純、海北倫子

研修生：

清水智美(御茶の水女子大学)

2. 年度計画

a. 食育プロジェクト

- ・食育に関係する文化的要素を把握するため、共通認識分析(Weller 2007)を行い、食育実践にかかる問題について、食育に対する専門家と一般の人との間の認識の乖離や共通認識を明らかにする。
- ・現在最も朝食欠食率の高い若年成人における朝食欠食に関する要因を解析するため、親子を対象としたアンケート調査を実施する。大学生とその親に対して食生活や食習慣、食嗜好についての調査を実施する。特に幼児期の親の子どもへの食態度や食意識について調査し、親の意識や食態度が子どもにどの様に伝播するのか明らかにする。
- ・DOHaD 仮説(バーカー仮説)を検証するため、母子健康手帳を使って、妊娠期の母親の状況、胎児期の発育状況から出生後 6 年間の母子の情報を収集し、胎児期、出生期、乳児・幼児期の発育状況と学童期の健康状態(肥満等)の関連性を明らかにし、健全な子供育成のための、母子健康のあり方について検討する。
- ・学校における栄養教諭の食育の効果について評価し、

より効果的な栄養教育の在り方について検討する。

- ・食育推進のための環境整備を目指して、食品産業との連携を図り、よりわかりやすい新たな栄養表示法について検討する。

b. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・平成 18 年度から継続して行っている減量プログラムのフォローアップ調査を実施する。減量成功と不成功にかかる要因、リバウンドにかかる要因を明らかにするために、質的研究と量的研究の両面から解析し、介入後の体重維持へ向けたアプローチ（フォローアップ）を明らかにする。
- ・大規模コホートを設定し、肥満および糖尿病のリスク因子解析のためのデータ収集とデータベース作成を行う。
- ・特殊環境での生活習慣病予防のための栄養教育の在り方や給食サービスの在り方について明らかにするために、南極越冬隊および長期航海船舶での食事提供の実態と隊員（船員）の食事摂取や生活状況、健康状態についての実態調査を行う。
- ・事業所における効率の良い保健指導の在り方を（保健指導のあり方および事業所での保健指導実施のための環境整備）検討するために、2 企業との共同研究において、IT を用いた特定保健指導の介入効果についての研究を行う。

c. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

- ・昨年度実施した全国 6 地域の全高齢者施設における咀嚼・嚥下困難者に対する食介護に関するアンケート調査データを解析し、わが国の高齢者施設における食事提供に関する問題点を明らかにする。
- ・ワークショップを開催し、産官学共同で、食事提供について共通認識のもとで、食介護の観点から咀嚼・嚥下困難者に対する食事提供のあり方について確立することを図る。
- ・高齢者の介護の在り方を検討するために、高齢者施設における生活状況調査（日常活動調査）を実施し、高齢者の身体的機能低下に対してどのような介護支援が必要か検討する。

3. 進捗状況（成果）

a. 食育プロジェクト

食育に関する問題把握とその背景調査に関する準備を行った。

- ・Cultural Domains 調査による共通認識分析についてはアンケート調査票およびフリーリストを作成し、25 名のインタビューを実施した。
- ・DOHaD 仮説を検証するため、現在の肥満の有無と出生およびその後の体格・生活状況との関連について母子手帳およびアンケート調査を行い、520 冊の母子手帳データを収集し、データベースを作成した。
- ・若年成人（20 歳代）の朝食欠食の要因を明らかにするために、親子を対象とした食意識・食態度、親の子どもへの食育・食事提供態度（CFSQ）などの項目を含むアンケートを作成し、調査を開始した。現在約 180 組が調査終了した。

- ・学校栄養士及び栄養教諭による食育の効果を評価するための断面調査の準備を開始した。フィールドの設定として全国 7 都道府県の小中学校 50 校の保護者約 25,000 人を対象として設定した。
- ・全国食育推進大会に参加し、食育の啓発活動を行った。本年度のテーマは「朝食欠食」「バランスのとれた食事」とした。来ブース者は約 1,000 名であった。
- ・わかりやすい栄養表示の普及を目指して、食品関連企業との検討会を通じて、新たな栄養表示について検討した。

b. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・佐久肥満克服プログラムにおいて、A 群（RCT 介入群）における 2 年フォローアップ調査および B 群年フォローアップ調査を実施した。現在データベースの更新を行っている。また、対象者における肥満との関連性が報告されている遺伝子多型解析を継続実施し、女性において血清グレリン遺伝子多型と肥満とのあいだの関連性について明らかにした。減量成功と不成功における意識やストレスの有無などの関連について明らかにした。
- ・人間ドック受診者を対象とした大規模コホートを確立し、肥満および生活習慣病のリスク因子解析のためのデータ収集を開始した。現在のところ約 2,000 名の登録者と 1,500 名のデータベースを作成した。
- ・事業所における効率の良い保健指導の在り方を検討するために、2 企業との共同研究において、IT を用いた特定保健指導の介入効果についての研究を開始した。
- ・特殊環境における食事のあり方と健康との関連性を明らかにするために、2 研究所と共同で（南極昭和基地：国立極地研究所との共同研究、航海中船舶：航海訓練所との共同研究）、給食内容および摂食状況等についての調査研究を開始した。南極越冬隊における給食調査は年 4 回、3 カ月毎に食事調査を実施した。

c. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

- ・2007 年度に全国 6 ブロックで高齢者施設を対象として実施した食介護に関するアンケートの解析を進め、高齢者施設での食形態決定に栄養士が関与すると、より科学的なアセスメントの実施と、より軟らかい形態の食事の提供がされていることを明らかにし、学会等において報告した。現在、ミールラウンズを活用した摂食状況アセスメント指標を確立するための追跡調査を実施するためのアンケートを作成している。
- ・食介護を含めた介護の在り方を検討するために、高齢者施設の高齢者の生活機能調査を行い、高齢者の介護度と日常生活の活動 56 項目について、介護度の変化と日常生活の活動との関連性と、3 年間の日常生活の身体機能の変化について検討をし、男性と女性では低下する機能が異なることを明らかにした。
- ・介護にかかわる異職種参加のワークショップを開催し、全国調査結果から得られた科学的根拠を基に、産官学で食介護の在り方や今後の方向性について共通認識を確認すると共に、福祉施設での食介護をするための栄養士の卒後教育のあり方について産官学で検討した。

基礎栄養プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラム（プロジェクト）の概要

a. 脂質・糖代謝プロジェクト

マクロニュートリエント（脂質、炭水化物、蛋白質）の過剰摂取、過少摂取によって生じる病態や疾病の発症機序を分子レベルで解明し、その機序から疾病対応の食事、運動療法を考案する。

(2) 構成メンバー

プログラムリーダー：

江崎 治

プロジェクトリーダー：

三浦進司（脂質・糖代謝プロジェクト）

上級研究員：

山崎聖美

研究員：

千葉 剛

客員研究員：

亀井康富（東京医科歯科大学）

渡辺光博（慶應義塾大学）

高橋真由美（お茶の水女子大学）

技術補助員：

甲斐裕子

岸本杏子

榊原圭代子

白石梨沙（～8月）

研修生：

只石 幹（東京農業大学）

2. 年度計画

a. 脂質・糖代謝プロジェクト

・運動による肥満/糖尿病予防機序の解明

運動トレーニングは筋肉における糖および脂質代謝を促進し、脂質、糖質の過剰摂取によって生じるインスリン抵抗性を改善する。その原因の一つは、筋肉で発現するグルコース運搬体 4 型（GLUT4）の量を増加させるためである。又、脂肪酸の燃焼しやすい体質になり、肥満になりにくくなる。本年度は、運動中（筋収縮に伴う）及び運動トレーニング後に生じる脂質代謝促進メカニズムの解明を試みる。

・肥満/脂肪肝発症原因別の食事療法の考案

飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、砂糖、アルコールを多く摂取すると、脂肪肝や肥満を発症する。これらの作用機序は栄養素により異なる。一方、魚、お茶（カテキン）、大豆の摂取は脂肪肝や肥満を予防するように働く。これらの予防機序も食品により異なる。どのような機序で生じる脂肪肝・肥満に対して、どのような食品を摂取することが最適か明らかにする。

・脳出血予防のための食事療法の考案

人に於いては低蛋白食及び低脂肪食は脳出血罹患のリスクとなる。動物モデル(SHRSP)においても蛋白質摂取量は脳出血罹患頻度を決める主要な因子である。一方食事制限は慢性炎症を抑え、脳卒中罹患を予防する可能性がある。本年度は低蛋白食でない食事制限による脳出血罹患への影響を、SHRSP における脳血管内皮細胞機能の面から調べる。

3. プロジェクトの進捗状況（成果）

a. 脂質・糖代謝プロジェクト

・運動による肥満/糖尿病予防機序の解明

昨年度の研究から、骨格筋の $\alpha 2$ -AMPK 活性を抑制した「骨格筋特異的優性抑制型変異体 $\alpha 1$ -AMPK 発現マウス」を作製し、骨格筋での脂肪酸代謝亢進作用の調べた所、低強度運動による脂肪酸酸化亢進作用はこのマウスでも認められ、 $\alpha 2$ -AMPK 活性化によるものでないことが明らかになった。今年度は AMPK の上流に位置する LKB1 活性を抑制したマウスを同様な方法で作成した。このマウスでは低強度運動による脂肪酸酸化亢進作用は認められず、LKB1 は運動による脂肪燃焼の亢進に必須であることがわかった。

・肥満/脂肪肝発症原因別の食事療法の考案

飽和脂肪酸を多く含む食事は多価不飽和脂肪酸を含む食事に比べ、脂肪肝になりやすい。B6 マウス実験食摂取後 4-10 週で、飽和脂肪酸を多く含む食事を摂取した群では PPAR $\gamma 2$ の活性化と脂肪肝が認められた。アデノウィルスを用いた PPAR γ のノックダウンを行うと、PPAR γ 蛋白量が減少するとともに、脂肪肝の改善が認められた。飽和脂肪酸摂取による脂肪肝は肝臓での PPAR γ 活性化を抑制することで治療できる可能性が示唆された。

・脳出血予防のための食事療法の考案

脳出血を発症する SHRSP に於いて、50%の食事制限を行うと脳出血の著しい減少が認められた。SHRSP は脳出血を罹患しない SHR に比べ、炎症マーカーである血中 IL-1 β や TNF- α 量が多いが、食事制限により SHRSP の炎症マーカーは減少した。食事制限は炎症を減弱し、脳卒中を予防する可能性が示唆された。

食品保健機能プログラム

1. プログラム／プロジェクトの概要

(1) プログラムの概要

中期目標は、健康増進法に基づく業務、及び、「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究を行う。

○健康増進法に基づく業務

- ・厚生労働省（消費者庁）が収去した特別用途食品、栄養表示された食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。
- ・特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを2ヶ月以内に行うことを目指す。
- ・分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

○健康食品を対象とした食品成分の有効性及び健康影響評価に関する調査研究

- ・保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。
- ・栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、癌抑制及び動脈硬化抑制効果等、ヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。

(2) プロジェクトの概要

a. 食品分析プロジェクト

- ・特別用途食品（病者用食品、乳児用調製粉乳、えん下困難者用食品、特定保健用食品など）許可時の食品成分分析を行う。
- ・収去食品の分析を行う。
- ・一般栄養成分及び特定保健用食品関与成分の分析方法の改良を行う。
- ・特定保健用食品の審査において、厚生労働省（消費者庁）に関与成分分析法について専門的観点から情報を提供する。

b. 補完成分プロジェクト

- ・予防・治療が望まれる慢性疾患に対して栄養素以外の食品成分から有効な成分を検索し、その有効性を評価する。

c. 食品機能プロジェクト

- ・食品の持つ抗酸化能の生体影響を明らかにするため、日常的に摂取している食品に着目して抗酸化力及び含有抗酸化成分の測定に関する基礎的研究を行う。
- ・食品の抗酸化能について、他機関と連携して統一的な

分析方法の確立を目指す。

- ・栄養素及び非栄養素成分、特に構造脂質、脂溶性ビタミン、ポリフェノール等について、その有効性と安全性の評価を行う。

(3) 構成メンバー

プログラムリーダー：

大森豊緑（～4月）

石見佳子（5月～）

プロジェクトリーダー：

永田純一（食品分析プロジェクト／～8月、食品機能プロジェクト／9月～）

矢野友啓（補完成分プロジェクト）

石見佳子（食品機能プロジェクト／併任、～8月、食品分析プロジェクト／併任、9月～）

研究員：

松本輝樹

竹林 純

山内 淳（併任、2月～）

特別研究員：

城内文吾（～2月）

大瀧（東京）裕子（5～6月、リサーチレジデント／7月～）

客員研究員：

鈴木靖志（サラヤ株式会社）

太田篤胤（城西国際大学）（5月～）

呉 堅（日清オイリオグループ株式会社中央研究所）（5月～）

藤井康弘（大塚製薬佐賀栄養製品研究所）（5月～）

協力研究員：

佐藤洋美（千葉大学大学院）

木戸和貴子（武庫川女子大学）

千葉大成（城西大学）（5月～）

王 新祥（北京中医薬大学）（5月～）

佐藤七枝（聖徳大学）（5月～）

技術補助員：

佐賀加奈子（～7月）、中村 礼、鈴木春奈、山田 彩（～6月）、宮澤未緒、陳 健斌、小坂谷典子（5月～）、谷中かおる（5月～）、石川由花（5月～）、吉田真咲（5月～）

研修生：

中島啓介（千葉大学大学院）

安部文子（実践女子大学大学院）

2. 年度計画

a. 食品分析プロジェクト

- ・厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務及び、特別用途表示の許可など

を行うに当たり、申請者の申請に基づく試験の業務を的確、迅速に実施する。

- ・特定保健用食品関与成分の分析法、標準品の妥当性等を随時検討する。
- ・試験検査機器の有効利用及び整備を強化して食品試験業務の適性かつ効率的な実施を図る。
- ・厚生労働省（消費者庁）への特定保健用食品申請時の関与成分分析とそのヒアリングに対応する。
- ・標準作業書の実施と外部精度管理機関への参加を実施する。

b. 補完成分プロジェクト

- ・大豆食品加工の際に未利用な画分に多く含まれる機能性成分として特定された BBI について、BBI の体内動態を解析するための評価法の確立を目指す。
- ・昨年度に引き続き、トコトリエノールの補完成分としての有効性を高める技術開発を行い、その有用性を評価する。

c. 食品機能プロジェクト

- ・食品の持つ抗酸化能の生体影響を明らかにするため、日常的に摂取している野菜に着目して抗酸化力及び含有抗酸化成分の測定に関する基礎的研究を行う。
- ・食品の抗酸化能測定法である H-ORAC (Hydrophilic-Oxygen Radical Absorbance Capacity) 法の標準化を他機関と連携して行う。
- ・微生物定量法が主となっているビタミン類の測定に関して、食品形態に対応した機器分析方法の導入を検討する。
- ・栄養素及び非栄養素成分、特に構造脂質、脂溶性ビタミン、大豆たんぱく質、ポリフェノール等について、その有効性と安全性の評価を行う。

3. 進捗状況(成果)

a. 食品分析プロジェクト

- ・平成 21 年度での申請食品 40 検体（特定保健用食品 33 検体、その他の特別用途食品 7 検体）の分析を行うとともに、平成 20 年度の収去食品 99 品目の分析を遅滞無く行った。
- ・標準作業書の実施に向けた対応を行った。
- ・厚生労働省（消費者庁）への特定保健用食品申請時の関与成分分析に関するヒアリングに出席すると共に、問題点の見出された分析法については適宜個別指導を行なった。（ヒアリング：20 日／年及び調査会・部会合計：8 日／年）
- ・分析方法の資料及び標準品等の情報を収集し、分析法の見直しを行った。
- ・登録試験機関間の分析精度管理を目的とし、食品中のナトリウム、ビタミン D 及び B₁₂ の分析について、調製粉乳を検体として栄養成分量を非明示とし、室間試験を実施した。
- ・ビタミン D の分析に関しては、分析方法を公定法に準じた方法に統一して室間試験を行った。溶液中の夾雑物の影響を抑えるための分取及び分析 HPLC 条件の

検討及び煩雑な操作の簡便化により再現性を向上するための固相抽出を利用した分析法の開発を行った

- ・簡便かつ迅速な分析法の開発を目的に、ビタミン B₁₂ の HPLC 法による分析を検討した。ビタミン B₁₂ の分析において、固相抽出法を用いることにより、機器分析法による定量化の目処が立った。

b. 補完成分プロジェクト

- ・慢性疾患の補完・代替医療に幅広く適用可能な新たな成分として特定した大豆由来の Bowman-Birk protease inhibitor (BBI) の生体内動態を解明することを目的とし、BBI を定量するための新規 ELISA 法の構築を行い、標準品を用いた解析から、他のペプチドの ELISA 法と同程度かそれ以上の感度を持つ新規 BBI 定量用 ELISA 法の構築に成功した。
- ・トコトリエノール (T3) のシクロデキストリン (CD) 包接化により、T3 の AUC の改善が認められ、CD 包接化による T3 の生体利用性の向上が認められた。さらに、CD 包接化による T3 の生体利用性の向上に伴い、T3 の腫瘍組織への貯留量が増加し、T3 の抗がん作用が CD 包接化により増強されることが確認された。

c. 食品機能プロジェクト

- ・平成 20 年家計調査で購入重量に基づき設定した「モデル野菜」について、主としてポリフェノール類に起因する水溶性画分の抗酸化能を H-ORAC 法で測定した。また、「モデル野菜」には、カフェ酸及びケルセチンをアグリコンとするポリフェノール類が主として含まれることを明らかにした。
- ・前年度に行った ORAC 法の試験室間再現性試験で良好な再現性が得られなかった原因について検討し、改善法を作成した。改善法について試験室間再現性試験を行い、精度の向上を確認した。
- ・閉経後女性を対象とした大豆イソフラボンの代謝産物（エクオール）の介入試験を終了し、有効性・安全性の評価を行った。
- ・新規機能性脂質のデザインと有効性評価を行った。イカ表皮より高純度（約 90%）DHA 含有リン脂質 (PC) を分離精製し、細胞を用いて脂肪蓄積に及ぼす影響を調べた。これまでのところ、高純度 DHA 含有 PC は、細胞分化に影響を及ぼさないが、細胞内脂質蓄積を抑制する傾向が観察されている。
- ・ポリフェノールを豊富に含む果実より抽出した粉末の機能性に着目し、体脂肪蓄積や脂質代謝に及ぼす影響を調べた。これまでのところ、中性脂肪濃度低下と体脂肪低減傾向を観察した。
- ・類似の機能性を有する食品および食品成分の併用摂取による有効性と健康影響に関する評価研究を行った。
- ・特定保健用食品の関与成分と医薬品の併用摂取による有効性および健康影響に関する評価研究を行った。

情報センター

1. センター／プロジェクトの概要

(1) センターの概要

情報センターは、当研究所の情報発信の中核としての役割を担っており、健康と運動・栄養に関する研究成果や関連情報を収集・分析・蓄積し、国民の健康づくりに役立つ情報としてホームページやニュースレターを通じて発信する。また、特定保健用食品（特保）や栄養機能食品といった保健機能食品制度に関する基礎的情報、いわゆる健康食品が関連した被害情報など、国の健康や食品・栄養に係わる制度を効果的に普及させるための取り組みを行う。

(2) プロジェクトの概要

a. 健康食品情報プロジェクト

健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止ならびに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。情報はホームページで一般公開し、ページアクセス数を6,000件/日以上維持できるようにする。また、社会的ニーズの把握、消費者とのリスクコミュニケーションの一つとして、現場の専門職、関係機関との連携が可能な新たなシステムの構築を検討する。

b. 健康・栄養情報プロジェクト

所内の他のプログラムとの連携等により、これまでに収集・蓄積してきた情報を、ホームページ等を通じて継続発信するとともに、必要な情報の更新・解析に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門職が必要とする情報を、各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。

c. IT支援プロジェクト

研究所の活動情報についてのデータベースや特許情報他、研究所の対外的な総合情報発信の基盤として、インターネットワーク、内部における研究活動の促進とデータの活用を促すためのイントラネットワーク、双方にまたがる総合的なネットワークシステムの基盤整備を行う。

(3) 構成メンバー

センター長：

梅垣敬三

プロジェクトリーダー：

梅垣敬三（健康食品情報プロジェクト/併任）

卓 興銅（健康・栄養情報プロジェクト）

廣田晃一（IT支援プロジェクト）

上級研究員

笠岡（坪山） 宜代（健康食品情報プロジェクト/併任）

特別研究員：

佐藤陽子

勝浦 彩

客員研究員：

橋本洋子（秋草学園短期大学）

梅國智子（人間総合科学大学）

江指隆年（聖徳大学大学院）

久保和弘（奈良文化女子短期大学）

技術補助員：

青木律子（～1月）、海老原美樹、古池直子、小島彩子、佐藤美津代、鈴木順子、狩野照誉、高橋穂澄、瀧 優子（～4月）、瀧沢あす香、中西朋子、西谷えみ、西山聡子、針生和典、細井俊克、横谷馨倫

研修生：

渡辺早季（東京家政大学）

藤丸愛理（東京家政大学）

西邑瑛美（昭和女子大学）

千原佑香（昭和女子大学）

Lin Ning（第二軍医大学（中国））

近藤 渚（昭和女子大学、8月～）

2. 年度計画

a. 健康食品情報プロジェクト

- 科学的根拠に基づく最新の健康食品に関わる情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積して「健康食品の安全性・有効性情報」のホームページ上で公開するとともに、消費者とのリスクコミュニケーションを図るためにNRなど現場の専門職の協力、他の組織や機関との連携ができるシステム構築をさらに進める。
- 新たに「特別用途食品・栄養療法エビデンス情報」の運用を開始する。

b. 健康・栄養情報プロジェクト

- 当研究所に必要な健康・栄養関連の図書等の情報を調査し適宜整理する。
- 一般および専門職からの電話やeメール等による相談に適切に対応するとともに、ニュースレター（4回）の配信や年1回オープンハウスの実施を通して、研究所の活動状況を積極的に紹介する。
- 健康・栄養情報（FFFデータベース等）の継続的な発信および情報の更新・充実に努める。
- 話題の健康・栄養情報を収集し、系統的レビュー・メタ分析等により、さらに科学的エビデンスレベルの高い情報として発信する。

c. IT支援プロジェクト

- 外部からの意見・要望等を広く効率的に把握するためのインターネットサイトの整備をさらに進め、収集された意見・要望等をすみやかに内部の業務に反映する

ためのイントラネット（周知用掲示板、メーリングリスト等）の整備を進める。

- ・所内各プログラムにおける研究成果および研究所内外の関連情報を集約・加工し、ホームページ等を介して、国民が適切な運動・食生活を実践できるような情報として提供する。また、これまで収集・蓄積してきた健康・栄養情報の内容を適宜見直して充実させる。
- ・ホームページ等を活用した諸規程、職員の公募等、必要な情報開示を情報のセキュリティを確保しつつ実施する。
- ・イントラネットの活用方法の検討を行う。

3. 進捗状況（成果）

a. 健康食品情報プロジェクト

- ・「健康食品の安全性・有効性情報」に関して、ニーズ把握およびデータベースへのデータ追加を行った。作成した情報の内訳は、新規情報が約 160 件、更新・追記情報が約 260 件である。登録会員への更新情報メールの配信（毎月）、健康食品に関するメールや電話での問い合わせ、新聞などの取材に適宜対応した。サイトへのアクセス数は 8,000 件/日以上維持できていた。
- ・新しく「特別用途食品・栄養療法エビデンス情報 (<http://fosdu.nih.go.jp/>)」のデータベースを構築し、栄養士会等を介したサイトの利用や改善に関する調査を実施し、改修後に一般公開した。
- ・就学前の子どもを対象にサプリメント利用に関する予備的な実態調査を行い、親のサプリメントの利用や栄養・食品に関する誤解が、子どものサプリメント利用に関連していることを明らかにした。
- ・消費者とのリスクコミュニケーションを図るため、NR 協会等を介した効果的な情報提供法の検討、「特定保健用食品の正しい利用法」や「子供のサプリメント利用に関する情報」についてパンフレットを作成するとともに、ホームページ上で公開した。それらの公開情報の内容は全国紙等に紹介され、特に子供のサプリメント利用に関する情報は、17 の新聞に取り上げられ大きな反響を受けた。子どものサプリメント利用に関する保護者の意識調査、サプリメントアドバイザー養成機関ならびにアドバイザースタッフ個人の実態調査も行った。

b. 健康・栄養情報プロジェクト

- ・平成 21 年 9 月 12 日（土曜日）にオープンハウス（研究所公開）を実施した（参加者は 216 名）。食生活診断、健康体力診断、骨密度測定、健康フィットネス体験、講演、所内見学を例年通り実施し、NR 協会の協力を得て、健康食品相談も行った。
- ・機関誌「健康・栄養ニュース」の発行に努めた。
- ・論文の系統的レビュー・メタ分析手法により、大豆イソフラボンの骨密度、骨代謝マーカー、血圧に対する影響を評価した。
- ・当研究所に必要な健康・栄養関連の図書等の情報を調査し適宜整理した。また、図書業務（契約雑誌の整理・オンライン閲覧環境の設定、文献の取り寄せ、図書検索システム LIMEDIO の整備など）を遂行した。

- ・機能性食品因子データベース（FFF データベース）の維持管理、外部問合せへの対応に努めた。9 月初めにトップページに再度アクセスカウンターを設置し、現在トップページへの訪問は毎月 4,000 件程で推移している。
- ・消費者庁食品表示課に業務協力し（9 月までは厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室）、特定保健用食品の表示許可にかかる審査に関する助言等を行った。

c. IT 支援プロジェクト

- ・外部からの電話やメールでの問い合わせの適切な対応に努めた。ホームページに設けた問い合わせフォームを介したメールでの問い合わせは 380 件であった。ホームページ上に公開している「よくある質問 (FAQ)」のページに新規コンテンツを追加した。
- ・コミュニケーションチャンネル「健康・栄養フォーラム」における外部からの問い合わせは、92 件であった。
- ・研究所の活動内容・成果等をメールニュースの形で 1,682 人の読者に 4 回配信した。またホームページにおいて、研究所の最新情報を What's New の形で 82 件掲載した。
- ・マンスリーレポートのデータ登録数は、1,278 件であった。また、最新健康・栄養ニュースへのデータ登録数は、3,553 件であり、最新健康食品文献リストへのデータ登録数は 41,310 件であった。
- ・サイトの一日あたりの平均アクセス（ページビュー）数は、HFNET を除く研究所全体で 8,500 件/日だった。
- ・所内 LAN に新機能としてソーシャル・ネットワーキング機能を試験的に追加し、業務の進捗状況の管理をより一層容易な状況とし、事務部門との情報共有の促進を図った。
- ・情報セキュリティ確保のために、セキュリティ用ハードウェアのアップデートを月 1 回行い監視体制の強化を継続するとともに、年 6 回のセキュリティ講習会（感染研と共同開催）、年 2 回のセキュリティ監査（1 回は感染研と共同実施）を実施した。また「セキュリティ対策実施手順書」の見直しを行った。

国際産学連携センター

1. センター／プロジェクトの概要

(1) センターの概要

国際産学連携センターは、当研究所の対外部門として、アジア地域をはじめとする国際的な研究ネットワークの構築、海外との学术交流や若手外国人研究者の受け入れ、大学や企業等との連携による研究開発、国際シンポジウムやセミナーの開催など、当研究所が国内外の関係機関等と連携して行うさまざまなプログラムの調整役を担っている。

(2) プロジェクトの概要

a. 国際栄養プロジェクト

国際栄養プロジェクトは国際的な学术交流(招へい事業、セミナー開催等)、情報提供及び国際機関との協力を行う。具体的には、海外からの研修生の受け入れ(「若手外国人研究者招へい事業」等)、国際シンポジウムの開催、アジア各国との共同研究、WHOなど国際機関への協力・連携、海外向け情報発信等を通じて、国際的な研究ネットワーク構築を図ることを目指している。

b. 生物統計プロジェクト

特定保健用食品等の有効性評価を目的としたヒト試験デザインに関して、主として統計学的観点からの検討を行う。メタボリックシンドローム等に関連する各種健康・栄養指標に関して、国全体としての推移、また都道府県地域差等を評価する手法の検討及び将来予測のためシミュレーションを行う。

c. NR・セミナー・社会ニーズ関係

「対外部門」としての国際産学連携センターの中で、講演会・セミナー等を通じた人材育成、栄養情報担当者(NR)の学術的基盤づくり、行政部門との各種調整等を行っている。

・NR業務(事務部業務課との連携)

栄養情報担当者(NR)事業の学術面(試験、研修等)への対応を行う。NR制度のあり方や研究所の関わりについて検討を行う。

・セミナー業務

管理栄養士等の専門家を対象としたセミナーの企画・運営、外部団体・機関と連携した各種人材育成プログラムの企画等を、中長期的な視点から行う。研究の成果を社会に還元するため、一般向けセミナーを開催する。社会的ニーズを把握するため関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握する。

(3) 構成メンバー

センター長:

芝池伸彰 (～9月/理事併任)

西 信雄 (10月～)

プロジェクトリーダー:

芝池伸彰 (国際栄養プロジェクト/～9月)

西 信雄 (国際栄養プロジェクト/10月)

笠岡(坪山) 宣代

(国際栄養プロジェクト/11月～/調整担当上級研究員併任/情報センター健康食品情報プロジェクト上級研究員併任)

水野正一 (生物統計プロジェクト)

上級研究員:

笠岡(坪山) 宣代

(国際栄養プロジェクト/8月～10月)

研究員:

三好美紀

協力研究員

菊池有利子 (ミネソタ大学)

細川裕子 (目白大学)

桑木泰子 ((株) ウェル・ビーイング)

技術補助員:

角倉知子、小原恭子、マサハート由華 (12月～)、當間奈月 (1月～)

研修生:

Hyunju Jung (ソウル国立大学)

2. 年度計画

a. 国際栄養プロジェクト

「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」で2名(中国、韓国)の研究者を受け入れる。また、同事業による過去の招へい研究者と受入研究者との共同研究の推進に努める。第4回アジア栄養ネットワークシンポジウムを開催し、アジアの栄養研究所とのネットワークづくりを進める。WHO指定研究協力センターを設置する。共同研究、人材育成、情報発信等のアジア西太平洋諸国への協力活動を強化する。WHO、CODEX等の国際機関への協力を積極的に行い、連携を強化する。研究所の研究成果、栄養行政に関する資料について、適時、英語版ホームページを通じて情報発信を行う。

b. 生物統計プロジェクト

・食品の機能性評価

臨床試験のデザイン、結果の解析、メタ分析等を実施する。

・メタボリックシンドローム関連健康指標評価

特に、腎機能の維持と低下予防に焦点を当て、臨床、人間ドック、地域住民健康成績から長期縦断的データを構築し、栄養疫学的な解析を実施する。

c. NR・セミナー・社会ニーズ関係

NRの資格取得後のフォローアップ研修として、全国

5～6 カ所で研修会を実施する。NR制度の認知度向上、職域拡大等を目的としてNRに関する情報収集、モニタリング調査等を行うとともに、他のアドバイザースタッフ養成団体等との連携を図る。一般向けの公開セミナー(第 11 回)を、平成 22 年 1 月に東京で開催する。健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等他機関との連携、およびニーズ把握のための意見交換会を年 6 回程度開催する。

3. 進捗状況(成果)

a. 国際栄養プロジェクト

・海外の研究機関との交流・共同研究および国際機関の活動への対応

栄養と肥満に関する共同研究をアジアの栄養研究所(ベトナム、フィリピン)と実施している。また、前年度より引き続き、WHO西太平洋地域における“Diet, Physical Activity and Population Health(仮称)”に関するWHO指定研究協力センターの設立に向けて準備中であり、WHO本部およびWHO西太平洋地域事務局の栄養担当官らと具体的な内容等の調整を進めている。

・海外からの訪問・研修受入

本年度の「若手外国人研究者招へい事業」では、中国より 1 名、韓国より 1 名の研究者を受け入れ、受入研究者との共同研究を進めた。来年度の招へい研究者 2 名が決定しており、現在、受入および来日に係る準備手続きを進めている。

また、他機関からの依頼による研修受入れとして、本年度はJICAより 1 件(JICA国別研修(イエメン共和国)1 日)を受け入れ、講義を実施した。海外からの視察訪問も随時、要請に応じて受け入れており、本年度は台湾と中国からの研究者の訪問を受け入れ、意見交換を開催した。

・国際シンポジウム・セミナー

本年度開催予定であった第 4 回アジア栄養ネットワークシンポジウムは、「IUNS(国際栄養科学連合)栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ(平成 22 年 9 月 7-9 日開催予定)」との共同開催により、拡大して開催することとして準備を進めている。関連シンポジウムとして、国際栄養シンポジウム「米国のビタミンD問題からアジアの糖尿病まで」を 11 月 30 日に開催し、アジアを含む諸外国の最新情報の提供及び意見交換、議論を行った。今後も参加者も含めた国々で引き続き情報交換を行うこととした。

・広報・情報発信

英語版ホームページを通して、研究所の研究成果、栄養行政の情報を発信している。研究所のニュースレター「健康・栄養ニュース」(年 4 回発行)の英語版「Health and Nutrition News」を作成し、英語版ホームページに掲載している。英語版ホームページに問い合わせ用メールアドレスを掲載し、海外からの問い合わせに対応している。

b. 生物統計プロジェクト

食品の機能性評価のための臨床試験のデザイン、結果

の解析、メタ分析において、生物統計学側面からサポートを行った。現在、日本人男性では 50 人に 1 人、女性では 100 人に 1 人程度が透析の生涯リスクを有することから、メタボリックシンドローム関連指標のなかでも腎機能の維持と低下予防のため、運動や食生活習慣のなかに予防要因を見出す目的で、長期継続健診受診記録をデータベース化し、栄養疫学的に解析することを提案した。長期にわたる食事・栄養療法の臨床実践データの再解析から、たんぱく質摂取レベルが食事・栄養療法介入後の腎機能低下に及ぼす影響としては、低たんぱく食により、尿たんぱく量が減少し、ひいては腎機能維持に有利であることが示唆された。

c. NR・セミナー・社会ニーズ関係

・NRの養成・認定

公平・公正な制度運用を期すために、外部有識者を加えたNR認定委員会を開催し、厳格な試験を実施した。

平成 21 年度に実施した「第 6 回栄養情報担当者(NR)認定試験」(平成 21 年 6 月 7 日実施)では、新たに 613 名のNR(受験者数 1,072 名、合格率 57.2%)が誕生し、累計で 4,093 名にNRの資格を付与した。また「第 7 回資格確認試験」(平成 21 年 11 月 15 日実施)では、受験者数 246 名、合格者 123 名(合格率 50.0%)であった。

養成講座については、平成 21 年度に新たに 1 講座を指定し、全国における講座数は計 41 講座となった。

・NR事業の学術面への対応

資格確認試験(第 7 回;平成 21 年 11 月)、NR認定試験(第 6 回;平成 21 年 6 月、第 7 回;平成 22 年 6 月)の問題作成に関わる進行管理を行った。過去問題のデータベース化等を通じて、問題作成の効率化を図った。

・NR研修会の開催

NRのスキルアップの一環として、当研究所が主催するフォローアップ研修会を、全国 6 カ所(仙台、大阪、名古屋、岡山、福岡、東京(2 回))で計 7 回開催、平成 20 年度に引き続き他団体との相互単位認定を行った。

・NRの支援策の検討など

NRの活動状況等の現状と課題を踏まえ、NR制度をさらに発展させるとともに、社会的ニーズに対応した環境を整備するため、アドバイザースタッフに関する調査を実施した。NR協会と定期的にNRへの支援策やNRと研究所の関わりなど情報、意見交換を実施した。平成 20 年度に提出された「NR制度のあり方検討委員会」報告書の提言を踏まえ、健康食品の安全性や他の食品等との作用、有効性について最新の知見が消費者に提供される仕組みの整備に取り組んだ。

引き続き健康食品管理士認定協会との協力関係を深め、協会主催の研修会参加で認定更新に必要な単位を付与した。

・社会ニーズ、意見交換会

健康・栄養に関する機関((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所、(独)国民生活センター、(独)国立病院機構、国立スポーツ科学センター、江戸川保健所、(株)ヤクルト研究所)との「意見交換会」を年 6 回実施した。また、消費者庁食品表示部、厚生労働省

医薬食品局食品安全部及び健康局総務課生活習慣病対策室との間で、幹部レベルでの意見交換会および実務者レベルでの情報及び意見交換会を行い、行政ニーズに適宜対応した業務体制を整えるとともに、平成 22 年度計画に反映させた。

・セミナー

第 11 回一般向け公開セミナー(テーマ：栄養・食生活と「健康食品」～「健康食品」とのつきあい方を中心に～)を平成 22 年 1 月 30 日(土)に開催した。近年増加している「健康食品」に関連した被害事例や、根拠のない情報の氾濫を防ぐため、公正中立な立場での情報発信を目的とするとともに、本年度 9 月に消費者庁が創設され、消費者保護の観点より一元的な施策の取組みが展開されつつあることから、「健康食品」をメインテーマとした。平成 21 年度は、講演だけでなく、消費者、専門家、行政を代表する方々によるパネルディスカッションも実施した。一般の方の関心も高く、多数の参加を得た。

また、栄養士・管理栄養士の研修や生涯教育のプログラムに対し、職員を積極的に派遣するとともに、それらのプログラムの企画等への支援を行った。また、栄養士・管理栄養士の資質向上を目指し、関連サイトの監修・執筆等の活動を通じたネットワークづくりを図っている。

Ⅲ 研究成果等の公表

1. 業績目録

【著書】

a. 英文

- 1) Ishimi Y: Food Factors for Health Promotion, Soybean Isoflavones in Bone Health. Forum Nutr. 2009; 61:104-116, KARGER, Switzerland
- 2) Takebayashi J, Chen J, Tai A: A method for evaluation of antioxidant activity based on inhibition of free radical-induced erythrocyte hemolysis. Armstrong D, editor. Advanced Protocols in Oxidative Stress II, Series: Methods in Molecular Biology. 2010; 594:287-296, Humana Press

b. 和文

- 1) 森田明美: 高齢者の食事摂取基準を考える. 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討報告会 日本人の食事摂取基準[2010年版]. 2009; 付録26-付録27, 第一出版
- 2) 森田明美: ライフステージ別の栄養 高齢者. 日本健康・栄養食品協会編 食品保健の科学. 2010; 145-149, 丸善株式会社
- 3) 宮地元彦: 生活習慣病予防と介護予防における体力の重要性. (財)健康・体力づくり事業財団. 2009; 144-167, 東京
- 4) 宮地元彦: 健康づくりのための運動指針2006. 田中平三、伊達ちづさ、佐々木敏編 改訂第2版 公衆衛生学. 2009; 312-318, 南江堂
- 5) 宮地元彦: 第5章 MetSの治療 1 生活習慣への介入 (3) 運動療法. 最新メタボリックシンドローム診療マニュアル. 2009; 152-156, 医歯薬出版(東京)
- 6) 宮地元彦: 運動の勧め 第4章メタボリックシンドロームの予防・改善のための保健指導. 肥満とメタボリックシンドローム 監修 近藤達也、山西文子、野田光彦. 2009; 177-186, メヂカルフレンド社(東京)
- 7) 田畑泉: メタボリックシンドローム解消に役立つ実践運動生理学. スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応-(武藤芳照編著). 2009; 299-303, 日本医事新報社(東京)
- 8) 宮地元彦: 特定保健指導マニュアル、Ⅱ-実践編 1. 奈良昌治監修、高橋英考編集. 2009; 23-36, 医歯薬出版
- 9) 宮地元彦: 1. 運動・身体活動 第3章 人間ドック健診における生活習慣改善指導のポイント. 人間ドック健診フォローアップガイド 山門實編. 2009; 54-62, 文光堂(東京)
- 10) 宮地元彦: 11. 特定健診・保険指導 人間ドック専門医試験受験のためのセルフトレーニング問題と解説. 人間ドック学会専門医制度問題作

成小委員会編. 2009; , サイエンティスト社(東京)

- 11) 手嶋登志子: 最近の高齢者食をめぐる話題 編者. 摂食・嚥下障害を考える. 2009;
- 12) 江崎治: 運動療法の効果と実際, 注意点. 糖尿病最新の治療2010-2012. 2010; 99-104, 南江堂
- 13) 山田和彦, 稲山貴代, 田中茂穂: 栄養摂取と運動. 青木純一郎、川久保清、沢井史穂、田畑泉編、健康運動実践指導者養成用テキスト. 2009; 47-57, 財団法人健康・体力づくり事業財団
- 14) 石見佳子: 骨の健康と生活習慣. くすりと健康シリーズ. 2010; , 薬事日報社
- 15) 石見佳子: 大豆イソフラボンの機能性: 骨代謝. 喜多村啓介編 大豆のすべて. 2010; , サイエンス・フォーラム
- 16) 矢野友啓: Bowman-Birk protease Inhibitorの抗がん作用、喜多村啓介編「大豆のすべて」, 2010; 197-200, SCIENCE FORUM
- 17) 梅垣敬三: 食の安全・安心と食育. 藤沢良知、芦川修貳、古畑公編、よくわかる栄養教諭 ー食育の基礎知識ー. 2009; 185-193, 同文書院
- 18) 梅垣敬三: 健康食品の実態、トランス酸、その他. 日本食品衛生学会編、食品安全の事典. 2009; , 朝倉書店
- 19) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントとのつきあい方. 国民生活センター、くらしの豆知識. 2009; 204-205, 国民生活センター
- 20) 卓興鋼, 石見佳子, 渡邊昌: イソフラボンの機能性ー脂質代謝改善作用. 喜多村啓介他編「大豆のすべて」. 2010; 264-269, SCIENCE FORUM
- 21) 西信雄: 相関係数と1次回帰係数(推定と検定). 中村好一編、医療系のためのやさしい統計学入門. 2009; 58-68, 診断と治療社
- 22) 西信雄: 一致性の検討(カッパ統計量). 中村好一編、医療系のためのやさしい統計学入門. 2009; 104-108, 診断と治療社

【原著論文】

a. 英文

- 1) Naganuma R, Sakurai M, Miura K, Yoshita K, Morikawa Y, Kido T, Ueshima H, Nakagawa H, Stamler J: Relation of long-term body weight change to change in lipoprotein particle size in Japanese men and women: the INTERMAP Toyama Study. Atherosclerosis. 2009; 206(1):282-286
- 2) Tamaki J, Iki M, Morita A, Ikeda Y, Sato Y, Kajita E, Kagamimori S, Kagawa Y, Yoneshima H: Peroxisome proliferator-activated receptor gamma polymorphism is related to peak bone mass: the JPOS study. Osteoporos

- Int. 2010; 21(2):321-329
- 3) Sakurai M, Miura K, Takamura T, Ishizaki M, Morikawa Y, Nakamura K, Yoshita K, Kido T, Naruse Y, Kaneko S, Nakagawa H: J-shaped relationship between waist circumference and subsequent risk for Type 2 diabetes: an 8-year follow-up of relatively lean Japanese individuals.. *Diabet Med.* 2009; 26(8):753-759
 - 4) Saijo Y, T. Utsugi M, Yoshioka E, Fukui T, Sata F, Nakagawa N, Hasebe N, Yoshida T, Kishi R: Inflammation as a cardiovascular risk factor and pulse wave velocity as a marker of early-stage atherosclerosis in the Japanese population.. *Environ Health Prev Med.* 2009; 2009(14):159-164
 - 5) Wakita Asano A, Hayashi F, Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K, Yamamoto S, Yoshiike N: Demographics, health-related behaviors, eating habits and knowledge associated with vegetable intake in Japanese adults. *Eur J Clin Nutr.* 2009; 63(11):1335-1344
 - 6) Suzuki E, Yorifuji T, Ueshima K, Takao S, Sugiyama M, Ohta T, Ishikawa-Takata K, Doi H: Sleep duration, sleep quality and cardiovascular disease mortality among the elderly: a population-based cohort study. *Prev Med.* 2009; 49:135-141
 - 7) Miyatake N, Tanaka A, Eguchi M, Miyachi M, Tabata I, Numata T: Reference data of multi frequencies bioelectric impedance method in Japanese. *Anti-Aging Med.* 2009; 6(3):10-14
 - 8) Cao ZB, Miyatake N, Higuchi M, Miyachi M, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Predicting VO2max with an objectively measured physical activity in Japanese women. *Medicine and Sciences in Sports and Exercise.* 2010; 42(1):179-186
 - 9) Yamamoto K, Kawano H, Gando Y, Iemitsu M, Murakami H, Sanada K, Tanimoto M, Ohmori Y, Higuchi M, Tabata I, Miyachi M: Poor trunk flexibility is associated with arterial stiffening. *The American Journal of Physiology - Heart and Circulatory Physiology.* 2009; 297(4):H1314-H1318
 - 10) Yasaku K, Ishikawa-Takata K, Koitaya N, Yoshimoto K, Ohta T: One-year change in the second metacarpal bone mass associated with menopause nutrition and physical activity. *The Journal of Nutrition, Health & Aging.* 2009; 13(6):545-549
 - 11) Osaka T: Nitric oxide mediates noradrenaline-induced hypothermic responses and opposes prostaglandin E(2)-induced fever in the rostromedial preoptic area. *Neuroscience.* 2010; 165:976-983
 - 12) Yorifuji T, Kashima S, Tsuda T, Takao S, Suzuki E, Doi H, Sugiyama M, Ishikawa-Takata K, Ohta T: Long-term exposure to traffic-related air pollution and mortality in Shizuoka, Japan. *Occup Environ Med.* 2010; 67:111-117
 - 13) Miyatake N, Miyachi M, Tabata I, Numata T: Leg strength per body weight is associated with ventilatory threshold in Japanese women. *Anti-Aging Med.* 2009; 6(2):5-9
 - 14) Miyatake N, Miyachi M, Numata T: Increasing Leg Strength per Body Weight is Associated with Improvements in Metabolic Syndrome in Japanese Men. *Anti-Aging Med.* 2009; 6(1):1-4
 - 15) Osaka T: Heat loss responses and blockade of prostaglandin E2-induced thermogenesis elicited by alpha1-adrenergic activation in the rostromedial preoptic area. *Neuroscience.* 2009; 162:1420-1429
 - 16) Suzuki E, Yorifuji T, Takao S, Komatsu H, Sugiyama M, Ohta T, Ishikawa-Takata K, Doi H: Green tea consumption and mortality among Japanese elderly people: the prospective Shizuoka Elderly Cohort. *Ann Epidemiol.* 2009; 19:732-739
 - 17) Miyatake N, Saito T, Miyachi M, Miyachi M, Numata T: Evaluation of muscle strength and its relation to exercise habits in Japanese.. *Acta Med Okayama.* 2009; 63(3):151-155
 - 18) Kumae T, Ishi T, Osanai H, Ito T: Effects of summer training camp on serum opsonic activity and plasma cytokine levels in female long-distance runners.. *Luminescence.* 2009; 24:438-443
 - 19) Fujimoto E, Machida S, Higuchi M, Tabata I: Effects of nonexhaustive bouts of high-intensity intermittent swimming training on GLUT-4 expression in rat skeletal muscle. *Journal of Physiological Sciences.* 2010; 60(2):95-101
 - 20) Kintaka Y, Osaka T, Suzuki Y, Hashiguchi T, Nijima A, Kageyama H, Takenoya F, Shioda S, Inoue S: Effects of gastric vagotomy on visceral cell proliferation induced by ventromedial hypothalamic lesions: role of vagal hyperactivity. *J Mol Neurosci.* 2009; 38:243-249
 - 21) Sugiyama K, Sakakibara R, Tachimoto H, Kishi M, Kaga T, Tabata I: Effects of Acetic Acid Bacteria Supplementation on Muscle Damage After Moderate-Intensity Exercise. *Anti-Aging Medicine.* 2010; 7(1):1-6
 - 22) Kawano H, Fujimoto K, Higuchi M, Miyachi M:

- Effect of Combined Resistance and Aerobic Training on Reactive Hyperemia in Men. *Journal of Physiological Sciences*. 2009; 59(6):457-464
- 23) Sanada K, Miyachi M, Tabata I, Suzuki K, Yamamoto K, Kawano H, Usui C, Higuchi M: Differences in body composition and risk of lifestyle-related diseases between young and older male rowers and sedentary controls. *Journal of Sports Sciences*. 2009; 27(10):1027-1034
 - 24) Tanaka C, Tanaka S: Daily physical activity in Japanese preschool children evaluated by triaxial accelerometry: the relationship between period of engagement in moderate-to-vigorous physical activity and daily step counts. *J Physiol Anthropol*. 2009; 28(6):283-288
 - 25) Oshima Y, Kawaguchi K, Tanaka S, Ohkawara K, Hikiyama Y, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Classifying household and locomotive activities using a triaxial accelerometer. *Gait Posture*. 2010; 31(3):370-374
 - 26) Miyatake N, Fujii M, Miyachi M, Tabata I, Suzue T, Hirano T, Numata T: Changes in metabolic syndrome and its components with lifestyle modification Japanese men. *Internal Medicine*. 2010; 49(4):261-265
 - 27) Tanimoto M, Arakawa H, Sanada K, Miyachi M, Ishii N: Changes in Muscle Activation and Force Generation Patterns During Cycling Movements Because of Low-Intensity Squat Training With Slow Movement and Tonic Force Generation. *J Strength Cond Res*. 2009; 23(8):2367-76
 - 28) Ishikawa-Takata K, Tanaka H, Nanbu K, Ohta T: Beneficial effect of physical activity on blood pressure and blood glucose among Japanese male workers. *Diab Res Clin Pract*. 2010; 87:394-40
 - 29) Gando Y, Kawano H, Yamamoto K, Sanada K, Tanimoto M, Oh TW, Ohmori Y, Miyatani M, Usui C, Takahashi E, Tabata I, Higuchi M, Miyachi M: Age and cardiorespiratory fitness are associated with arterial stiffening and left ventricular remodeling. *Journal of Human Hypertension*. 2010; 24(3):197-206
 - 30) Nishide K, Nagase T, Oba M, Oe M, Ohashi Y, Iizuka S, Nakagami G, Kadowaki T, Sanada H: Ultrasonographic and thermographic screening for latent inflammation in diabetic foot callus. *Diabetes Res. Clin. Pract.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 31) Satoh S, Tang K, Iida A, Inoue M, Kodama T, Tsai SY, Tsai MJ, Furuta Y, Watanabe S: The spatial patterning of mouse cone opsin expression is regulated by bone morphogenetic protein signaling through downstream effector COUP-TF nuclear receptors. *The Journal of Neuroscience*. 2009; 29(40):12401-12411
 - 32) Igarashi M, Osuga JI, Isshiki M, Sekiya M, Okazaki H, Takase S, Takanashi M, Ohta K, Kumagai M, Nishi M, Fujita T, Nagai R, Kadowaki T, Ishibashi S: Targeting of neutral cholesterol ester hydrolase to the endoplasmic reticulum via its N-terminal sequence. *J. Lipid Res.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 33) Hara M, Izumida Y, Sato N, Ohashi K, Osuga JI, Tobe K, Tsukamoto K, Kadowaki T: Successful desensitization by glargine administration in a patient with insulin allergy: a case report. *Diabetes Res. Clin. Pract.* 2009; 48-49
 - 34) Kadowaki T, Yamauchi T, Kubota N, Fujisawa T, Nakagawa H, Nakajima A, Terauchi Y, Ueki K: Role of adiponectin and its receptors in obesity-linked insulin resistance and metabolic syndrome. *Metabolic Syndrome: Carcinogenesis and Prevention*. 2009; 91-96
 - 35) Omori S, Tanaka Y, Horikoshi M, Takahashi A, Hara K, Hirose H, Kashiwagi A, Kaku K, Kawamori R, Kadowaki T, Nakamura Y, Maeda S: Replication study for the association of new meta-analysis-derived risk loci with susceptibility to type 2 diabetes in 6,244 Japanese individuals. *Diabetologia*. 2009; 1554-1560
 - 36) Oishi Y, Manabe I, Imai Y, Hara K, Horikoshi M, Fujiu K, Tanaka T, Aizawa T, Kadowaki T, Nagai R: Regulatory polymorphism in transcription factor KLF5 at the MEF2 element alters the response to angiotensin II and is associated with human hypertension. [Epub ahead of print]. *FASEB J*. 2010;
 - 37) Hashimoto H, Arai T, Mori A, Kawai K, Hikishima K, Ohnishi Y, Eto T, Ito M, Hioki K, Suzuki R, Ohsugi M, Saito M, Ueyama Y, Okano H, Yamauchi T, Kubota N, Ueki K, Tobe K, Tamaoki N, Kadowaki T, Kosaka K: Reconsideration of insulin signals induced by improved laboratory animal diets, Japanese and American diets, in IRS-2 deficient mice. *Exp. Clin. Endocrinol. Diabetes* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 38) Kato M, Noda M, Inoue M, Kadowaki T, Tsugane S: Psychological factors, coffee and risk of diabetes mellitus among middle-aged

- Japanese: a population-based prospective study in the JPHC Study Cohort. *Endocr. J.* 2009; 459-468
- 39) Takeuchi Y, Yahagi N, Izumida Y, Nishi M, Kubota M, Teraoka Y, Yamamoto T, Matsuzaka T, Nakagawa Y, Sekiya M, Iizuka Y, Ohashi K, Osuga J, Gotoda T, Ishibashi S, Itaka K, Kataoka K, Nagai R, Kadowaki T, Shimano H: Polyunsaturated fatty acids selectively suppress sterol regulatory element-binding protein-1 through proteolytic processing and autoloop regulatory circuit[Epub ahead of print]. *J. Biol. Chem.* 2010;
 - 40) Takazawa T, Yamauchi T, Tsuchida A, Takata M, Hada Y, Iwabu M, Okada-Iwabu M, Ueki K, Kadowaki T: Peroxisome proliferator-activated receptor gamma agonist rosiglitazone increases the expression of very low density lipoprotein receptor gene in adipocytes. *J. Biol. Chem.* 2009; 284(44):30049-30057
 - 41) Freude S, Hettich MM, Schumann C, Stohr O, Koch L, Kohler C, Udelhoven M, Leeser U, Muller M, Kubota N, Kadowaki T, Krone W, Schroder H, Bruning JC, Schubert M: Neuronal IGF-1 resistance reduces Aβ accumulation and protects against premature death in a model of Alzheimer's disease. *FASEB J*[Epub ahead of print]. 2009;
 - 42) Okamoto K, Iwasaki N, Nishimura C, Doi K, Noiri E, Nakamura S, Tanizawa M, Ogata M, Fujimaki R, Grarup N, Pisinger C, Borch-Johnsen K, Lauritzen T, Sandbaek A, Hansen T, Yasuda K, Osawa H, Nanjo K, Kadowaki T, Kasuga M: Identification of KCNJ15 as a susceptibility gene in Asian patients with type 2 diabetes mellitus. *Am J Hum Genet.* 2010; 86:54-64
 - 43) Hara K, Kadowaki T: How controlling of hypertension might matter - Beyond blood pressure -. *Circulation J.* 2009; 73(12):2208-2209
 - 44) Sekiya M, Yahagi N, Tamura Y, Okazaki H, Igarashi M, Ohata K, Takanashi M, Kumagai M, Takase S, Nishi M, Takeuchi Y, Izumida Y, Kubota M, Ohashi K, Iizuka Y, Yagyu H, Gotoda T, Nagai R, Shimano H, Yamada N, Kadowaki T, Ishibashi S, Osuga J: Hormone-sensitive lipase deficiency suppresses insulin secretion from pancreatic islets of *Lep(ob/ob)* mice. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 45) Kawamori R, Kadowaki T, Ishii H, Iwasaki M, Iwamoto Y: Efficacy and safety of insulin glulisine in Japanese patients with type 1 diabetes mellitus.. *Diabetes Obes. Metab.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 46) Kawamori R, Iwamoto Y, Kadowaki T, Iwasaki M, Kim SW, Woo JT, Baik SH, Yoon KH: Effects of insulin glulisine as mono- or add-on therapy in patients with type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Obes. Metab.* . 2009; 11(9):900-909
 - 47) Chan JC, Malik V, Jia W, Kadowaki T, Yajnik CS, Yoon KH, Hu FB: Diabetes in Asia: epidemiology, risk factors, and pathophysiology. *JAMA.* 2009; 301(2129):2140
 - 48) Fukuo W, Yoshiuchi K, Ohashi K, Togashi H, Sekine R, Kikuchi H, Sakamoto N, Inada S, Sato F, Kadowaki T, Akabayashi A: Development of a hand-held personal digital assistant-based food diary with food photographs for Japanese subjects. . *J. Am. Diet. Assoc.* 2009; 1232-1236
 - 49) Ohno T, Kinoshita O, Fujita H, Kato S, Hirose A, Sigeeda T, Otomo K, Ando J, Kadowaki T, Araie M, Nagai R, Takamoto S: Detecting occult coronary artery disease followed by early coronary artery bypass surgery in patients with diabetic retinopathy: Report from a diabetic retinocoronary clinic. . *J. Thorac. Cardiovasc. Surg.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 50) Okazaki Y, Eto K, Yamashita T, Okamoto M, Ohsugi M, Noda M, Terauchi Y, Ueki K, Kadowaki T: Decreased insulin secretion and accumulation of triglyceride in beta cells overexpressing a dominant-negative form of AMP-activated protein kinase. *Endocr. J* Nov 19. [Epub ahead of print] . 2009;
 - 51) Inoue M, Iida A, Satoh S, Kodama T, Watanabe S.: COUP-TFI and -TFII nuclear receptors are expressed in amacrine cells and play roles in regulating the differentiation of retinal progenitor cells. *Exp Eye Res.* Online publication. 2009;
 - 52) Miyake K, Yang W, Hara K, Yasuda K, Horikawa, Oswa H, Furuta H, Ng MC, Hirota Y, Mori H, Ido K, Yamagata K, Hinokio Y, Oka Y, Iwasaki N, Iwamoto Y, Yamada Y, Seino Y, Maegawa H, Kashiwagi A, Wang HY, Tanahashi T, Nakamura N, Takeda J, Maeda E, Yamamoto K, Tokunaga K, Ma RC, So WY, Chan JC, Kamatani N, Makino H, Nanjo K, Kadowaki T, Kasuga M: Construction of a prediction model for type 2 diabetes mellitus in the Japanese population based on 11 genes with strong evidence of the association.. *J. Hum. Genet.* 2009; 236-241
 - 53) Kondo K, Kadowaki T: Colestilan monotherapy

- significantly improves glycaemic control and LDL cholesterol levels in patients with type 2 diabetes: a randomized double-blind placebo-controlled study. *Diabetes Obes. Metab.* 2009; 12:0-0
- 54) Nishimura S, Manabe I, Nagasaki M, Eto K, Yamashita H, Ohsugi M, Otsu M, Hara K, Ueki K, Sugiura S, Yoshimura K, Kadowaki T, Nagai R: CD8⁺ effector T cells contribute to macrophage recruitment and adipose tissue inflammation in obesity. *Nature Medicine.* 2009; 15(8):914-920
 - 55) Kurita H, Yoshioka W, Nishimura N, Kubota N, Kadowaki T, Tohyama C: Aryl hydrocarbon receptor-mediated effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on glucose-stimulated insulin secretion in mice. *J. Appl. Toxicol*[Epub ahead of print] . 2009;
 - 56) Otani K, Kitayama J, Yasuda K, Nio Y, Iwabu M, Okudaira S, Aoki J, Yamauchi T, Kadowaki T, Nagawa H : Adiponectin suppresses tumorigenesis in Apo(Min) (+)mice. *Cancer Lett.* [Epub ahead of print]. 2009;
 - 57) Awazawa M, Ueki K, Inabe K, Yamauchi T, Kaneko K, Okazaki Y, Bardeesy N, Ohnishi S, Nagai R, Kadowaki T: Adiponectin suppresses hepatic SREBP1c expression in an AdipoR1/LKB1/AMPK dependent pathway. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2009; 51-56
 - 58) Asano T, Watanabe K, Kubota N, Gunji T, Omata M, Kadowaki T, Ohnishi S: Adiponectin knockout mice on high fat diet develop fibrosing steatohepatitis. *J Gastroenterology Hepatol.* 2009; 24(10):1669-1676
 - 59) Sekiya M, Osuga J, Nagashima S, Ohshiro T, Igarashi M, Okazaki H, Takanashi M, Tazoe F, Wada T, Ohta K, Takanashi M, Kumagai M, Nishi M, Takase S, Yahagi N, Yagyu H, Ohashi K, Nagai R, Kadowaki T, Furukawa Y, Ishibashi S: Ablation of neutral cholesterol ester hydrolase 1 accelerates atherosclerosis. *Cell Metab.* 2009; 10(3):219-228
 - 60) Takezawa J, Yamada K, Morita A, Aiba N, Watanabe S: Preproghrelin gene polymorphisms in obese Japanese: Association with diabetes mellitus in men and with metabolic syndrome parameters in women. *Obesity Research & Clinical Practice.* 2009; 3(4):179-191
 - 61) Nakade M, Hirota K, Ezaki O, Aiba N: Improving diet and exercise behavior with a computer-assisted health education program. *Japanese Journal of Health Education and Promotion.* 2009; 17(2):97-108
 - 62) Watanabe S, Melby MK, Aiba N: Food safety and food labeling from the viewpoint of the consumers. *Asia Pac. J. Clin. Nutr.* 2009; 18(4):532-537
 - 63) Fujii H, Nakade M, Haruyama Y, Fukuda H, Hashimoto M, Ikuyama T, Kaburagi H, Murai E, Okumura M, Sairenchi T, Muto T: Evaluation of a computer-tailored lifestyle modification support tool for employees in Japan. *Industrial Health.* 2009; 47:333-341
 - 64) Haruyama Y, Muto T, Nakade M, Kobayashi E, Ishisaki K, Yamasaki A: A Fifteen-month community-based lifestyle intervention program to improve cardiovascular risk factors in a middle-aged Japanese population. *Tohoku J Exp Med.* 2009; 217(4):259-269
 - 65) Setsuie R, Suzuki M, Kabuta T, Fujita H, Miura S, Ichihara N, Yamada D, Wang YL, Ezaki O, Suzuki Y, Wada K: Ubiquitin C-terminal hydrolase-L3-knockout mice are resistant to diet-induced obesity and show increased activation of AMP-activated protein kinase in skeletal muscle. *FASEB J.* 2009;
 - 66) Yamazaki Y, Kamei Y, Sugita S, Akaike F, Kanai S, Miura S, Hirata Y, Troen BR, Kitamura T, Nishino I, Suganami T, Ezaki O, Ogawa Y: The cathepsin L gene is a direct target of FOXO1 in the skeletal muscle. *Biochem J.* 2010;
 - 67) Chiba T, Kamei Y, Shimizu T, Shirasawa T, Katsumata A, Shiraishi L, Sugita S, Ogawa Y, Miura S, Ezaki O: Overexpression of FOXO1 in skeletal muscle does not alter longevity in mice. *Mech Ageing Dev.* 2009; 130(7):420-428
 - 68) Kamei Y, Suganami T, Ehara T, Kanai S, Hayashi K, Yamamoto Y, Miura S, Ezaki O, Okano M, Ogawa Y: Increased expression of DNA methyltransferase 3a in obese adipose tissue: studies with transgenic mice. *Obesity (Silver Spring).* 2009;
 - 69) Chiba T, Itoh T, Tabuchi M, Satou T, Ezaki O: Dietary Protein, but Not Carbohydrate, Is a Primary Determinant of the Onset of Stroke in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats. *Stroke.* 2009; 40(8):2828-2835
 - 70) Yoshita K, Arai Y, Nozue M, Komatsu K, Ohnishi H, Saitoh S, Miura K: Total Energy Intake and Intake of Three Major Nutrients by Body Mass Index in Japan: NIPPON DATA80 and NIPPON DATA90. *J Epidemiol.* 2010; 20(Suppl 3): S515-S523

- 71) Akiyama S, Katsumata S, Suzuki K, Nakaya Y, Ishimi Y, Wu J, Uehara M: Hypoglycemic and Hypolipidemic Effects of Hesperidin and cyclodextrin-clathrated Hesperidin on Goto-Kakizaki rats with Type 2 Diabetes. *Biosci Biotech Biochem.* 2009; 73(12):2779-2782
- 72) Sato H, Iwata H, Takano Y, Yamada R, Okuzawa H, Nagashima Y, Yamamura K, Ueno K, Yano T: Enhanced effect of connexin 43 on cisplatin-induced cytotoxicity in mesothelioma cells. *J Pharmacol Sci.* 2009; 110(4):466-475
- 73) Gotoh N, Nagao K, Onoda S, Shirouchi B, Furuya K, Nagai T, Mizobe H, Ichioka K, Watanabe H, Yanagita T, Wada S: Effects of Three Different Highly Purified n-3 Series Highly Unsaturated Fatty Acids on Lipid Metabolism in C57BL/KsJ-db/db Mice. *J Agric Food Chem.* 2009; 57(22):11047-11054
- 74) Nagata J, Yamada K: Effects of simultaneous intakes of soybean protein and diacylglycerol on lipid profiles and body fat accumulation in rats. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 2009; 73(6):1328-1332
- 75) Akiyama S, Katsumata S, Suzuki K, Ishimi Y, Wu J, Uehara M: Dietary hesperidin exerts hypoglycemic and hypolipidemic effects in streptozotocin-induced marginal type 1 diabetic rats. *J Clin Biochem Nutr.* 2010; 46(1):87-92
- 76) Kashiwagi K, Virgona N, Harada K, Kido W, Yano Y, Ando A, Hagiwara K, Yano T: A redox-silent analogue of tocotrienol acts as a potential cytotoxic agent against human mesothelioma cells. *Life Sci.* 2009; 84(29):650-656
- 77) Sato Y, Yamagishi A, Hashimoto Y, Virgona N, Hoshiyama Y, Umegaki K: Use of dietary supplements among preschool children in Japan. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo).* 2009; 55(4):317-325
- 78) Okura T, Ibe M, Umegaki K, Shinozuka K, Yamada S: Effects of dietary ingredients on function and expression of P-glycoprotein in human intestinal epithelial cells. *Biol Pharm Bull.* 2010; 33(2):255-259
- 79) Taku K, Melby MK, Takebayashi J, Mizuno S, Ishimi Y, Omori T, Watanabe S: Effect of soy isoflavone extract supplements on bone mineral density in menopausal women: meta-analysis of randomized controlled trials. *Asia Pac J Clin Nutr.* 2010; 19(1):33-42
- 80) Shimizu Y, Kodama K, Nishi N, Kasagi F, Suyama A, Soda M, Grant EJ, Sugiyama H, Sakata R, Moriwaki H, Hayashi M, Konda M, Shore RE: Radiation exposure and circulatory disease risk: Hiroshima and Nagasaki atomic bomb survivor data, 1950-2003. *BMJ.* 2010; 340: b5349
- 81) Fujioka N, Hibino S, Wakahara A, Kawagishi T, Taku K, Mizuno S, Watanabe S, Takahashi H, Hamada U, Takahashi Y, Yonei Y: Effects of Various Soap Elements on Skin. *Anti-Aging Medicine.* 2009; 6(12):109-118
- 82) Wang JW, Zhao Y, Jiang J, Gajalakshmi V, Kuriki K, Nakamura S, Akasaka S, Ishikawa H, Suzuki S, Nagaya T, Tokudome S: Polymorphisms in DNA repair genes XRCC1, XRCC3 and XPD, and colorectal cancer risk: a case-control study in an Indian population. *J. Cancer Res. Clin. Oncol.* (Epub ahead of print). 2010;
- 83) Kojima M, Kojima T, Suzuki S, Oguchi T, Oba M, Tsuchiya H, Sugiura F, Kanayama Y, Furukawa TA, Tokudome S, Ishiguro N: Depression, inflammation, and pain in patients with rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheumatism.* 2009; 61(8):1018-1024
- 84) Marumoto, M, Suzuki, S, Hosono, A, Arakawa, K, Shibata, K, Fuku, M, Goto, C, Tokudome, Y, Hoshino, H, Imaeda, N, Kobayashi, M, Yodoi, J, Tokudome S: Changes of thioredoxin concentrations: an observation in an ultra-marathon race. *Environ. Health Prev. Med.* (Epub ahead of print). 2009;
- 85) Hattori N, Hayashi T, Nakachi K, Ichikawa H, Goto C, Tokudome Y, Kuriki K, Hoshino H, Shibata K, Yamada N, Tokudome M, Suzuki S, Nagaya T, Kobayashi M, Tokudome S: Changes of ROS during a two-day ultra-marathon race. *Int. J. Sports Med.* 2009; 30(6):426-429
- 86) Yamada T, Fukatsu M, Suzuki S, Yoshida T, Tokudome S, Joh T: Alcohol drinking may not be a major risk factor for fatty liver in Japanese undergoing a health checkup. *Dig. Dis. Sci.* 2010; 55(1):176-182
- 87) Miyachi M, Yamamoto K, Ohkawara K, Tanaka S: METs in Adults While Playing Active Video Games: A Metabolic Chamber Study. *Med Sci Sports Exerc.* 2010; 42(6):1149-1153
- 88) Yamamoto Y, Tanahashi T, Kawai T, Chikahisa S, Katsuura S, Nishida K, Teshima-Kondo S, Sei H, Rokutan K: Changes in behavior and gene expression induced by caloric restriction in C57BL/6 mice. *Physiol Genomics*(in press) . 2009 ;
- 89) Kamizato M, Nishida K, Masuda K, Takeo K, Yamamoto Y, Kawai T, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K: Interleukin 10 inhibits interferon γ - and tumor necrosis factor α -stimulated activation of NADPH

oxidase 1 in human colonic epithelial cells and the mouse colon. J. Gastroenterol. (in press). 2009;

- 90) Takeo K, Kawai T, Nishida K, Masuda K, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K: Oxidative stress-induced alternative splicing of transformer 2{beta} (SFRS10) and CD44 pre-mRNAs in gastric epithelial cells. Am J Physiol Cell Physiol. 2009; 297(2): C330-338
- 91) Sasaki H, Yamamoto H, Tominaga K, Masuda K, Kawai T, Teshima-Kondo S, Matsuno K, Yabe-Nishimura C, Rokutan K: Receptor activator of nuclear factor-kappaB ligand-induced mouse osteoclast differentiation is associated with switching between NADPH oxidase homologues. Free Radic Biol Med. 2009; 47(2): 189-199
- 92) Nishida K, Kamizato M, Kawai T, Masuda K, Takeo K, Teshima-Kondo S, Tanahashi T, Rokutan K: Interleukin-18 is a crucial determinant of vulnerability of the mouse rectum to psychosocial stress. FASEB J. 2009; 23(6): 1797-1805

b. 和 文

- 1) 野末みほ, 猿倉薫子, 由田克士: 食事調査に用いられる青果物の目安量に関する検討. 栄養学雑誌. 2010; 68(1):36-41
- 2) 由田克士, 中川芽衣子, 杉森裕子, 三浦克之, 櫻井 勝, 紙 貴子, 荒井裕介, 野末みほ, 富松理恵子, 中川秀昭, 石田裕美: 管理栄養士が中心となって職域において実施したメタボリックシンドローム改善のための負荷の小さな減量プログラムの効果について. 日本栄養士会雑誌. 2009; 52(9):821-830
- 3) 草間かおる, 猿倉薫子, 林芙美, 野末みほ: 医療施設における周産期の栄養アセスメント及び栄養指導・教育の実施状況について. 栄養学雑誌. 2009; 67(6):331-338
- 4) 仲村明, 染谷由希, 河合祥雄, 澤木啓祐, 丸井英二, 高田和子: 陸上競技部OBにおける競技歴と現在の運動習慣・健康状態 順天堂大学同窓生研究. 順天堂スポーツ健康科学研究. 2009; 1(2):198-201
- 5) 矢作京子, 小板谷典子, 高田和子, 太田壽城: 日本人若年女性の牛乳不耐症状とカルシウム摂取. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2009; 19(1):17-21
- 6) 青山友子, 浅香明子, 石島寿道, 河野寛, 薄井澄誉子, 坂本静男, 田畑泉, 樋口満: 中高年における心肺体力とメタボリックシンドローム危険因子との関係-健康づくりのための運動基準2006を用いた検討-. 体力科学. 2009; 58(3):341-352
- 7) 小長谷陽子, 渡邊智之, 太田壽城, 高田和子: 地域高齢者のQuality of life(QOL)と認知機能の関連性. 日老医誌. 2009; 46(2):160-167
- 8) 清水滉一, 横山典子, 村上晴香, 烏帽子田彰, 久野譜也: 全国市町村における筋力トレーニング事業の実施の有無に影響する要因. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2009; 17(2):332-338
- 9) 熊江隆: 好中球化学発光を用いた血清オプソニン化活性の測定精度に関する研究-血清オプソニン化活性への運動の影響に関する最近の研究-. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2009; 19(2):48-57
- 10) 熊江隆, 伊藤千夏, 古泉佳代, 金子佳代子: 呼吸器モデルを用いた安静時代謝量測定におけるフード法の精度に関する検討. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2009; 19(1):36-45
- 11) 曹 振波, 宮武伸行, 樋口 満, 田畑泉: 3分間歩行テストによる最大酸素摂取量推定式の開発に関する研究. 体力科学. 2009; 58(10):527-536
- 12) 藤野知美, 伊藤由彦, 瀧 優子, 柿澤希実, 尾上誠良, 今井康之, 奥 直人, 野口博司, 伊藤邦彦, 小林裕和, 大橋典男, 合田敏尚, 木苗直秀, 梅垣敬三, 渡邊裕司, 山田静雄: WarfarinとビタミンKの相互作用に関する文献的研究. 臨床薬理. 2010; 41(1):43-52
- 13) 矢野友啓: Alpha-トコトリエノールコハク酸エーテル誘導体の新規抗がん剤としての可能性. ビタミン. 2009; 83(11):607-611
- 14) 石見佳子, 高野史, 山内淳, 卓興鋼, 梅垣敬三, 細川優, 渡邊昌: 「健康食品」中の大豆イソフラボンの定量と表示に関する調査研究. 栄養学雑誌. 2009; 67:49-57
- 15) 山田 浩, 松本圭司, 清水雅之, 熊谷 翼, 渡邊崇之, 近都正幸, 朴 美貞, 小菅和仁, 川上純一, 梅垣敬三: 健康食品摂取と健康上の有害事象の因果関係を評価するためのアルゴリズムの提案. 臨床薬理. 2009; 40(4):163-168
- 16) 佐藤陽子, 中西朋子, 瀧優子, 梅垣敬三: HPLC-電気化学検出法による野菜・果物中のビタミンCの定量に関する検討. 栄養学雑誌. 2009; 67(6):318-322
- 17) 水野正一: 出浦照国の症例(1976-97)の再解析. 医と食. 2009; 1(5):242-245

【総 説】

a. 和 文

- 1) 森田明美: 日本人の食事摂取基準:高齢者. 臨床栄養. 2009; 115(3):250-254
- 2) 田中茂穂: 身体活動とエネルギー代謝. 日本臨牀 増刊号2 身体活動・運動と生活習慣病-運動生理学と最新の予防・治療-. 2009; 67(増刊号2):11-15, 日本臨牀社、大阪
- 3) 田中茂穂: 人の基礎代謝量. 実験医学 増刊 肥満・糖尿病の病態を解明するエネルギー代謝の最前線. 2009; 27(7(増刊)):86(1058)-90(1062), 羊土社、東京

- 4) 宮地元彦: ライフスタイル生活活動の変容ー. 日本臨床 増刊号 身体活動・運動と生活習慣病. 2009; 62(増刊2):438-443, 日本臨床社
- 5) 村上晴香, 塙 智史, 宮地元彦: 保健指導に役立つ運動指導ー日常生活での身体活動量アップのための身体活動・運動指導ー. 日本栄養士会雑誌 (栄養日本). 2009; 52(5):
- 6) 田中茂穂: 総論 エネルギー消費量とその測定法 特集: 必要エネルギー量の算出法と投与の実際. 静脈経腸栄養. 2009; 24(5):1013-1019
- 7) 宮地元彦: 動脈の機能的な評価法と運動の影響 特集 健康スポーツ医学分野における検査・評価法と応用. 臨床スポーツ医学. 2009; 26(9):1127-1134, 文光堂 (東京)
- 8) 田中千晶, 田中茂穂: 加速度計と幼児の身体活動量評価 特集 健康スポーツ医学分野における検査・評価法と応用. 臨床スポーツ医学. 2009; 26(9):1079-1087, 文光堂 (東京)
- 9) 田中茂穂: メッツと基礎代謝 特集 運動と新しい食事摂取基準2010. 体育の科学. 2009; 59(10):657-663, 杏林書院 (東京)
- 10) 田中茂穂: 運動によるメタボリックシンドローム解消法のエビデンス 特集 メタボリックシンドローム対策の新しい動向. 臨床スポーツ医学. 2009; 26(12):1487-1492
- 11) 宮地元彦: 特定保健指導の脱落要因ー国保ヘルスアップ事業の結果よりー. 臨床スポーツ医学. 2009; 26(12):1501-1506, 文光堂 (東京)
- 12) 宮地元彦: 特定保健指導における運動・身体活動指導, IV. 肥満症の予防・治療学の進歩, 運動療法. 肥満症 (第2版)ー基礎・臨床研究の進歩ー, 日本臨床. 2010; 68(増刊号2):622-627
- 13) 岩本安彦, 渥美義仁, 門脇孝, 稲葉暢也, 今村聡: 座談会 糖尿病診療の最近の進歩. 日本医師会雑誌. 2009; 138(1):5-17
- 14) 門脇孝: 糖尿病: 診断と治療の進歩 I. 診断と関連検査の進歩 1、空腹時・食後高血糖とその診断基準. 日本内科学会雑誌. 2009; 98(4):5-12
- 15) 門脇孝: 糖尿病の強化治療をめぐる. Medical Practice. 2009; 26(4):684-686
- 16) 羽田裕亮, 山内敏正, 門脇孝: 高度肥満症を伴う重症2型糖尿病の一例. Medical Practice. 2009; 26(4):
- 17) 脇裕典, 山内敏正, 門脇孝, Tontonoz Peter: High-throughput脂肪細胞分化スクリーニングによるPPAR γ 発現を調整する新規抗糖尿病薬の同定. 肥満研究. 2009; 15(1):89-92
- 18) 渥美義仁, 門脇孝: 糖尿病の病態と診断に関する最近の知見 第二世代 (非定型) 抗精神病薬と糖尿病 血糖モニタリングガイダンスの提案. 分子糖尿病学の進歩: 基礎から臨床まで2009 . 2009; 91-97
- 19) 門脇孝: 臨床医学の展望2009 糖尿病学. 日本医事新報. 2009; 43-55
- 20) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 門脇孝: 糖尿病セミナー 糖尿病対策の新しい戦略とその活用 厳格な血糖管理の新しい視点 ACCORD試験・ADOVANCE試験を中心に. Medical Practice . 2009; 26(4):599-604
- 21) 山内敏正, 門脇孝: 個体としてのエネルギー代謝調節 アディポネクチン受容体とエネルギー代謝調節. 実験医学. 2009; 27(7):1069-1077
- 22) 山内敏正, 門脇孝: 【肥満症 臨床的意義と治療法】 アディポネクチン. カレントセラピー. 2009; 27(4):365
- 23) 高本偉碩, 門脇孝: 【肥満症 臨床的意義と治療法】 肥満とメタボリックシンドローム メタボリックシンドロームの病態、診断基準、治療. カレントセラピー. 2009; 27(4):322-326
- 24) 山内敏正, 門脇孝: 【メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームとインスリン抵抗性、癌の分子メカニズム. BIO Clinica. 2009; 24(4):349-355
- 25) 山内敏正, 門脇孝: アディポネクチンを標的とした治療 (スタチン、ピオグリタゾン). Heart View. 2009; 13(6):100-105
- 26) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 門脇孝: 炎症・酸化ストレス・小胞体ストレスと肝の糖脂質代謝. 医学のあゆみ. 2009; 229(12):1137-1140
- 27) 山内敏正, 門脇孝: 【炎症と糖尿病・メタボリックシンドローム】 アディポカインネットワークと炎症. 医学のあゆみ. 2009; 229(7):512-518
- 28) 原一雄, 門脇孝: 糖尿病はなぜおきるか メタボリックシンドロームと2型糖尿病. からだの科学. 2009; 34-39
- 29) 山内敏正, 門脇孝: 胃バイパス術と糖代謝. 内分泌・糖尿病科. 2009; 28(5):450-458
- 30) 山内敏正, 門脇孝: 肥満症の食事療法とアディポサイトカイン. Diabetes Frontier . 2009; 20(3):284-292
- 31) 山内敏正, 門脇孝: 【メタボリックシンドロームと血管障害】 メタボリックシンドロームの病態とアディポネクチン. 分子心血管病. 2009; 10(3):247-255
- 32) 高本偉碩, 門脇孝: 【特定健診・保健指導を効果的に進めるために】 メタボリックシンドロームにおける腹囲測定. 地域保健. 2009; 40(6):56-61
- 33) 大杉満, 門脇孝: 【インクレチンをめぐる新発見】 DPP4阻害薬による糖尿病治療. 糖尿病. 2009; 52(6):433-435
- 34) 門脇孝: メタボリックシンドロームを手段とした対生活習慣病対策 対糖尿病戦略をメタボリックシンドロームからアプローチ. 糖尿病UP-DATE. 2009; 4-27
- 35) 門脇孝: 特集にあたって 糖尿病と合併症の臨床と研究の進歩. 月刊糖尿病. 2009; 1(1):35-38
- 36) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 大規模臨床研究から糖尿病治療の在り方を考えるJ-DOIT3 . ホルモンと臨床. 2009; 57(6):555-559

- 37) 岩部真人, 山内敏正, 門脇孝: 【糖尿病の予防と運動の役割】糖代謝のメカニズムと糖尿病. 体育の科学. 2009; 59(7):446-450
- 38) 門脇孝, Angelyn Bethel, Gaedepeter, 植木浩二郎: 2型糖尿病治療における最近の大規模臨床試験. International Review of Diabetes . 2009; 1(7):9-26
- 39) HuFrank B, 門脇孝: 各国の糖尿病対策 米国における糖尿病の疫学的特徴と対策. International Review of Diabetes. 2009; 1(1):62-73
- 40) 山内敏正, 門脇孝: チアゾリジン薬の特徴と使い方. 月刊糖尿病. 2009; 1(2):69-82
- 41) 笹子敬洋, 門脇孝: J-DOIT3について. International Review of Diabetes 1. 2009; 1(1):42-46
- 42) 窪田直人, 門脇孝: 糖・脂質代謝調節における肝臓インスリン作用の役割. Medical Practice . 2009; 26(8):1418-1419
- 43) 山内敏正, 門脇孝: 【特集 PGC-1の多彩な機能と糖・脂質代謝制御における意義】特集にあたって. 内分泌・糖尿病科. 2009; 29(2):93-95
- 44) 岩部真人, 山内敏正, 添田光太郎, 門脇孝: 【特集 PGC-1の多彩な機能と糖・脂質代謝制御における意義】ヒトインスリン抵抗性, 2型糖尿病の遺伝子素因としてのPGC-1 α の意義. 内分泌・糖尿病科. 2009; 29(2):133-138
- 45) 窪田直人, 門脇孝: 糖尿病治療の新しい標的 AKPK. Medical Science. 2009; 35(9):348-349
- 46) 山内敏正, 門脇孝: アディポサイトカイン—アディポネクチン、レジスチンなど. 診断と治療. 2009; 97(9):1857-1864
- 47) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: インスリン作用研究の最前線 肝臓の糖・脂質代謝調節におけるIRS-1、IRS-2の役割. 糖尿病学の進歩. 2009; 42-45
- 48) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療戦略. Medical Science Digest . 2009; 35(10):390-392
- 49) 門脇孝, 柏原直樹, Hans-Henrik Parving: 心血管イベント抑制戦略としての集学的治療の重要性とARBの意義. 内分泌・糖尿病科. 2009; 29(4):375-384
- 50) Alberti Sir George, 門脇孝: 各国の糖尿病対策 国際的な糖尿病対策の現状と課題. International Review of Diabetes1. 2009; 1(2):158-165
- 51) 山内敏正, 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子メカニズムと治療戦略. 血圧. 2009; 16(10):25-30
- 52) 山内敏正, 門脇孝: 2型糖尿病の成因 環境因子からみたインスリン抵抗性の分子病態. Medical Science Digest . 2009; 35(10):401-404
- 53) 山内敏正, 門脇孝: メタボリックメモリーの臨床的意義から分子メカニズムまで. BIO Clinica . 2009; 24(11):962-963
- 54) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 門脇孝: UKPDS, Steno-2試験から明瞭に示されたメタボリックメモリーからのメッセージ-糖尿病の罹患期間の短いうちに厳格な血糖コントロールを目指すことの重要性-. BIO Clinica . 2009; 24:964-968
- 55) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 肝臓の空腹時と食後におけるIRS-1、IRS-2の機能的リレー. BIO Clinica . 2009; 24(13):1206-1211
- 56) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 門脇孝: 【肝臓と代謝疾患】肝臓における糖代謝. BIO Clinica . 2009; 24(13):1142-1147
- 57) 山内敏正, 岩部美紀, 岩部真人, 門脇孝: インスリン作用機構とインスリン抵抗性機構. 総合臨牀. 2009; 58(12):2399-2405
- 58) 山内敏正, 門脇孝: AdipoR. 肥満研究. 2009; 15(3):265-271
- 59) 笹子敬洋, 植木浩二郎, 門脇孝: 2型糖尿病治療のエビデンス. 治療学. 2010; 44(1):20-25
- 60) 山内敏正, 門脇孝: 糖尿病 基礎分野での進歩 アディポネクチン受容体と糖尿病. Annual Review糖尿病・代謝・内分泌2010. 2010; 40-48
- 61) 窪田直人, 窪田哲也, 門脇孝: 糖尿病 基礎分野での進歩 IRS-1/2を介した肝臓でのインスリン情報伝達. Annual Review糖尿病・代謝・内分泌2010 . 2010; 26-33
- 62) 窪田直人, 門脇孝: インスリン. 日本臨牀. 2010; 68(2):121-123
- 63) 饗場直美: 食を通じた高齢者の免疫強化の総合管理. 農林水産技術研究ジャーナル. 2009; 32(5):25-28
- 64) 江崎治: メタボリックシンドローム診断基準と運動効果との関連. 日本臨牀 増刊号2 身体活動・運動と生活習慣病—運動生理学と最新の予防・治療—. 2009;67(954):233-240, 日本臨牀社
- 65) 江崎治: がんと生活習慣の関係は?. Q&Aでわかる肥満と糖尿病. 2009; 8(3):406-409, 丹水社
- 66) 江崎治, 山崎聖美: 多価不飽和脂肪酸(魚油)の栄養学的意義—脂肪肝に対する多様な効果. 治療学. 2009; 43(8):15-19, ライフサイエンス出版
- 67) 江崎治, 三浦進司: 糖・脂質代謝制御におけるPGC-1 α アイソフォームa, b, cの意義. 内分泌・糖尿病科. 2009; 29(2):96-103, 科学評論社
- 68) 江崎治: 日本人の食事摂取基準(2010年) 脂質. 臨床栄養. 2009; 115(3):269-274, 医歯薬出版株式会社
- 69) 江崎治, 千葉剛, 三浦進司: エネルギー代謝とその調節機序 栄養素によるエネルギー代謝調節 筋肉などでの代謝調節. 日本臨床. 2010; 68(2):167-171
- 70) 三浦進司, 只石幹, 江崎治: エネルギー代謝とその調節機序 エネルギー代謝にかかわる因子 転写因子 PGC-1. 日本臨床. 2010; 68(2):189-194
- 71) 渡辺純, 沖智之, 竹林純, 山崎光司, 津志田藤二郎: 食品の抗酸化能測定法の統一化を目指して ORAC法の有用性と他の測定法との相関性. 化学と生物. 2009; 47(4):237-243

- 72) 石見佳子: 食品成分による骨粗鬆症の予防. ILSI JAPAN. 2009; 97:20-29, International Life Sciences Institute of Japan
 - 73) 矢野友啓: 新規alpha-トコフェロールエーテル誘導体の抗がん作用について. ビタミン. 2009; 83(5-6):300-301
 - 74) 石見佳子: マグネシウム・リン 日本人の食事摂取基準 (2010年版). 臨床栄養. 2009; 115(5):547-552, 医歯薬出版
 - 75) 石見佳子: マグネシウムと骨. CLINICAL CALCIUM. 2010; 20(5):134-139, 医薬ジャーナル社
 - 76) 石見佳子: 大豆イソフラボンと骨. CLINICAL CALCIUM. 2009; 19(10):1506-1513, 医薬ジャーナル社
 - 77) 石見佳子: カルシウムの食事摂取基準 特集 運動と新しい食事摂取基準2010. 体育の科学. 2009; 59(10):670-675, 杏林書院
 - 78) 渭原博, 岡野登志夫, 橋詰直孝, 戸谷誠之, 上岡千介, 恩田きみ子, 砂原誠司, 鈴木智子, 板橋光春, 青木芳和, 石橋みどり, 伊藤昭三, 大橋鉦二, 江本毅, 斎藤憲祐, 佐伯かよ子, 長村洋一, 登勉, 廣田晃一, 藤代欣也, 前川真人, 三浦雅一: 血清25ヒドロキシビタミンD測定 of 標準化に関する日本臨床化学会栄養専門委員会の見解. 臨床化学. 2009; 38(2):140-151
 - 79) 渭原博, 渡邊敏明, 橋詰直孝, 戸谷誠之, 上岡千介, 恩田きみ子, 砂原誠司, 鈴木智子, 板橋光春, 青木芳和, 石橋みどり, 伊藤昭三, 大橋鉦二, 榎本毅, 斎藤憲祐, 佐伯かよ子, 長村洋一, 登勉, 廣田晃一, 藤代欣也, 前川真人, 三浦雅一, 柿木孝志, 石井ともみ, 渡邊正一: 自動分析法による血清ビタミンB12測定値の標準化に関する日本臨床化学会栄養専門委員会の見解: SRM1955を参照物質に用いた測定. 臨床化学. 2010; 39(1):58-69, 日本臨床化学会栄養専門委員会
 - 80) 廣田晃一, 戸谷誠之: グルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G6PD). 日本臨牀. 2010; 68(増刊号1):860-863
 - 81) 笠岡(坪山)宣代: 世界の中で見る日本の栄養士. 医と食. 2009; 1(1):44-45, 生命科学振興会
 - 82) 笠岡(坪山)宣代: 米国における研究行政. ILSI JAPAN. 2009; 97:6-8, 国際生命科学研究機構
 - 83) 桑木泰子, 笠岡(坪山)宣代: 各国の臨地・校外実習制度. 医と食. 2009; 1(2):40-42, 生命科学振興会
 - 84) 笠岡(坪山)宣代: 日本人の食事摂取基準2010年版 ~活用の観点から~. New Diet Therapy. 2010; 25(4):7-14
 - 85) 三好美紀, 吉池信男: 我が国における肥満の疫学-諸外国との比較を含めて-. 肥満症 (第2版) -基礎・臨床研究の進歩-, 日本臨床. 2010; 68(増刊号2):349-356
- 【解説等】**
- a. 和 文
 - 1) 森田明美: 高齢者の健康・栄養管理. KAO HEALTH CARE REPORT. 2009; 26:4-5, トップンメディカルコミュニケーションズ
 - 2) 森田明美: 日本人の食事摂取基準2010年について. BEQ NEWS. 2009; 5-6
 - 3) 高田和子: 身体活動量の測定法-エネルギー消費量測定. 日本臨床. 2009; 67(増刊2):154-159
 - 4) 田中茂穂: 身体活動レベル、ウォーキング、健康づくりのための運動指針2006、身体活動強度 (メッツ). 大野誠、津下一代、蒲池桂子編、メタボリックシンドロームディクショナリー. 2009; 271-294, 診断と治療社
 - 5) 田畑泉: 健康づくりのためのエクササイズガイド2006. 日本臨床スポーツ医学会誌. 2009; 17(2):220-224
 - 6) 田中茂穂: 日本人の運動量・身体活動量の評価と現状. 臨床栄養. 2009; 115(1):57-64, 医歯薬出版
 - 7) 宮地元彦: ”すきま” ”ながら” 運動でアクティブライフ~エクササイズガイド応用術~. 健康づくり. 2009; 375(7):1-6, 健康体力づくり事業財団 (東京)
 - 8) 田中茂穂: 運動・身体活動のエビデンス26 少ない身体活動が肥満につながるのではなく、肥満が不活動をもたらす. 健康づくり. 2009; 376:26, 社会保険研究所
 - 9) 宮地元彦: 生活習慣病予防のための運動生理学セミナー: 現場で役立つ運動・身体活動の科学. 臨床栄養. 2009; 115(2):173-180, 医歯薬出版 (東京)
 - 10) 高田和子: 二重標識水法を用いたエネルギー摂取量評価への応用. 臨床スポーツ医学. 2009; 26(9):1097-1102
 - 11) 高田和子: 家族の協力が不可欠な食生活改善. 保健の科学. 2009; 51(9):617-622
 - 12) 高田和子: 高齢者の栄養、現状と対処法. 食生活. 2009; 103(9):12-19
 - 13) 宮地元彦: 高齢者の体力・健康は身体を動かすことで維持・向上できる 特集 加齢を補う力とはなにか. ELDER エルダー. 2009; 185:8-14, (独)高齢・障害者雇用支援機構 (東京)
 - 14) 田畑泉: エネルギー. 特集 日本人の食事摂取基準 (2010年版). 臨床栄養115(3)255-260. 2009; 115(3):255-260
 - 15) 宮地元彦: 身体活動の新指標. 日経ヘルス 健康情報2009秋. 2009; 7
 - 16) 大坂寿雅: 視床下部視索前野のGABA(A)受容体と体温調節. 生体の科学. 2009; 60(5):388-389, 医学書院
 - 17) 田畑泉: 運動のエネルギー、食事のエネルギー. 体育の科学. 2009; 59(10):651-656, 東京
 - 18) 高田和子: スポーツ選手のための食事摂取基準. 体育の科学. 2009; 59(10):664-669
 - 19) 宮地元彦: メタボリックシンドロームを予防・

- 改善する運動・身体活動. 広島県国保. 2009; 673:12, 広島県国民健康保険団体連合会
- 20) 高田和子, 田中茂穂: 適切なエネルギー消費量評価. 臨床スポーツ医学臨時増刊号. 2009; 26:226-233
- 21) 田畑泉: メタボリックシンドローム解消のための生活改善法. 理療. 2009; 39(3):35-41
- 22) 田畑泉: タバタ・プロトコルとは. 運動療法の新展開. 肥満と糖尿病8(6):889-890, 2009.. 2009; 8(6):889-890
- 23) 宮地元彦: エビデンスに基づいた運動指導の必要性和有効性、運動・身体活動がもたらす身体機能の変化. 日本健康運動指導士会会報. 2009; 110:2-7, 東京
- 24) 田中茂穂: 基礎代謝量の季節変動の有無. 日本医事新報. 2009; 4469:82-83
- 25) 高田和子: 介護予防のための運動・身体活動. 臨床栄養. 2009; 115(7):799-805
- 26) 田畑泉: 生活指導ー健康増進・予防医学の立場からーメタボリックシンドローム対策の実際. 循環plus. 2010; 10(6):10-12, メディカルトリビューン (東京)
- 27) 田中茂穂: 動いてやせる! 消費カロリー事典 (監修). 成美堂出版. 2010;
- 28) 窪田哲也: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS) 2 の役割の解明ー血管内皮細胞特異的 IRS-2 欠損マウスを用いてー. 日本糖尿病・肥満動物学会 NWES LETTER. 2009; 13(1):4-5
- 29) 門脇孝, 羽田勝計, 稲垣暢也, 植木浩二郎: 糖尿病と合併症. 糖尿病の成因と治療、合併症をめぐる話題 (座談会). 2009; 1(1):18-33, 月刊糖尿病
- 30) 饗場直美: 肥満を克服するためのカロリー制限: 栄養指導の実際. 医と食. 2010; 2(1):28-31
- 31) 饗場直美: 健康機能食品と健康強調表示. じっきょう 家庭科資料 みんなで家庭科を. 2010; 44:6-9, 実教出版
- 32) 石見佳子: カルシウムとマグネシウムの摂取バランス. 全薬ジャーナル. 2010; 249:14-17
- 33) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 第1回 NRとは. 医と食. 2009; 1(1):46-47
- 34) 梅垣敬三: Q&A 脂肪がつきにくい調理油について解説. 健康づくり. 2009; 373:24
- 35) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 第2回 なぜNRか 過去から未来へのNR. 医と食. 2009; 1(2):44-45
- 36) 梅垣敬三: 健康食品と化学物質. 化学物質と環境 (エコケミストリー研究会増刊号). 2009; 96:17-19
- 37) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (1) 自己開示. 臨床栄養. 2009; 115(1):66-70, 医歯薬出版
- 38) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (2) 行動の試みー発見を引き出す. 臨床栄養. 2009; 115(2):182-185, 医歯薬出版
- 39) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 第3回 NRは消費者に何をどのようにアドバイスするかーサプリメントの必要性、有用性、安全性ー. 医と食. 2009; 1(3):48-49
- 40) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (3) 動機づけインタビュー. 臨床栄養. 2009; 115(3):296-300, 医歯薬出版
- 41) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (4) 個人的な質問にどう対処するか. 臨床栄養. 2009; 115(5):590-593, 医歯薬出版
- 42) 梅垣敬三: 特集 運動と新しい食事摂取基準 2010 摂りすぎに気をつける栄養素. 体育の科学. 2009; 59:676-680
- 43) 梅垣敬三: 世相診断 健康食品ブームに潜む危険. 倫風. 2009; 75-79
- 44) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 第4回 消費者に健康食品のリスクを意識してもらうにはー健康食品による健康被害の事例: 特徴・傾向の把握ー. 医と食. 2009; 1(4):46-47
- 45) 梅垣敬三: Q&A ゴマに含まれるセサミンについて解説. 健康づくり. 2009; 378:24
- 46) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (5) クライアントの抵抗に対処する. 臨床栄養. 2009; 115(6):690-693, 医歯薬出版
- 47) Molly Kellogg, 宮下麻子, 廣田晃一: 栄養セラピストのためのカウンセリングのヒント (6) 意味を探る. 臨床栄養. 2009; 115(7):808-811, 医歯薬出版
- 48) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 第5回 特定保健用食品の上手な利用法ー健康の基本は、食事・運動・休養からー. 医と食. 2009; 1(5):48-49
- 49) 梅垣敬三: ビタミンの安全性ーサプリメントとの関連から. 化学と生物. 2010; 48:71-73
- 50) 佐藤陽子, 中西朋子: 幼児のサプリメント利用について. 家庭科. 2010; 48:71-73
- 51) 西山聡子, 梅垣敬三: これから取る人ももう取った人も迷っている人も NRのためのNR講座 (最終回) 第6回 健康情報の扱い方. 医と食. 2010; 2(1):45-47
- 52) 小島彩子, 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントと医薬品との相互作用 (7) 話題の機能性食品 (特定保健用食品). Functional Food. 2010; 3(3):267-272
- 53) 笠岡 (坪山) 宜代: 糖尿病教育. 食生活. 2009; 103(4):84-87, カザン
- 54) 笠岡 (坪山) 宜代: 研究運営部会の新たな第一歩. (社) 日本栄養士会. 2009;

- 55) 笠岡(坪山)宜代: 米国メリーランド州の学校給食事例. 医と食. 2009; 1(3):44-45, 生命科学振興会
- 56) 笠岡(坪山)宜代, 中西朋子, 佐藤陽子, 瀧沢あす香, 西山聡子, 狩野照誉, 梅垣敬三: 「特別用途食品」「栄養療法エビデンス」情報について. 臨床栄養. 2009; 115(3):232-233, 医歯薬出版
- 57) 笠岡(坪山)宜代: ニンブさんのための食の疑問 Q&A 妊娠したら、なぜかファストフードが大好きに. ninps petit. 2010; 10-11, 2010 winter-spring
- 58) 笠岡(坪山)宜代: 諸外国に学ぶ「管理栄養士のキャリアパス」モントゴメリー郡の料理教室を訪ねて. 医と食. 2010; 2(1):40-41, 生命科学振興会
- 59) 笠岡(坪山)宜代: 妊娠中の塩分、1日にどれくらいなら摂ってもよいの. はたらく妊婦のためのお役立ちサイト ニンブス. 2010;
- 60) 西信雄: 疫学研究方法論 (1) 概要: 各疫学研究デザインの長所・短所を考える. Medical Bio. 2010; 72-75, オーム社
- 61) 笠岡(坪山)宜代: 臨床栄養と食文化. 医と食. 2010; 2(2):100-101, 社団法人生命科学振興会
- 62) 三好美紀: 第19回国際栄養学会に参加して. 医と食. 2009; 1(5):36-38, 社団法人生命科学振興会

【研究報告書】

- 1) 森田明美, 河嶋伸久: 日本人の食事摂取基準を改定するためのエビデンスの構築に関する研究—微量栄養素と多量栄養素摂取量のバランスの解明—, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 2) 荒井裕介, 三好美紀, 廣田晃一, 橋本令子, 角倉知子, 佐藤美津代, 由田克志: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 3) 荒井裕介, 三好美紀, 廣田晃一, 橋本令子, 角倉知子, 佐藤美津代, 由田克志: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究, 平成19～21年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 4) 由田克士, 佐々木敏, 田中茂穂, 田畑 泉, 堤ちはる, 石田裕美, 今枝奈保美, 弘津公子, 荒井裕介, 野末みほ, 山本 茂, 川島由起子, 林静子, 猿倉薫子, 三浦克之, 柴田克己, 森田明美, 吉池信男, 坪田(宇津木)恵: 日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討, 平成19～21年度総合報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 5) 由田克士, 佐々木敏, 田中茂穂, 田畑泉, 堤ちはる, 石田裕美, 今枝奈保美, 弘津公子, 荒井裕介, 野末みほ, 山本 茂, 川島由起子, 林静子, 猿倉薫子, 三浦克之, 柴田克己, 森田明美, 吉池信男, 坪田(宇津木)恵: 日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討, 平成21年度総括・分担報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 6) 由田克士: 食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究: NIPPON DATA 80・90の追跡調査, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 長寿科学総合研究事業
- 7) 由田克士: 健康増進施策・評価のための健康・栄養モニタリングシステムの構築, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 8) 森田明美: 行動変容理論に基づく効率的かつ効果的な特定保健指導手法の疫学的エビデンスとITを援用した開発, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 9) 由田克士: 健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について(中間とりまとめ)」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 10) 森田明美: 「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 11) 坪田(宇津木)恵: 地域在宅高齢者の栄養・食事摂取や食事パターンが高次生活機能低下に及ぼす影響, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 12) 田中茂穂, 高田和子, 田畑 泉, 金子佳代子, 井上 茂, 引原有輝, 朴 鍾薫, 三宅理江子: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 13) 田畑 泉, 津下一代, 樋口 満, 竹中晃二, 福永哲夫, 沼田健之, 呉 泰雄: 健康づくりの運動基準・エクササイズガイド改定に案する研究, 平成19～21年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 14) 高田和子: 高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究: 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 長寿科学総合研究事業
- 15) 宮地元彦: 地域・職域における生活習慣病予防活動・疾病管理による医療費適正化効果に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

- 16) 宮地元彦: 健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について(中間とりまとめ)」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 17) 田畑 泉: 筋ジストロフィーの集学的治療と筋てん化に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 精神・神経疾患研究委託事業
- 18) 田中茂穂: エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(A)
- 19) 大坂寿雅: 終板器官周囲のプロスタグランジンE2発熱機構を制御する神経伝達物質, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(C)
- 20) 谷本道哉: 高齢者が安全に行える効果的な筋力トレーニング法の確立: 筋発揮力維持法の効果検証, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究(B)
- 21) 山元健太: 交感神経系を介した柔軟性体力と動脈硬化の関連機序, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究(B)
- 22) 宮地元彦: 習慣的身体活動はホモシス테인分解酵素遺伝子変異に伴う動脈硬化を予防するか?, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(B)
- 23) 大河原一憲: 日常生活下における肥満抑制因子としての非運動性身体活動と24時間脂質酸化能の役割, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特別研究員奨励費
- 24) 田中憲子: 体幹部骨格筋量の増大がメタボリック症候群の改善および介護予防に及ぼす影響, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特別研究員奨励費
- 25) 柏木厚典, 門脇孝, 羽田勝計, 名和田新, 伊藤博史, 富永真琴, 及川眞一, 野田光彦, 河村孝彦, 三家登喜夫, 難波光義, 柱本満, 笹原誉之, 西尾善彦, 武井泉, 梅本雅夫, 桑克彦, 村上正巳, 小栗孝志: 糖尿病関連検査の標準化に関する委員会: HbA1c国際標準化に関するわが国の対応 糖尿病関連検査の標準化に関する委員会報告. 糖尿病. 2009; 52(9):811-818
- 26) 窪田哲也: 肝臓におけるIRS-1、IRS-2の生理的・病態生理的役割の解明, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(C)
- 27) 渡邊 昌, 饗場直美, 宮地元彦, 森田明美, 水野正一, 山田晃一, 出浦義丈, 野田光彦, 佐々木敏, 河嶋伸久, 大森由実: 特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証及び評価手法の開発に関する研究, 平成21年度総括報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 28) 渡邊 昌: 肥満関連疾患のアジアと米国における遺伝学的検討とその対策に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 地球規模保健課題推進研究事業(国際医学協力研究事業)
- 29) 江崎治, 山崎聖美: ニュートリゲノミクスを用いた高機能性新規食品の多機能性解明とその評価・管理に関する研究. 食品・農産物の表示の信頼性確保と機能性解析のための基盤技術の開発 平成21年度研究成果報告書. 96-97, 2010. 2, 農林水産省農林水産技術会議事務局 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所
- 30) 山崎聖美: 形態形成期・思春期などの高感受性期にある集団での核内受容体作動性化学物質等の有害性発現メカニズムの解明及びその評価手法にかかる総合研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 化学物質リスク研究事業
- 31) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝亢進のメカニズム, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(B)
- 32) 江崎 治: 運動はMEF2を介してGLUT4を増加させるか, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(B)
- 33) 江崎 治: 運動はMEF2を介してGLUT4を増加させるか, 平成19~平成21年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 基盤研究(B)
- 34) 千葉 剛: 脳出血における脳微小血管内皮細胞フォークヘッド型転写因子の役割の解明, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究(B)
- 35) 千葉 剛: 脳出血における脳微小血管内皮細胞フォークヘッド型転写因子の役割の解明, 平成20~21年度研究成果報告書, 文部科学省科学研究費, 若手研究(B)
- 36) 松本輝樹, 竹林 純, 遠藤 香: 「栄養表示基準における栄養成分の分析方法」の測定精度向上のための研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 食品の安心・安全確保推進研究事業
- 37) 松本輝樹, 竹林 純, 遠藤 香: 「栄養表示基準における栄養成分の分析方法」の測定精度向上のための研究, 平成19~21年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生科学研究費, 食品の安心・安全確保推進研究事業
- 38) 石見佳子, 卓興鋼, 梅垣敬三, 山内淳: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的レビューとその検証に関する研究(第2報). 大豆たん白質研究. 2009; 12:11-21
- 39) 東泉裕子: 大豆イソフラボンの安全性評価に関する研究. 平成21年度食品の安心・安全確保推進研究推進事業若手研究者育成活用事業. 2010;
- 40) 東泉裕子: 腸内細菌叢に着目した大豆イソフラボンの生体利用性に関する研究. 平成21年度創造的特別基礎奨励研究報告書. 2010;
- 41) 竹林純、陳健斌, カラムスイッチングHPLC法を

- 用いた食品中ビタミンD分析法の開発、平成21年度分担研究報告書、厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 42) 竹林純, 松本輝樹, 卓興鋼, 坪田(宇津木)恵, 沖智之: 抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品の安全性・有効性に関する研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 43) 竹林純, 沖智之, 陳健斌: 日本において一般的に食されている野菜類からの抗酸化物質一日摂取量の推定, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 44) 石見佳子, 永田純一, 梅垣敬三: 検査機関の信頼性確保に関する研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 45) 永田純一: 機能性食品の組み合わせ摂取による有効性と安全性に関する研究, 平成21年度研究実績報告書 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
- 46) 永田純一: 機能性食品の組み合わせ摂取による有効性と安全性に関する研究, 自己評価報告書 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
- 47) 石見佳子: 大豆イソフラボン代謝産物に着目した骨粗鬆症の予防に関する研究, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費、基盤研究(B)
- 48) 東泉裕子: 男性骨粗鬆症に対する大豆イソフラボン代謝産物の作用とその作用機序の解明, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
- 49) 矢野友啓: 多様な生理活性を持つトコトリエノール安定化による新たな中皮腫予防並びに治療法の構築, 平成21年度受託研究報告書, ヒューマンサイエンス振興財団受託研究
- 50) 矢野友啓: 多様な生理活性を持つこの雨声成分の安定化による新たな難治性慢性疾患の予防及び治療法の構築, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、政策創薬総合研究事業
- 51) 矢野友啓: 多様な生理活性を持つこの雨声成分の安定化による新たな難治性慢性疾患の予防及び治療法の構築, 平成19～21年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、政策創薬総合研究事業
- 52) 竹林 純: 新規抗酸化評価技術に基づいた食品への表示方法の整備, 平成21年度分担研究報告書, 新需要創造対策事業(農林水産省)
- 53) 梅垣敬三, 長村洋一, 齋藤邦明, 信川益明, 山田 浩, 金澤秀子, 佐藤陽子, 狩野照誉, 中西朋子: 健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 54) 梅垣敬三, 佐藤陽子, 狩野照誉, 中西朋子: 特定保健用食品の安全性・有効性のエビデンスに関する検討ー市販後の情報収集に関する実態調査ー 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 55) 梅垣敬三, 笠岡(坪山)宜代, 佐藤陽子, 中西朋子: 健康食品における安全性確保を目的とした基準等作成のための行政的研究 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 56) 梅垣敬三, 石見佳子, 竹林 純, 廣田晃一, 笠岡(坪山)宜代, 佐藤陽子, 中西朋子: 緑茶抽出物含有製品と肝機能障害の関連を示す論文の精査について, 消費者庁受託事業
- 57) 梅垣敬三: 受容体結合測定法を応用した新食品等の健康影響評価法の開発と応用, 平成21年度分担研究報告書, 内閣府食品健康影響評価技術研究
- 58) 笠岡(坪山)宜代, 桑木泰子: 管理栄養士養成のための臨床研修制度についての検討 諸外国における栄養士養成のための臨地・校外実習の現状に関する調査研究, 日本栄養士会政策事業報告書, 2009;
- 59) 三好美紀: 我が国の国際保健人材の栄養分野の研究能力強化とベトナムにおける栄養士教育制度に関する研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、国際医療研究委託事業
- 60) 三好美紀: 健康づくり・生活習慣病予防のための「食育研究データベース」の構築, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 61) 三好美紀: 諸外国のポピュレーションストラテジーの事例調査, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 62) 笠岡(坪山)宜代: 肥満発症に対するタウリンの新規機能の解明, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
- 63) 芝池伸彰, 梅垣敬三, 大森豊緑, 笠岡(坪山)宜代, 山田和彦, 桑木泰子: 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究, 平成21年度総括・分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 64) 芝池伸彰, 梅垣敬三, 大森豊緑, 笠岡(坪山)宜代, 山田和彦, 桑木泰子: 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究, 平成19～21年度総合研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、食品の安心・安全確保推進研究事業
- 65) 徳留信寛: がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究, 平成21年度分担研究報告書, 厚生労働省厚生労働科学研究費、第3次対がん戦略研究事業
- 66) 徳留信寛: 東南アジア諸国における消化管がん

- の宿主・環境要因の研究, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費, 特定領域研究
- 67) 徳留信寛: イラン・バボール市における消化管がんの宿主・環境要因の研究, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B) 海外学術研究
- 68) 徳留信寛: 全国栄養士の食生活と生活習慣病の罹患・死亡リスクとの関連に関するコホート研究, 平成21年度研究実績報告書, 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 69) 徳留信寛: 全国栄養士の食生活と生活習慣病の罹患・死亡リスクとの関連に関するコホート研究, 自己評価報告書, 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)

【国際学会等】

a. 特別講演

- 1) Ishikawa-Takata K: エネルギー消費量の評価方法—二重標識水法を中心として. 韓国運動栄養学会. 2009.11.27, 韓国
- 2) Kadowaki T: Epidemic of type 2 diabetes in Japan—Its causes and preventive strategies. 3rd International Congress on Pre diabetes and the Metabolic Syndrome. 2009.04.02, Nice
- 3) Kadowaki T: The Rule of IRS2 in Hepatic Insulin Sensitivity. Diabetes, Obesity and Metabolism Editorial Board Meeting. 2009.06.06, New Orleans
- 4) Kadowaki T: Adipocyte. 20th World Diabetes Congress (IDF). 2009.10.20, Canada
- 5) Kadowaki T: Asia Pacific Conference on the Metabolic Syndrome. Inflammation and the Metabolic Syndrome. 2009.11.21, Melbourne, Australia
- 6) Kadowaki T: A public Health Approach to Abdominal Obesity: The Japanese Experience. 1st International Congress on Abdominal Obesity. 2010.01.28, Hong Kong, China
- 7) Kadowaki T: Adiponectin: a Key Regulator of Diabetes and Cancer. A symposium at Institute Pasteur Korea. 2010.02.19, Seoul, Korea
- 8) Kadowaki T: Role of Adiponectin and Adiponectin Receptors in Insulin Resistance. The Official Satellite Symposium of the 14th ICE 2010. 2010.03.25, 東京

b. シンポジウム等

- 1) Nagata J, Kasai M, Negishi S, Aoyama T, Saito M: Effects of Structured Lipids containing n-3 PUFA and Caprylic Acid on Lipid Profiles and Lymphatic Absorption of Rats.. 100th AOCS Annual Meeting. 2009.05.04, Orlando(USA)

- 2) Ishimi Y: Possible role of equol status on the effects of isoflavones on bone and fat mass in postmenopausal Japanese women. . Equol, Soy, and Menopause Research Leadership Conference. 2009.06.16, Washington DC

c. 一般講演等

- 1) Morita A, Okamura N, Aiba N, Miyachi M, Sasaki S, Kawashima N, T.Utsugi M, Watanabe S: The effect of weight loss program on bone metabolism in Japanese obese people. 19th IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics. 2009.07.07, Paris
- 2) T.Utsugi M, Ito-Sato R, Ohkubo T, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Kurimoto A, Suzuki K, Totsune K, Imai Y: Predictor of decline in higher-level functional capacity among elderly Japanese: the Ohasama study.. 19th IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics.. 2009.07.07, Paris
- 3) Yoshita K, Arai Y, Nozue M, Tanaka H, Kawano M: Outline for the results of the National Health and Nutrition Survey Japan 2007. 19th International Congress of Nutrition. 2009.10.07, Bangkok, Thailand
- 4) Kawashima N, Morita A, T.Utsugi M, Teshima T, Kawakami J, Aiba N, Watanabe S: Nutrient content of serving food and usage of Dietary Reference Intakes for Japanese in long-term care facilities for the elderly in Japan. 19th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics. 2009.07.07, Paris
- 5) Nakamura K, Hirokawa W, Sakurai M, Morikawa Y, Miura K, Ishizaki M, Yoshita K, Kido T, Naruse Y, Nakagawa H: Mild metabolic abnormality and risk of cardiovascular diseases among middle-aged men. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the Japan Epide. 2010.01.09, Saitama
- 6) Funabashi K, Kondo I, Nakamura M, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H: Intake of food groups in Japan: NIPPON DATA 80,90. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the Japan Epide. 2010.01.09, Saitama
- 7) Nakamura M, Kondo I, Funabashi K, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H: Food group intake by birth cohort in the Japanese population. The Joint Scientific Meeting of the

- International Epidemiological Association Western Pacific Region and the Japan Epide. 2010.01.09, Saitama
- 8) Nozue M, Sarukura N, Arai Y, Umegaki K, Yoshita K: Food for specified health uses and dietary supplement use among adults in Japan. 19th International Congress of Nutrition. 2009.10.08, Bangkok, Thailand
- 9) Sakurai M, Nakashima M, Nakamura K, Miura K, Yoshita K, Morikawa Y, Ishizaki M, Murakami K, Kido T, Naruse Y, Sasaki S, Nakagawa H: Dietary glycemic index, glycemic load and blood lipid levels in middle-aged Japanese men and women. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the Japan Epide. 2010.01.09, Saitama
- 10) Kondo I, Funabashi K, Nakamura M, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H: Association between food group intake and serum total cholesterol level in the Japanese population: NIPPON DATA 80,90. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the Japan Epide. 2010.01.09, Saitama
- 11) Park JH, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Mekata Y, Tabata I: Validation of accelerometers during walking at three step frequency on various walking speeds. 2009 American College of Sports Medicine (ACSM). 2009.05.28, Seattle
- 12) Ohkawara K, Tanaka S, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Sleeping metabolic rate is not a strong contributor to weight gain in Japanese adults. Obesity 2009, the 27th Annual Scientific Meeting of The Obesity Society. 2009.10.25, Washington, DC
- 13) Sanada K, Miyachi M, Yamamoto K, Higuchi K, Tabata I: Reference value and prediction model of sarcopenia in Japanese men and women. 56th Annual Meeting, American College of Sports and Medicine. 2009.05.31, Seattle, WA, USA
- 14) Katayama Y, Ohkawara K, Sasai H, Eto M, Nakata Y, Tanaka S, Tanaka K: Increased daily physical activity contributes to weight reduction during an exercise program in obese men. 2009 American College of Sports Medicine (ACSM) . 2009.05.27, Seattle
- 15) Ishikawa-Takata K, Ichihara N, Namba K, Fujii S, Fujioka Y: Evaluation of total energy expenditure in patients with amyotrophic lateral sclerosis. International Congress of Nutrition. 2009.10.04, Bangkok, Thailand
- 16) Ohkawara K, Tanaka S, Tanimoto M, Miyachi M, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Effect of high-intensity resistance training on twenty-four-hour respiratory quotient. 2009 American College of Sports Medicine (ACSM). 2009.05.28, Seattle
- 17) Miyachi M, Sanada K, Gando Y, Yamamoto K, Murakami H, Tanimoto M, Ohmori Y, Tabata I: Attenuated age-related increase in carotid intima-media thickness in cardiorespiratory fit men and women. 56th Annual meeting, American College of Sports and Medicine. 2009.05.27, Seattle, WA, USA
- 18) Kadowaki T: 合併症抑制に向けた糖尿病治(ランチョンセミナー). The 14th International Congress of Endocrinology (ICE2010). 2010.03.28, 京都
- 19) Kubota N, Kubota T, Ueki K, Yamauchi T, Yasuhiko M, Kadowaki T: The role of adiponectin in the CNS in the regulation of energy homeostasis. Satellite Symposium of the 9th International Symposium on VIP, PACAP and Related Peptides . 2009.10.02, Yakushima (屋久島)
- 20) Kubota N, Kubota T, Yamauchi T, Ueki K, Kadowaki T: The physiological and pathophysiological roles of Insulin Receptor substrate 1 and 2 in the regulation of glucose and lipid metabolism in the liver. The 15th Korea-Japan Symposium on Diabetes Mellitus . 2009.11.19, Jeju Island (韓国済州島)
- 21) Kubota N, Kubota T, Yamauchi T, Ueki K, Kadowaki T: The physiological and pathophysiological roles of Insulin Receptor substrate 1 and 2 in the regulation of glucose and lipid metabolism in the liver. The 15th Congress of the ASEAN Federation of Endocrine Societies. 2009.11.28, Bangkok (タイ バンコク)
- 22) Kadowaki T: Strategic Options to Reduce its Complications in Treatment of Type 2 Diabetes Mellitus. The 14th International Congress of Endocrinology (ICE2010). 2010.03.28, 京都
- 23) Nakade M, Aiba N, Morita A, Shimizu S, Ikemoto S, Watanabe S: Eating behaviors related to weight loss and weight loss maintenance. . International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity. 2009.06.19, Lisbon, Portugal
- 24) Nakade M, Lee JS, Kawakubo K, Kondo K, Mori K: Changes in food intake patterns associated with short- and long-term body weight loss in a Japanese population.. International Congress of Nutrition.

- 2009.10.06, Bangkok, Thailand
- 25) Yamazaki T: The exposure of mice at puberty to BPA causes NAFLD. Society of Toxicology, PPTOXII: Role of Environmental Stressors in the Developmental Origins of Disease. 2009.12.07, Miami, Florida, USA
 - 26) Miura S, Kai Y, Ezaki O: Fibrate treatment causes muscle atrophy with increased FOXO1 mRNA in a PPAR α -dependent manner in mice. The 69th American Diabetes Association Scientific Sessions. 2009.06.06, New Orleans, LA, USA
 - 27) Nagao K, Shirouchi B, Inoue N, Inafuku M, Yanagita T: Prevention and Alleviation of Metabolic Syndrome with Bioactive Phospholipids.. 100th American oil chemist' society annual meeting & expo. 2009.05.04, Orlando, Florida, USA
 - 28) Takano Y, Iawata H, Sato H, Okuzawa H, Yamada R, Nagashima Y, Yamamura K, Ueno K, Yano T: Improvement of sensitivity to vinblastine by restoration of connexin 32 gene in renal cell carcinoma cells. 2009AACR annual meeting. 2009.04.19, Denver, CO, USA
 - 29) Nagata J, Saga K, Nakamura A, Yamada K: Effects of Ashitaba (*Angelica keiskei*) extracts on lipid accumulation and gene expressions related to lipid metabolism in cultured rat adipocyte. 19th International Congress of Nutrition (ICN2009). 2009.10.07, Thailand (Bangkok)
 - 30) Ishimi Y, Koitaya N, Nishimuta M, Yamauchi J, Komatsu M, Aoki M, Sasaki S, Morishita K: Effect of vitamin K2 (MK-4) supplementation on bone and lipid metabolism in postmenopausal Japanese women. 19th International Congress of Nutrition. 2009.10.09, Bangkok
 - 31) Tousen Y, Ezaki J, Abe F, Uehara M, Ishimi Y: Effect of Japanese diet, catechin, high carbohydrate and dietary fiber, on bioavailability of soybean isoflavone in ovariectomized mice. 19 th International Congress of Nutrition. 2009.10.07, Bangkok
 - 32) Shirouchi B, Nagao K, Koga S, Matsumoto H, Otsubo K, Nagata J, Yanagita T: Dietary phosphatidylinositol prevents metabolic syndrome in obese, diabetic rats. 19th International Congress of Nutrition. 2009.10.07, Bangkok, Thailand
 - 33) Shirouchi B, Nagao K, Nagata J, Yanagita T: Dietary Phosphatidylinositol (PI) in Metabolic Syndrome. 38th UJNR Food & Agriculture Panel Meeting. 2009.10.05, Tsukuba, Ibaraki, Japan
 - 34) Kashiwagi K, Nakashima K, Inami W, Yano Y, Ando A, Hagiwara K, Yano T: A redox-silent analogue of tocotrienol acts as a potential anti-mesothelioma agent via the inhibition of Yes and Stat3. 2009AACR annual meeting. 2009.04.19, Denver, Co, USA
 - 35) Umekuni T, Ogino Y, Koike N, Hosoi T, Ebihara M, Hirota K: The reliability of vitamins information available on the Japanese sites. Asia Pacific Association for Medical Informatics 2009. 2009.11.23, 広島県広島市
 - 36) Taku K, Melby MK, Takebayashi J, Mizuno S, Ishimi Y, Omori T, Watanabe S: Isolated soy isoflavone supplements for postmenopausal bone loss: systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials (Abstract). J Bone Miner Res 24 (Suppl 1)/The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 31st Annual Meeting. 2009.09., September 11-15, 2009; Colorado Convention Center, Denver, CO, USA
 - 37) Taku K, Melby MK, Takebayashi J, Mizuno S, Ishimi Y, Omori T, Watanabe S: Isolated soy isoflavone supplements for postmenopausal bone loss: systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials (Abstract). Ann Nutr Metab. 55(suppl 1); 385/19th International Congress of Nutrition (ICN 2009). 2009.10., 4-9 October 2009; BITEC, Bangkok, Thailand
 - 38) Taku K, Melby MK, Kurzer MS, Mizuno S, Omori T, Watanabe S, Ishimi Y: Effects of soy isoflavone supplements on bone turnover markers in menopausal women: systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials (Abstract). APAMI2009 Proceedings/Asia Pacific Association for Medical Informatics (November 22-24, 2009). 2009.11., Hiroshima, Japan
 - 39) Taku K, Aoki N, Melby MK, Ishimi Y, Watanabe S: Effects of constituent and extracted soy isoflavones on blood lipid profiles: meta-analysis of randomized controlled trials (Abstract). The 1st International Congress on Abdominal Obesity: Bridging the Gap Between Cardiology and Diabetology (CMReJournal). 2010.01.28, Hong Kong, China
 - 40) Taku K, Aoki N, Melby MK, Ishimi Y, Watanabe S: Effects of constituent and extracted soy isoflavones on blood lipid profiles: meta-analysis of randomized controlled trials (Abstract). Ann Nutr Metab. 55(suppl 1); 584/19th International Congress of Nutrition (ICN 2009). 2009.10.,

- 4-9 October 2009; BITEC, Bangkok, Thailand
- 41) Koike N, Miyoshi M, Arai Y, Sumikura T, Hirota K: Development of Information Website on "Shokuiku" for Health Promotion and Lifestyle-Related Diseases Prevention. Asia Pacific Association for Medical Informatics 2009. 2009.11.23, Hiroshima, Japan
 - 42) Hosoi T, Ebihara M, Koike N, Hirota K: Administration of sports related information & research integrated website for Japanese sports & health related professionals. Asia Pacific Association for Medical Informatics 2009. 2009.11.23, 広島県広島市
 - 43) Tsuboyama-Kasaoka N: Taurine synthesis is regulated fat cell size. International Congress of Nutrition. 2009.10.07, Bangkok, Thailand
 - 44) Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K, Yoshiike N: Strategies for Health Promotion and Lifestyle-related diseases Prevention by Shokuiku: Application of Overseas Evidences. 19th International Congress of Nutrition. 2009.10.08, Bangkok, Thailand
 - 45) Grant EJ, Neriishi K, Cologne J, Eguchi H, Hayashi T, Geyer S, Izumi S, Nishi N, Land C, Stevens R, Sharp GB, Nakachi K: Effects of radiation on serum risk markers of breast cancer found in healthy A-bomb survivors. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the JEA. 2010.01.09, Saitama
 - 46) Ozasa K, Shimizu Y, Nishi N, Soda M, Grant EJ, Sakata R, Sugiyama H, Nonaka Y, Kasagi F, Suyama A: Birth cohort effect on cancer mortality in Japan, 1950-2006. The Joint Scientific Meeting of the International Epidemiological Association Western Pacific Region and the JEA. 2010.01.09, Saitama
- のエクササイズガイド2006. 第20回日本スポーツ歯科医学会学術総会. 2009.07.04, さいたま市
- 6) 宮地元彦: 運動習慣が決めて: ストップ・ザ・メタボ心臓病を防ぐために. 第57回日本心臓病学会学術集会、市民公開講座. 2009.09.20, 札幌市、ロイトン札幌
 - 7) 門脇孝: メタボリックシンドロームに着目した特定健診・保健指導の意義. 日本肥満学会主催「より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」. 2009.06.14, 東京
 - 8) 門脇孝: 肥満とアディポカイン—メタボリックシンドロームを理解する—. 第2回日本肥満症治療学会. 2009.07.11, 東京
 - 9) 門脇孝: 2型糖尿病の体質とそれをふまえた治療戦略. 第59回日本体質医学会総会. 2009.07.25, 東京
 - 10) 門脇孝: 糖尿病ガイドライン: 治療の面から. 第57回日本心臓学会学術集会. 2009.09.20, 北海道
 - 11) 窪田直人: 遺伝子改変マウスを用いた肥満症・インスリン抵抗性の分子メカニズムの解明. 第30回日本肥満学会 (学術奨励賞受賞講演). 2009.10.09, 浜松
 - 12) 窪田直人: 遺伝子改変マウスを用いた糖尿病合併症の分子メカニズムの解明. 第24回日本糖尿病合併症学会 (Young Investigator Award受賞講演). 2009.10.09, 岡山
 - 13) 門脇孝: アディポサイトカインと心血管内分泌代謝学. 第13回日本心血管内分泌代謝学会学術総会. 2009.10.24, 埼玉
 - 14) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療戦略—網膜症を含めて—. 第15回日本糖尿病眼学会総会. 2009.12.06, 名古屋
 - 15) 江崎治: QOLの視点から望ましい食事と運動の姿を考える. 第10回日本QOL学会. 2009.09.27, 独立行政法人 国立健康・栄養研究所(東京)
 - 16) 石見佳子: ポリフェノールの測定と機能性について. 第3回日本ポリフェノール研究会. 2009.08.07, お茶の水女子大学

【国内学会等】

a. 特別講演

- 1) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 改定のポイント. 第16回日本健康体力栄養学会学術総会. 2009.06.13, 東京
 - 2) 森田明美: 新しい食事摂取基準 (2010版). 社団法人千葉県栄養士会 第10回 平成21年度千葉県栄養改善学会. 2010.02.06, 千葉県千葉市
 - 3) 宮地元彦: 運動・体力と健康. 第3回日本トレーニング指導者協会総会. 2009.06.21, 東京
 - 4) 宮地元彦: 血管の柔らかさと有酸素・レジスタンス運動. 第11回加圧トレーニング・カンファレンス. 2009.06.21, 東京
 - 5) 田畑泉: メタボリックシンドローム解消のため
- b. シンポジウム等
- 1) 石見佳子: 健康食品の効き目とリスク—誰が何を決めるか— 健康食品の効き目—大豆イソフラボン—を事例として—. 日本学術会議パブリックヘルス分科会・日本衛生学会合同公開シンポジウム. 2009.04.01, 東京
 - 2) 由田克士: 生活習慣の改善による高血圧の予防—栄養・食生活面からのアプローチ—. 第32回日本高血圧学会 コメディカルシンポジウム. 2009.10.03, 大津
 - 3) 森田明美: 健康日本21最終年を控えて今後の課題を明らかにする. 第68回日本公衆衛生学会総会. 2009.10.23, 奈良県奈良市
 - 4) 田中茂穂: NEATを含む身体活動量の個人間変動. 第63回日本栄養・食糧学会大会 関連学術集会 日本ヒューマンカロリーメーター協議会.

2009. 05. 21, 長崎
- 5) 田中茂穂: 食事摂取基準策定のための研究—身体活動量—ランチョンセミナー (国立健康・栄養研究所、健康・体力づくり事業財団合同). 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 18, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 6) 引原有輝, 足立稔, 緑川泰史, 田中千晶, 田中茂穂: 小児の体力と身体活動 シンポジウム: 小児の体力低下・肥満と身体活動—エビデンスに基づく対策の提言—. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 18, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 7) 田中千晶, 引原有輝, 田中茂穂: 小児の身体活動量・強度測定の留意点 シンポジウム: 小児の体力低下・肥満と身体活動—エビデンスに基づく対策の提言—. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 18, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 8) 宮地元彦: 運動基準改定のための研究—大規模介入研究—ランチョンセミナー2 「厚生労働行政研究と日本体力医学会」. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 18, 新潟市
 - 9) 宮地元彦, 田中茂穂, 高田和子, 田畑泉: 生活習慣病予防と最大酸素摂取量—運動基準2006の策定—シンポジウム8: 健康と最大酸素摂取量. 第64回日本体力医学会大会、体力科学. 2009. 09. 19, 新潟市
 - 10) 宮地元彦: ランチョンセミナー4 「コンバインドトレーニングの効果」. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 新潟市
 - 11) 田畑泉: 肥満・メタボリックシンドロームと運動・身体活動, シンポジウム1. 第46回日本臨床生理学会総会. 2009. 10. 22, 宮城県盛岡市アイーナ
 - 12) 田中茂穂: エネルギー消費量の個人間変動および肥満への寄与. 第85回 日本栄養・食糧学会 関東支部会シンポジウム. 2010. 03. 14, 独立行政法人 国立健康・栄養研究所
 - 13) 窪田直人, 窪田哲也, 伊藤晋介, 山内敏正, 寺内康夫, 戸辺一之, 植木浩二郎, 門脇孝: インスリンシグナルの破綻と糖尿病 肝臓の糖・脂質代謝におけるIRS-1、IRS-2の役割. 第82回日本内分泌学会学術総会. 2009. 04. 23, 前橋
 - 14) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 糖尿病体質とは 糖尿病の分子生物学の最前線 肝臓の糖・脂質代謝におけるIRS-1、IRS-2の機能的な役割分担. 第59回日本体質医学会. 2009. 07. 25, 東京
 - 15) 窪田哲也: 骨格筋のインスリン感受性調節における血管内皮細胞のインスリンシグナルの役割の解明. 第14回アディポサイエンス研究会. 2009. 08. 22, 大阪
 - 16) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 箕越靖彦, 門脇孝: アディポネクチンの摂食・エネルギー調節における役割. 第62回日本自律神経学会 (シンポジウム). 2009. 11. 06, 和歌山
 - 17) 門脇孝: The central role of adiponectin and AdipoRs in obesity-linked diseases. 第14回 慶應医学賞受賞記念シンポジウム. 2009. 12. 05, 東京
 - 18) 門脇孝: 病気はなぜおこるのか?—遺伝子と環境の問題—(市民講座). 第32回日本分子生物学会年会. 2009. 12. 12, 横浜
 - 19) 三浦進司: 運動はどのようにして脂肪酸酸化を亢進するのか. 日本農芸化学会2010年度大会 シンポジウム (骨格筋機能と生活習慣病). 2010. 03. 30, 東京大学 (東京)
 - 20) 永田純一: 特定保健用食品の健康 (強調) 表示について. 日本食品免疫学会. 2009. 11. 06, 東京
 - 21) 梅垣敬三: 食品の機能性・安全性の検討において留意したい事項. 日本食品免疫学会2009年度大会. 2009. 05. 27, 東京
 - 22) 梅垣敬三: サプリメントの必要性和エビデンス. 第9回日本抗加齢医学会総会. 2009. 05. 28, 東京
 - 23) 梅垣敬三: 新開発食品の機能性と安全性の評価. 第53回日本薬学会関東支部会 若手シンポジウム. 2009. 10. 03, 埼玉県
 - 24) 梅垣敬三, 中西朋子, 佐藤陽子, 笠岡(坪山)宜代: 科学的根拠に基づいた製品とその利用 (病態栄養学におけるサプリメントの位置づけと現状). 第13回日本病態栄養学会. 2010. 01. 09, 京都
 - 25) 原光彦, 斎藤恵美子, 伊藤裕佳, 笠岡(坪山)宜代, 黒森由紀, 岩田富士彦, 岡田知雄, 麦島秀雄: 小児肥満における血中タウリン動態の検討. 第30回日本肥満学会 シンポジウム. 2009. 10. 09, 浜松
 - 26) 笠岡(坪山)宜代: ～食事摂取基準 2010 年版の策定、2015 年版に向けて～. 平成 21 年度 全国研究教育栄養士協議会 研修会 研究運営部会 シンポジウム. 2010. 03. 06, 福岡
- c. 一般講演等
- 1) 森田明美, 岡村信子, 饗場直美, 宮地元彦, 佐々木敏, 河嶋伸久, 渡邊昌: 肥満者に対する体重減少プログラムが骨代謝へ及ぼす影響. 第9回日本抗加齢医学会. 2009. 05. 28, 東京都
 - 2) 中島素子, 櫻井 勝, 三浦克之, 中村幸志, 森河裕子, 石崎昌夫, 城戸照彦, 成瀬優知, 由田克士, 佐々木 敏, 中川秀昭: 日本人中年男女におけるグリセミックロードと血清脂質との関連. 第45回日本循環器病予防学会. 2009. 06. 06, 横浜
 - 3) 由田克士, 荒井裕介, 野末みほ: 日本人の食事摂取基準 (2005年版) の活用状況と次期改定に望まれる活用方法理解のための取り組み (第2報). 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 札幌市
 - 4) 野末みほ, 猿倉薫子, 由田克士: 食事調査に用いられる青果物の目安量に関する検討. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 札幌市
 - 5) 奥田奈賀子, 三浦克之, Turin Tanvir C, 中川秀昭, 中村幸志, 由田克士, 松村康弘, 岡山明, 上島弘嗣: 食塩摂取量と血圧の関連:

- NIPPON DATA80国民栄養調査統合データセットより. 第32回日本高血圧学会. 2009. 10. 02, 大津
- 6) 荒井裕介, 三好美紀, 角倉知子, 由田克士: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究 (第5報) -自由記述回答の解析-. 第56回日本栄養改善学会. 2009. 09. 03, 札幌市
 - 7) 荒井裕介, 由田克士, 三浦克之, 永山栄美, 東山正子, 櫻井 勝, 中川秀昭, 石田裕美: 職域における負荷の小さな減量プログラムの効果について (第2報) -教材の活用と指導内容-. 第82回日本産業衛生学会. 2009. 05. 21, 福岡
 - 8) 由田克士, 荒井裕介, 三浦克之, 永山栄美, 東山正子, 櫻井 勝, 中川秀昭, 石田裕美: 職域における負荷の小さな減量プログラムの効果について (第1報) -取り組みの概要-. 第82回日本産業衛生学会. 2009. 05. 21, 福岡
 - 9) 由田克士: 職域における栄養・食生活分野からのポピュレーションアプローチを考える. 日本産業衛生学会産業栄養研究会. 2009. 05. 20, 福岡
 - 10) 山内淳, 石見佳子, 山本祐司, 白鳥明日香, 田所忠弘, 井上絵里奈: 脂肪細胞におけるRBP遺伝子発現調節機構の解析. 日本農芸化学関西・中四国・西日本支部 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部 日本食品科学工学西日本支部3学会5支部合同大会. 2009. 10. 31, 琉球大学
 - 11) 山内淳, 石見佳子, 山本祐司, 田所忠弘, 井上絵里奈: 脂肪細胞におけるRBP遺伝子発現調節機構の解析. 日本ビタミン学会第61回大会. 2009. 05. 31, 京都
 - 12) 三浦克之, 上島弘嗣, 中川秀昭, 岡山 明, 坂田清美, 斎藤重幸, 由田克士, 奥田奈賀子, Paul Elliott, Jeremiah Stamler: 一価不飽和脂肪酸摂取量と血圧との関連: 4ヶ国共同研究 INTERMAP. 第45回日本循環器病予防学会. 2009. 06. 06, 横浜
 - 13) 山内淳, 石見佳子, 山本祐司, 田所忠弘, 井上絵里奈: Glut4ノックダウン3T3-L1細胞を用いたRBP遺伝子プロモーター領域の解析. 第63回日本栄養・食糧学会大会. 2009. 05. 22, 長崎
 - 14) 由田克士, 荒井裕介, 野末みほ: 24時間思いだし法と比例案分法から得られた食事調査成績の関連と関連する要因の検討. 第68回日本公衆衛生学会総会. 2009. 10. 22, 奈良市
 - 15) 田中千晶, 田中茂穂, 安藤貴史: 幼児の生活環境と日常の身体活動量との関係. 日本発育発達学会第8回大会. 2010. 03. 28, 山梨大学 (甲府)
 - 16) 田中千晶, 引原有輝, 大河原一憲, 田中茂穂: 幼児における日常の身体活動量と体力との関係. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 17) 三宅理江子, 田中茂穂, 大河原一憲, 引原有輝, 高田和子, 大島秀武, 川口加織, 田畑泉: 歩行と歩行以外の活動別にみた中高強度活動の継続性. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 18) 大森由実, 森田明美, 饗場直美, 中出麻紀子, 宮地元彦, 渡邊昌: 中高齢者における心理特性と身体指標との関連. 第30回日本肥満学会. 2009. 10. 09, アクトシティ浜松、静岡県浜松市中区板屋町111-1
 - 19) 朴鍾薫, 高田和子, 田中茂穂, 田畑泉: 中高年女性におけるBMI (kg/m²、体格指数) および体脂肪率と一日の身体活動量との関係一横断的研究. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 20, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 20) 松本希, 宮地元彦, 吉岡哲, 小宮山真世, 小野寺昇: 中学生の動脈スティフネス. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 新潟
 - 21) 吉田明日美, 高田和子, 別所京子, 田口素子, 辰田和佳子, 戸谷誠之: 大学女性スポーツ選手におけるエネルギー摂取量評価の精度に影響する要因について. 第56回日本栄養改善学会総会. 2009. 09. 04, 札幌
 - 22) 家光素行, 村上晴香, 真田樹義, 山元健太, 河野寛, 丸藤祐子, 谷本道哉, 田畑泉, 宮地元彦: 体力レベルの違いが動脈stiffnessとMTHFR遺伝子多型の関係に及ぼす影響. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 新潟
 - 23) 熊江隆, 古泉佳代, 金子佳代子: 女子大生の血清中酸化・抗酸化バランスに及ぼす6ヶ月間の牛乳摂取の影響. 第63回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集. 2009. 05. 22, 長崎ブリックホール (長崎市)
 - 24) 熊江隆, 古泉佳代, 金子佳代子: 女子大生のアディポサイトカインに及ぼす6ヶ月間の牛乳摂取の影響. 第19回体力・栄養・免疫学会プログラム・抄録集. 2009. 08. 23, 埼玉県坂戸市 女子栄養大学
 - 25) 河野寛, 谷本道哉, 山元健太, 丸藤祐子, 真田樹義, 樋口満, 宮地元彦: 習慣的な筋力トレーニングと前腕静脈コンプライアンスとの関係. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 18, 新潟
 - 26) 大坂寿雅: 終板器官周囲部でのノルアドレナリンの体温低下作用. 体温調節、温度受容研究会. 2009. 09. 10, 自然科学研究機構岡崎カンファレンスセンター (岡崎市)
 - 27) 大島秀武, 川口加織, 引原有輝, 田中千晶, 大河原一憲, 高田和子, 田中茂穂, 田畑泉: 児童における加速度センサを用いた歩行活動と日常生活活動の判別. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 20, 朱鷺メッセ (新潟市)
 - 28) 村上晴香, 家光素行, 真田樹義, 谷本道哉, 田中憲子, 塙 智史, 山元健太, 丸藤祐子, 川上諒子, 宮地元彦: 血中ホモシステイン濃度と脚伸展パワーとMTHFR遺伝子多型との関連. 第64回日本体力医学会. 2009. 09. 18
 - 29) 熊江隆: 強化合宿が男子大学長距離選手の睡眠時心拍スペクトルと主観的疲労度に及ぼす影響. 日本公衆衛生雑誌. 2009. 10. 22, 奈良県文化会館 (奈良市)
 - 30) 谷本道哉, 真田樹義, 河野寛, 丸藤祐子, 山元健太, 田畑泉, 宮地元彦: 筋発揮力維持法

- (LST)を用いた筋力トレーニングが安静時代謝量に与える影響. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 19, 新潟
- 31) 市原典子, 鎌田裕子, 高田和子, 難波和美, 藤井正吾: 筋委縮性側索硬化症における二重標識水法を用いた総消費熱量測定に関する研究. 国立病院総合医学会. 2009. 10. 23, 仙台
- 32) 熊江隆, 鈴川 一宏, 水野 増彦, 田畑泉: 強化合宿による大学男子短距離選手の主観的疲労度と血液検査値の変動. . 第64回日本体力医学会大会予稿集. 2009. 09. 19, 朱鷺メッセ (新潟市)
- 33) 田中千晶, 田中茂穂: 異なる職業に従事する日本人男女における日常の身体活動量の比較. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 04, 札幌市
- 34) 丸藤祐子, 山元健太, 村上晴香, 川上諒子, 谷本道哉, 埴智史, 田中憲子, 田畑泉, 樋口満, 宮地元彦: 3次元加速度計を用いた身体活動量および心肺体力と動脈硬化との関係. 日本体力医学会. 2009. 09. 20, 新潟
- 35) 引原有輝, 田中千晶, 田中茂穂, 大河原一憲, 高田和子, 大島秀武, 川口加織, 田畑泉: 3次元加速度計を用いた児童の身体活動強度の評価—成人との比較に着目して—. 第64回日本体力医学会大会. 2009. 09. 20, 朱鷺メッセ (新潟市)
- 36) 門脇孝: 発生工学的研究を用いた糖尿病創薬研究の戦略. 第56回日本実験動物学会総会. 2009. 05. 14, 埼玉
- 37) 門脇孝: 糖尿病患者の新たな治療ステージ (ランチョンセミナー). 第52回日本糖尿病学会年次学術集会総会. 2009. 05. 23, 大阪
- 38) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療戦略—最近の知見—. 第46回日本臨床分子医学会学術総会. 2009. 04. 12, 東京
- 39) 門脇孝: 糖尿病. 日本内科学会学術集会. 2009. 11. 08, 米子
- 40) 門脇孝: 糖尿病. 日本人類遺伝学会第54回大会. 2009. 09. 24, 東京
- 41) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 山口真一, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢のIRS-2の糖代謝調節における役割の解明—脳特異的IRS-2欠損マウスを用いて—. 第83回日本内分泌学会学術総会. 2010. 03. 26, 京都
- 42) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 山口真一, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢のIRS-2の糖代謝調節における役割の解明—脳特異的IRS-2欠損マウスを用いて—. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009. 05. 22, 大阪
- 43) 井上真理子, 窪田直人, 窪田哲也, 山口真一, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 中枢のIRS-2の糖代謝調節における役割の解明—脳特異的IRS-2欠損マウスを用いて—. 第46回日本臨床分子医学会学術集会. 2009. 04. 12, 東京
- 44) 三田智也, 東浩介, 後藤広昌, 金文龍, 荒川将之, 鈴木亮, 窪田直人, 戸邊一之, 門脇孝, 藤谷与士夫, 弘世貴久, 河盛隆造, 綿田裕孝: 全身および顆粒球特異的インスリン抵抗性は動脈硬化初期段階において単球・マクロファージの血管への集積を亢進させる. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009. 05. 22, 大阪
- 45) 三田智也, 東浩介, 後藤広昌, 金文龍, 荒川将之, 藤谷与士夫, 弘世貴久, 鈴木亮, 窪田直人, 戸邊一之, 門脇孝, 河盛隆造, 綿田裕孝: 全身および顆粒球特異的インスリン抵抗性は動脈硬化初期段階において単球/マクロファージの血管壁への集積を亢進させる. 第59回日本体質医学会. 2009. 07. 26, 東京
- 46) 内山弓子, 門脇弘子, 加藤美智子, 井上真理子, 窪田哲也, 窪田直人, 門脇孝: 食事中的脂肪酸組成が肥満やインスリン感受性・耐糖能に与える影響について. 第30回日本肥満学会. 2009. 10. 09, 浜松
- 47) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 井上真理子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 骨格筋のインスリン感受性調節における血管内皮細胞のインスリンシグナルの役割の解明. 第13回日本心血管内分泌学会. 2009. 10. 23, 大宮
- 48) 渡部拓, 窪田直人, 窪田哲也, 大杉満, 高本偉碩, 山内敏正, 寺内康夫, 戸邊一之, 植木浩二郎, 門脇孝: 抗肥満薬リモナバンのインスリン抵抗性改善機構にはアディポネクチンに依存的なパスウェイと非依存的なパスウェイがある. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009. 05. 22, 大阪
- 49) 渡部拓, 窪田直人, 大杉満, 窪田哲也, 高本偉碩, 窪田哲也, 山内敏正, 寺内康夫, 戸邊一之, 植木浩二郎, 門脇孝: 抗肥満薬リモナバンのインスリン抵抗性改善機構について. 第30回日本肥満学会. 2009. 10. 09, 浜松
- 50) 鈴木美穂, 植木浩二郎, 金子和真, 窪田哲也, 窪田直人, Morris Birnbaum, 門脇孝: 血管内皮特異的Akt/PKB欠損マウスの解析. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009. 05. 22, 大阪
- 51) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 井上真理子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞のインスリンシグナルの糖代謝調節における役割の解明. 第59回日本体質医学会総会. 2009. 07. 26, 東京
- 52) 窪田哲也, 窪田直人, 山口真一, 井上真理子, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞インスリンシグナルの糖代謝調節における役割の解明. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009. 05. 22, 大阪
- 53) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝におけるIRS-1, IRS-2の機能的な役割分担. 第30回日本肥満学会. 2009. 10. 09, 浜松
- 54) 門脇孝: メタボリックシンドロームの診断、管理のエビデンス創出のための横断・縦断研究. 第30回日本肥満学会. 2009. 10. 09, 浜松
- 55) 須山成朝, 窪田直人, 門脇孝, 矢田俊彦: アデ

- ィポネクチンの弓状核POMCニューロンに対する作用の電気生理学的検討. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009.05.22, 大阪
- 56) Kubota T, Naoto Kubota, Iseki Takamoto, Masao Moroi, Kaoru Sugi, Toshimasa Yamauchi, Kohjiro Ueki, , Kadowaki T: Pioglitazone Ameliorates Cuff Induced Neointimal Formation by both Adiponectin Dependent and Independent Pathways. . 第41回日本動脈硬化学会年次学術集会. 2009.07.18, 山口
- 57) 中屋恵三, 高本偉碩, 窪田直人, 熊谷勝義, 勝山修行, 渡部拓, 窪田哲也, 植木浩二郎, 宮崎純一, 門脇孝: IRS-2欠損 β 細胞株の樹立. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会. 2009.05.22, 大阪
- 58) 高本偉碩, 窪田直人, 中屋恵三, 熊谷勝義, 勝山修行, 渡部拓, 窪田哲也, 植木浩二郎, 宮崎純一, 門脇孝: 膵 β 細胞にdominant negative型Tcf7l2を過剰発現させたマウスは耐糖能異常を呈する. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会, 2009.5.22, 大阪
- 59) 門脇孝: Genome-wide analysis of type 2 diabetes susceptibility genes (2型糖尿病遺伝子の全ゲノム解析). 第32回日本分子生物学会年会. 2009.12.09, 横浜
- 60) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略—早期軽症からの厳格な血糖管理に向けて. 第2回日本肥満症治療学会. 2009.07.10, 東京
- 61) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略—インクレチンへの期待—. 第83回日本内分泌学会学術総会(ランチョンセミナー). 2010.03.26, 京都
- 62) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略—インクレチンの意義を中心に—. 第46回日本糖尿病学会近畿地方会. 2009.11.03, 京都
- 63) 門脇孝: 2型糖尿病と遺伝子テラーメード治療—予防への展望. 第23回日本臨床内科医会. 2009.10.12, 埼玉
- 64) 中出麻紀子, 饗場直美, 森田明美, 大森由実, 清水智美, Oh Yu-jin, 渡邊昌: 中高年肥満者における減量後の体重変化と食行動との関連. 第68回日本公衆衛生学会. 2009.10.22, 奈良市
- 65) 春山康夫, 藤井絃子, 小林恵美子, 石崎香織, 山崎章, 中出麻紀子, 武藤孝司: 草加市27ヶ月ヘルスアッププログラム(その2)—参加者の出席率と効果の関連性—. 第68回日本公衆衛生学会. 2009.10.23, 奈良市
- 66) 藤井絃子, 春山康夫, 小林恵美子, 石崎香織, 中出麻紀子, 武藤孝司: 草加市27ヶ月ヘルスアッププログラム(その1)—長期介入効果の検討—. 第68回日本公衆衛生学会. 2009.10.23, 奈良市
- 67) 清水智美, 中出麻紀子, Yujin-Oh, 池本真二, 饗場直美, 渡邊昌: 減量およびリバウンドに影響する行動とその行動を実践する要因. 第13回日本病態栄養学会. 2010.01.09, 京都府
- 68) 竹澤 純, 山田晃一, 森田明美, 饗場直美, 渡邊昌: Preproghrelin polymorphisms in obese Japanese: Association with diabetes mellitus in men and with metabolic syndrome parameters in women. 第32回日本分子生物学会年会. 2009.12.08, パシフィコ横浜
- 69) 清水智美, 中出麻紀子, Yujin-Oh, 梶本雅俊, 池本真二, 饗場直美: n-3系多価不飽和脂肪酸およびn-6系多価不飽和脂肪酸と体重の関係. 第68回日本公衆衛生学会. 2009.10.22, 奈良市
- 70) 亀井康富, 菅波孝祥, 江原達弥, 金井沙綾香, 三浦進司, 江崎治, 小川佳宏: 肥満とDNAメチル化: DNAメチル化酵素遺伝子改変マウスとメチル化促進飼料による検討. 第30回日本肥満学会. 2009.10.09, アクトシティ浜松(浜松市)
- 71) 三浦進司: 低強度運動による脂質代謝亢進に骨格筋AMPKの活性化は必須ではない. 第64回日本体力医学会. 2009.09.18, 朱鷺メッセ(新潟市)
- 72) 杉田聡, 亀井康富, 赤池史子, 菅波孝洋, 金井沙綾香, 三浦進司, 江崎治, 小川佳宏: 骨格筋特異的RXR γ 過剰発現マウスは糖代謝改善作用を示す. 第30回日本肥満学会. 2009.10.09, アクトシティ浜松(静岡)
- 73) 山崎芳浩, 亀井康富, 三浦進司, 杉田聡, 赤池史子, 金井沙綾香, 平田結喜緒, 江崎治, 菅波孝祥, 小川佳宏: 骨格筋におけるFOXO1によるタンパク分解酵素カテプシンL遺伝子の転写調節. 第30回日本肥満学会. 2009.10.09, アクトシティ浜松(浜松市)
- 74) 東泉裕子, 山崎千春, 伊藤友里恵, 佐藤あゆみ, 石見佳子, 石綿肇: 母親ラットを介して胎仔期・乳仔期に投与されたダイゼインが成長期における仔ラットの骨代謝に及ぼす影響. 第63回日本栄養・食糧学会大会. 2009.05.21, 長崎
- 75) 上原万里子, 串田修, 大瀧直人, 石見佳子, 君羅 好史, 秋山聰子, 勝間田真一, 鈴木和春: 短期イソフラボン・フラクトオリゴ糖併用摂取が成人男女のエコオール産生能に及ぼす影響. 第56回日本栄養改善学会. 2009.09.03, 札幌
- 76) 安部文子, 東泉裕子, 江崎潤子, 千葉大成, 上原万里子, 細川優, 石見佳子: 大豆イソフラボンと魚油の併用摂取は骨粗鬆症モデルマウスのエコオール産生能を亢進する. 第63回日本栄養・食糧学会大会. 2009.05.21, 長崎
- 77) 佐藤洋美, 岩田紘樹, 矢野友啓, 上野光一: 腎臓癌に対するHDAC阻害剤とスニチニブの併用効果. 第68回日本癌学会総会. 2009.10.03, 横浜
- 78) 柏木維人, 矢澤卓也, 矢野友啓: 新規抗中皮腫成分としてのトコトリエノール誘導体. 第68回日本癌学会総会. 2009.10.03, 横浜
- 79) 中島啓介, 伊南和佳奈, 安藤章, 萩原清和, 矢野善久, 矢野友啓: 新規トコトリエノール誘導体による中皮腫細胞増殖抑制に関する研究. 第61回日本ビタミン学会. 2009.05.30, 亀岡
- 80) 東泉裕子, 江崎潤子, 安部文子, 上原万里子, 石見佳子: 食物繊維が骨粗鬆症モデルマウスのエコオール産生能および骨量減少に及ぼす影響.

- 第56回栄養改善学会学術集会. 2009. 09. 04, 札幌
- 81) 沖智之, 竹林純, 渡辺純, 山崎光司, 佐藤麻紀, 須田郁夫: 食品の統一的な抗酸化能測定法の確立 (3) 一般的な野菜に含まれる抗酸化物質抽出法の検討. 日本農芸化学会2010年度大会. 2010. 03. 30, 東京
- 82) 渡辺純, 沖智之, 竹林純, 山崎光司, 石川祐子, 津志田藤二郎: 食品の統一的な抗酸化能測定法の確立 (2) H-ORAC 測定における精度の改善. 日本農芸化学会2010年度大会. 2010. 03. 30, 東京
- 83) 山崎光司, 渡辺純, 沖智之, 竹林純, 石川祐子, 津志田藤二郎: 食品の統一的な抗酸化能測定法の確立 (1) H-ORAC測定法の室間共同試験. 日本農芸化学会2010年度大会. 2010. 03. 30, 東京
- 84) 中島啓介, 宮澤未緒, 安藤章, 佐藤洋美, 山浦克典, 上野光一, 矢野友啓: 擬似hypoxia環境における新規トコトリエノールエーテル誘導体の中皮腫細胞増殖抑制効果. 第120回日本薬理学会関東部会. 2009. 07. 11, 東京
- 85) 永田純一, 佐賀加奈子, 中村 礼, 山田和彦: ラット脂肪前駆細胞における明日葉脂溶性抽出物の脂肪蓄積に対する影響. 第63回日本栄養・食糧学会. 2009. 05. 21, 長崎
- 86) 岩田紘輝, 佐藤洋美, 矢野友啓, 上野光一: ミカン科植物含有成分macarpineの合成中間体p-キノンモノオキシム化合物の抗腫瘍活性に関する検討. 第68回日本癌学会総会. 2009. 10. 03
- 87) 中村 礼, 佐賀加奈子, 山田和彦, 永田純一: マウス体脂肪蓄積および脂質代謝関連遺伝子に及ぼす大豆たんぱく質とジアシルグリセロール併用摂取の影響. 第63回日本栄養・食糧学会. 2009. 05. 22, 長崎
- 88) 若尾陽平, 三好規之, 矢野友啓, 大島寛史: ビタミンEのシクロデキストリン (CD) 包接による生理活性増強効果. 第82回日本生化学会. 2009. 10. 23, 神戸
- 89) 若尾陽平, 三好規之, 矢野友啓, 大島寛史: シクロデキストリン包接化によるトコトリエノール生理活性増強効果検証. 第19回フードサイエンスフォーラム. 2009. 09. 01, 伊東市
- 90) 高野泰幸, 矢野友啓: 5-Aza-2'-CdRはコネキシン32遺伝子の誘導を介して腎臓がんに対する抗がん剤の感受性を上げる. 第68回日本癌学会総会. 2009. 10. 01, 横浜
- 91) 竹林純, 沖智之, 渡辺純, 山崎光司, 陳健斌, 石見佳子: 食品の統一的な抗酸化能測定法の確立 (4) 一般的な野菜からの抗酸化物質摂取量の推定. 日本農芸化学会2010年度大会. 2010. 03. 30, 東京
- 92) 佐藤陽子, 橋本洋子, 中西朋子, 山岸あづみ, 瀧優子, 梅垣敬三: 幼児のサプリメント利用に対する保護者の影響. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 04, 北海道
- 93) 佐藤陽子, 池田雅彦, 富田多嘉子, 瀧 優子, 山田静雄, 梅垣敬三: 脳卒中易発症性高血圧自然発症ラット (SHRSP) の血中ビタミンC濃度. 第11回応用薬理シンポジウム. 2009. 09. 18, 静岡
- 94) 渡邊崇之, 吉川俊博, 金子貴則, 朴 美貞, 小菅和仁, 梅垣敬三, 山田 浩: 茶カテキンおよび茶摂取が血中脂質へ及ぼす影響ランダム化比較試験を対象としたメタアナリシス研究. 第30回日本臨床薬理学会. 2009. 12. 03, 横浜
- 95) 古池直子, 海老原美樹, 細井俊克, 廣田晃一: 親子のための健康栄養情報サイトのユーザビリティ評価. 日本教育工学会 第25回全国大会. 2009. 09, 東京
- 96) 古池直子, 海老原美樹, 細井俊克, 廣田晃一: 小学生向け健康栄養情報サイトの開発とユーザビリティ評価. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 北海道札幌市
- 97) 海老原美樹, 古池直子, 細井俊克, 廣田晃一: 最新の科学ニュースを用いたカウンセリング・カードの有用性. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 北海道札幌市
- 98) 中西朋子, 佐藤陽子, 瀧優子, 梅垣敬三: 国内外から出された「健康食品」が関連した被害関連情報の特徴. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 04, 北海道
- 99) 加藤竜雄, 清水雅之, 渡邊崇之, 小菅和仁, 望月亜希子, 岩崎剛士, 神戸宏憲, 坂本達一郎, 河原崎貴伯, 梅垣敬三, 山田 浩: 健康食品と医薬品の併用に伴う有害事象の因果関係評価判定のための評価票の検討. 第30回日本臨床薬理学会. 2009. 12. 03, 横浜
- 100) 細井俊克, 海老原美樹, 古池直子, 廣田晃一: 健康・栄養・運動に関する海外ニュース配信サイトの運営 (2008-2009). 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 北海道札幌市
- 101) 渡邊崇之, 吉川俊博, 金子貴則, 朴 美貞, 小菅和仁, 山田 浩, 梅垣敬三: ランダム化比較試験を対象としたメタアナリシスによる茶カテキンの血清脂質へ及ぼす影響の検討. 第6回日本カテキン学会. 2009. 09. 09, 名古屋
- 102) 廣田晃一, 古池直子, 細井俊克, 海老原美樹: ウェブ上の一般向け健康栄養情報の新たな判別法の検討. 第56回日本栄養改善学会学術総会. 2009. 09. 03, 北海道札幌市
- 103) 瀧 優子, 梅垣敬三, 佐藤陽子, 山田 静雄: イチョウ葉エキスの抗凝固能とwarfarinとの相互作用. 第11回応用薬理シンポジウム. 2009. 09. 18, 静岡
- 104) 梅垣敬三, 佐藤陽子, 中西朋子, 笠岡(坪山)宣代, 芝池伸彰: 2つのデータベースと専門職を介した健康食品情報提供の取り組み. 第23回公衆衛生情報研究協議会研究会. 2010. 01. 22, 和光市
- 105) 笠岡(坪山)宣代, 由田克士, 荒井裕介, 坪田(宇津木)恵, エライン ツルジロ, ジョン ミルナー: 米国におけるDRIs (Dietary Reference Intakes, 食事摂取基準) 活用状況に関する調査. 第63回日本栄養・食糧学会. 2009. 05., 長崎
- 106) 三好美紀, 荒井裕介, 大久保公美, 橋本令子, 坪倉もえ, 角倉知子, 廣田晃一, 古池直子: 食

- 育を通じた生活習慣病予防戦略に関する研究：文献データベースの構築について．第68回日本公衆衛生学会総会．2009.10.22, 奈良市
- 107) 荒井裕介, 角倉知子, 三好美紀：食育を通じた生活習慣病予防戦略に関する研究：行政取組データベースの登録事例の分析．第68回日本公衆衛生学会総会．2009.10.22, 奈良市
- 108) 角倉知子, 三好美紀, 古池直子, 廣田晃一, 荒井裕介：食育を通じた生活習慣病予防戦略：行政取組データベースの構築について．第68回日本公衆衛生学会総会．2009.10.22, 奈良市
- 109) 角倉知子, 三好美紀, 古池直子, 廣田晃一, 荒井裕介：食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究（第4報）自治体取組データベースの構築．第56回日本栄養改善学会学術総会．2009.09.03, 札幌市
- 110) 三好美紀, 荒井裕介, 角倉知子, 廣田晃一, 古池直子, 吉池信男：食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究（第3報）食育研究データベースの構築に向けて．第56回日本栄養改善学会学術総会．2009.09.03, 札幌市
- 111) 原光彦, 斎藤恵美子, 伊藤裕佳, 笠岡(坪山)宜代, 黒森由紀, 岩田富士彦, 岡田知雄, 麦島秀雄：小児肥満における血中タウリン動態の検討．第30回日本肥満学会 一般演題．2009.10.09, 浜松
- 112) 三好美紀, 石川みどり, 西田美佐：栄養部門の国際保健人材育成に向けて（第1報）研修の現状とニーズについて．第24回日本国際保健医療学会学術大会．2009.08.06, 仙台
- 113) 石川みどり, 草間かおる, 野末みほ, 三好美紀, 西田美佐：栄養部門の国際保健人材育成に向けて（第2報）管理栄養士養成課程における教材の現状について．第24回日本国際保健医療学会学術大会．2009.08.06, 仙台
- 生科学研究費．循環器疾患等総合研究事業
- 6) 渡邊 昌：特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 7) 竹林 純：抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品の安全性・有効性に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業
- 8) 松本輝樹：「栄養表示基準における栄養成分の分析方法」の測定精度向上のための研究．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業
- 9) 矢野友啓：多様な生理活性を持つ機能性成分の安定化による新たな難治性慢性疾患の予防と治療法の構築．厚生労働省厚生科学研究費．政策創薬総合研究事業
- 10) 石見佳子：検査機関の信頼性確保に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進事業
- 11) 梅垣敬三：健康食品の情報提供システム体制の構築と安全性確保に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業
- 12) 大森豊緑：保健指導を中心とした地域における脳卒中及び心筋梗塞の再発予防システムとエビデンスの構築に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 13) 芝池伸彰：特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業

2. 公的資金による研究

【厚生労働科学研究費補助金】

a. 主任研究者

- 1) 由田克士：日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 2) 荒井裕介：食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究：厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 3) 田中茂穂：エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 4) 田畑 泉：健康づくりのための運動基準・エクササイズガイド改定に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 5) 門脇 孝：保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出のための横断・縦断研究．厚生労働省厚

b. 分担研究者

- 1) 坪田（宇津木）恵：抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品の安全性・有効性に関する研究（主任研究者 竹林 純）．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業
- 2) 森田明美：行動変容理論に基づく効率的かつ効果的な特定保健指導手法の疫学的エビデンスとITを援用した開発（主任研究者 梶尾 裕）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 3) 荒井裕介：日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討（主任研究者 由田克士）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 4) 森田明美：日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討（主任研究者 由田克士）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 5) 森田明美：日本人の食事摂取基準を改定するためのエビデンスの構築に関する研究－微量栄養素と多量栄養素摂取量のバランスの解明－（主

- 任研究者 柴田克己)．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 6) 由田克士：日本人の食事摂取基準を改定するためのエビデンスの構築に関する研究－微量栄養素と多量栄養素摂取量のバランスの解明－（主任研究者 柴田克己）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 7) 森田明美：「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究（主任研究者 佐々木敏）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 8) 由田克士：「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究（主任研究者 佐々木敏）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 9) 森田明美：特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究（主任研究者 渡邊 昌）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 10) 由田克士：食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究：NIPPON DATA80・90の追跡調査（主任研究者 上島弘嗣）．厚生労働省厚生科学研究費．長寿科学総合研究事業
- 11) 由田克士：健康増進施策推進・評価のための健康・栄養モニタリングシステムの構築（主任研究者 吉池信男）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 12) 由田克士：健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間とりまとめ）」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究（主任研究者 緒方裕光）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 13) 高田和子：高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究（主任研究者 葛谷雅文）．厚生労働省厚生科学研究費．長寿科学総合研究事業
- 14) 田中茂穂：「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究（主任研究者 佐々木敏）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 15) 宮地元彦：特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究（主任研究者 渡邊 昌）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 16) 高田和子：エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究（主任研究者 田中茂穂）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 17) 田畑泉：エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究（主任研究者 田中茂穂）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 18) 宮地元彦：地域・職域における生活習慣病予防活動・疾病管理による医療費適正化効果に関する研究（主任研究者 津下一代）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 19) 宮地元彦：健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について（中間とりまとめ）」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に関する研究（主任研究者 緒方裕光）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 20) 田畑 泉：筋ジストロフィーの集学的治療と均てん化に関する研究（主任研究者 神野 進）．厚生労働省厚生科学研究費 精神・神経疾患研究委託事業
- 21) 門脇 孝：多目的コホートにおける糖尿病・メタボリックシンドロームの発症要因と実態分析に関する研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等総合研究事業
- 22) 門脇 孝：糖尿病予防のための戦略研究．厚生労働省厚生科学研究費．糖尿病戦略等研究事業
- 23) 門脇 孝：2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期予後改善のための前向き研究．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 24) 饗場直美：特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究（主任研究者 渡邊 昌）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 25) 山田晃一：特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究（主任研究者 渡邊 昌）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 26) 渡邊 昌：肥満関連疾患のアジアと米国における遺伝疫学的検討とその対策に関する研究（主任研究者 川上正舒）．厚生労働省厚生科学研究費．地球規模保健課題推進研究事業（国際医学協力研究事業）
- 27) 山崎聖美：形態形成期・思春期などの高感受性期にある集団での核内受容体作動性化学物質等の有害性発現メカニズムの解明及びその評価手法にかかる総合研究（主任研究者 井上 達）．厚生労働省厚生科学研究費．化学物質リスク研究事業．
- 28) 江崎 治：「日本人の食事摂取基準」策定のための文献学的研究（主任研究者 佐々木敏）．厚生労働省厚生科学研究費．循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
- 29) 竹林 純：「栄養表示基準における栄養成分の分析方法」の測定精度向上のための研究（主任研究者 松本輝樹）．厚生労働省厚生科学研究費．食品の安心・安全確保推進研究事業
- 30) 松本輝樹：抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品の安全性・有効性に関する研究（主任研究

- 者 竹林 純) . 厚生労働省厚生科学研究費.
食品の安心・安全確保推進研究事業
- 31) 永田純一: 検査機関の信頼性確保に関する研究
(主任研究者 石見佳子) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 32) 卓 興鋼: 抗酸化物質を含有するいわゆる健康食品の安全性・有効性に関する研究 (主任研究者 竹林 純) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 33) 梅垣敬三: 検査機関の信頼性確保に関する研究
(主任研究者 石見佳子) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心安全確保推進研究事業
 - 34) 梅垣敬三: 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究 (主任研究者 芝池伸彰) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 35) 廣田晃一: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防戦略に関する研究 (主任研究者 荒井裕介) . 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
 - 36) 梅垣敬三: 健康食品における安全性確保を目的とした基準等作成のための行政的研究 (主任研究者 田中平三) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 37) 笠岡(坪山) 宜代: 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究 (主任研究者 芝池伸彰) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 38) 三好美紀: 食育を通じた健康づくり及び生活習慣病予防に関する研究 (主任研究者 荒井裕介) . 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
 - 39) 水野正一: 特定保健指導対象者以外も含めた生活習慣病予備軍に対する保健指導効果の検証および評価手法の開発に関する研究 (主任研究者 渡邊 昌) . 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
 - 40) 三好美紀: 我が国の国際保健人材の栄養分野の研究能力強化とベトナムにおける栄養士教育制度に関する研究 (主任研究者 明石秀親) . 厚生労働省厚生科学研究費. 国際医療研究委託事業
 - 41) 大森豊緑: 特定保健用食品等の有効性・安全性を確保するための科学的根拠の評価方法に関する研究 (主任研究者 芝池伸彰) . 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業
 - 42) 徳留信寛: がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究 (主任研究者 武藤倫弘) . 厚生労働省厚生科学研究費. 第3次対がん総合戦略研究事業
 - 43) 徳留信寛: 本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策 (主任研究者 山口一成) . 厚生労働省厚生科学研究費. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

【文部科学研究費補助金】

a. 主任研究者

- 1) 坪田 (宇津木) 恵: 地域在宅高齢者の栄養・食事摂取や食事パターンが高次生活機能低下に及ぼす影響. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 2) 田中茂穂: エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
- 3) 大坂寿雅: 終板器官周囲のプロスタグランジンE2発熱機構を制御する神経伝達物質. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 4) 谷本道哉: 高齢者が安全に行える効果的な筋力トレーニング法の確立: 筋発揮力維持法の効果検証. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 5) 山元健太: 交感神経系を介した柔軟性体力と動脈硬化の関連機序. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 6) 宮地元彦: 習慣的身体活動はホモシステイン分解酵素遺伝子変異に伴う動脈硬化を予防するか?. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 7) 大河原一憲: 日常生活下における肥満抑制因子としての非運動性身体活動と24時間脂質酸化能の役割. 文部科学省科学研究費. 特別研究員奨励費
- 8) 田中憲子: 体幹部骨格筋量の増大がメタボリック症候群の改善および介護予防に及ぼす影響. 文部科学省科学研究費. 特別研究員奨励費
- 9) 門脇 孝: 疾患のケミカルバイオロジー教育研究拠点. 文部科学省科学研究費. グローバルCOEプログラム
- 10) 門脇 孝: 代謝制御機構の統合的理解とその破綻. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (S)
- 11) 門脇 孝: メタボリックシンドローム・糖尿病の鍵分子アディポネクチン受容体AdipoR/AMPK/ACC タンパク群の構造解析とそれに基づく機能解明及び治療法開発. 文部科学省科学研究費. ターゲットタンパク研究
- 12) 門脇 孝: システム疾患生命科学による先端医療技術開発の拠点. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 科学技術振興調整費
- 13) 門脇 孝: メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現. 文部科学省科学研究費. 文部科学省科学研究費. 科学技術振興調整費
- 14) 窪田哲也: 肝臓におけるIRS-1、IRS-2の生理的・病態生理的役割の解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 15) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝亢進のメカニズム. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 16) 江崎 治: 運動はMEF2を介してGLUT4を増加させるか. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 17) 千葉 剛: 脳出血における脳微小血管内皮細胞フォークヘッド型転写因子の役割の解明. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 18) 永田純一: 機能性食品の組み合わせ摂取による有効性と安全性に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)

- 19) 石見佳子: 大豆イソフラボン代謝産物に着目した骨粗鬆症の予防に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 20) 東泉裕子: 男性骨粗鬆症に対する大豆イソフラボン代謝産物の作用とその作用機序の解明. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (B)
- 21) 笠岡(坪山)宜代: 肥満発症に対するタウリンの新規機能の解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 22) 徳留信寛: 東南アジア諸国における消化管がんの宿主・環境要因の研究. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究
- 23) 徳留信寛: イラン・バボール市における消化管がんの宿主・環境要因の研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B) 海外学術研究
- 24) 徳留信寛: 全国栄養士の食生活と生活習慣病の罹患・死亡リスクとの関連に関するコホート研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)

b. 分担研究者

- 1) 由田克士: 各種栄養素摂取の長期変化と生活習慣病発症に関する大規模疫学研究 (主任研究者 三浦克之). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 2) 高田和子: 現代の小・中学生の生活スタイルと身体活動レベル (PAL) に関する研究 (主任研究者 金子佳代子). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
- 3) 宮地元彦: 肥満関連遺伝子多型と運動および食事介入効果の検討 (主任研究者 真田樹義). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 4) 宮地元彦: 身体運動によるメンタルヘルス改善効果の分子機構解明とリサーチ・リソースの構築 (主任研究者 芝山秀太郎). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
- 5) 門脇 孝: 糖尿病疾患関連遺伝子の同定と医療への応用. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究
- 6) 饗場直美: 肥満発症に対するタウリンの新規機能の解明 (主任研究者 笠岡宜代). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 7) 徳留信寛: インスリン抵抗性とメタボリックシンドロームに関する疫学研究 (主任研究者 鈴木貞夫). 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)

【その他の公的研究費】

a. 主任研究者

- 1) 江崎治, 山崎聖美: ニュートリゲノミクスを用いた高機能性新規食品の多機能性解明とその評価・管理に関する研究機能評価法の開発. 農林水産省 安信プロジェクト (安全で信頼性、機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発)

b. 分担研究者

- 1) 竹林 純: 新規抗酸化評価技術に基づいた食品への表示方法の整備. 新需要創造対策事業 (農林水産省)
- 2) 梅垣敬三: 受容体結合測定法を応用した新食品等の健康影響評価法の開発と応用 (主任研究者 山田静雄). 内閣府食品健康影響評価技術研究
- 3) 徳留信寛: 大腸癌の発生・進展および治療感受性に関わる因子の解析. 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業. CREST

3. 民間企業等の共同研究等

- 1) 森田明美, 宮地元彦: BI機器の精度評価試験. 共同研究 (株)タニタ. 2009
- 2) 石見佳子, 森田明美, 山内淳: 閉経後女性におけるビタミンKの機能評価に関する研究3. 共同研究 協和発酵(株). 2009
- 3) 森田明美: メタボリックシンドロームにおける骨代謝と糖代謝の相互影響. 平成21年度日本医師会医学研究助成費 (平成21年度日本医師会学賞). 2009
- 4) 中出麻紀子, 河嶋伸久, 大森由美: 肥満解消を目的とした介入研究で、外食の嗜好・頻度が肥満因子に及ぼす影響. 研究助成 (財)すかいらくフードサイエンス研究所学術研究. 2009
- 5) 由田克士, 荒井裕介: 食品添加物一日摂取量調査. 受託研究 国立医薬品食品衛生研究所
- 6) 田畑泉: 発展途上国の身体活動量の状況に関する研究. 平成21年度 財団法人国際協力医学研究振興財団 調査研究助成金. 2009
- 7) 宮地元彦: 携帯電話を利用した保健指導支援方法の妥当性の確認. 特定保健指導支援方法コンサルティング 富士通(株). 2009
- 8) 宮地元彦: レインボー体操の介護予防効果に関する研究. 受託研究 日本ウェルエージング協会. 2009
- 9) 宮地元彦: 「自転車運動が糖代謝および脂質代謝の改善に及ぼす効果に関する研究」実施のためのアドバイスと事前・事後評価. 受託研究 (株)シマノ. 2009
- 10) 宮地元彦: 新型テレビゲームのエネルギー消費量定量に関する研究. 共同研究 任天堂(株). 2009
- 11) 熊江隆: 女子大学生を対象とした牛乳の健康増進等の機能性に関する実証調査一体脂肪制御効果に関して. 受託研究 (社)日本酪農乳業協会 平成21年度牛乳・乳製品の機能性等に関する実証調査. 2009
- 12) 高田和子: 自律度別に検討した高齢者のエネルギー消費量の評価. 研究助成 (財)千代田健康開発事業団. 2009
- 13) 宮地元彦: WiiFit, WiiFit plusの共同研究成果の広報. 共同研究成果の紹介映像作成、NKSデータ. 2009

- 14) 田畑泉: フィットネスクラブにおけるサービス・プログラム開発における指導・研究. 受託研究 (株)ティップネス. 2009
- 15) 田畑泉: 携帯電話に搭載する身体活動量評価ソフト開発. 受託研究 (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ. 2009
- 16) 田中茂穂: エネルギー消費量および身体活動量の評価方法に関する研究. 受託研究 オムロンヘルスケア(株). 2009
- 17) 田中茂穂: 身体組成の簡易評価に関する研究. 受託研究 オムロンヘルスケア(株). 2009
- 18) メリッサ・メルビー: "Developmental Origins of Metabolic Syndrome: Study Utilizing the Japanese Maternal and Child Health Handbook". 米国のWenner-Gren Foundation for Anthropological Research. 2009
- 19) 山田晃一, 渡邊昌, 森田明美, 饗場直美: 生活習慣病にならないための、遺伝子多型ごとの食生活処方、運動処方を考える ―「佐久肥満克服プログラム」に於ける遺伝子多型解析. (財)総合健康推進財団 一般研究奨励助成. 2010
- 20) 饗場直美: 南極越冬隊員の生活習慣と健康状態との関連に関する予備的研究. 共同研究 国立極地研究所
- 21) 饗場直美: 平成21年度宇宙飛行士栄養状態の解析調査 (その1). 受託研究 (独)宇宙航空開発研究機構
- 22) 饗場直美: ITを用いた特定保健指導が内臓脂肪減少及びメタボリックシンドロームに与える研究. 共同研究 (株)ヴァル研究所. 2009
- 23) 三浦進司: 運動によるエネルギー代謝変化および抗肥満効果の分子機構解明. (財)武田科学振興財団医学系研究奨励金. 2009
- 24) 山崎聖美: 大豆タンパク質 β -コングリシニンの非アルコール性脂肪肝発症予防及び治療効果と作用機序の解明. 研究助成 (財)不二たん白質研究振興財団. 2009
- 25) 三浦進司: 運動による脂肪酸酸化亢進への骨格筋LKB1のfuel sensorとしての役割. 平成21年度 (第22回) (財)中富健康科学振興財団・研究助成金. 2010
- 26) 三浦進司: LKB1 activity in skeletal muscle is essential for an increase in fatty acid oxidation during low-intensity exercise. (財)金原一郎記念医学医療振興財団 第24回研究交流助成金. 2010
- 27) 矢野友啓: 多様な生理活性を持つトコトリエノールの安定化による新たな中皮腫予防並びに治療法の構築. 受託研究 (財)ヒューマンサイエンス振興財団. 2009
- 28) 永田純一: 食品に含まれる機能性成分・栄養成分の生体利用に関する研究. 共同研究 (株)東洋新薬. 2009
- 29) 永田純一: 水産物由来の機能性脂質の開発に関する研究. 共同研究 (株)東洋新薬. 2009
- 30) 石見佳子: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的文献レビューとその効果の検証に関する研究. (財)不二たん白質研究振興財団特定研究. 2009
- 31) 石見佳子: エクオール含有食品の骨代謝及び脂質代謝に対する有効性の評価. 共同研究. 大塚製薬佐賀栄養製品研究所. 2009
- 32) 石見佳子: 不動性骨粗鬆症マウスに対するリコピンの作用の評価. 共同研究 カゴメ総合研究所. 2009
- 33) 竹林純: 抗酸化活性を指標とした高機能性料理レシピの開発に関する研究. 研究協定 九州沖縄農業研究センター. 2009
- 34) 廣田晃一, 笠岡(坪山)宜代: 「食と健康に関する学術文献情報の活用方法」についての研究. 研究指導 日本水産(株). 2009

4. 研究所外での講義、講演等

【大学等における特別講義等】

- 1) 由田克士: 国民健康・栄養調査について. 女子栄養大学. 2009. 05. 12, 坂戸
- 2) 由田克士: 知っておきたい健康・栄養トピックス. 平成21年度慶應義塾大学薬学部栄養情報担当者養成講座. 2010. 01. 24, 東京
- 3) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版)の活用について. 東京農業大学大学院農学研究科食品栄養学専攻特別講義. 2010. 02. 04, 東京
- 4) 由田克士: 都道府県民健康・栄養調査の内容. 平成21年度国立保健医療科学院「健康・栄養調査の企画・運営・評価」に関する研修. 2010. 02. 18, 和光市
- 5) 田畑泉: 特別講演 メタボリックシンドローム解消のためのエクササイズガイド2006. 第20回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会. 2009. 07. 04, 大宮ソニックシティ (さいたま市)
- 6) 村上晴香: 保健栄養学特論 (健康支援スキル) 行動変容につながる保健指導. 女子栄養大学. 2010. 01. 06
- 7) 田畑泉: 教育講演 エクササイズガイド2006について. 日本総合健診医学会第38回大会. 2010. 01. 22, 都市センターホテル, 東京
- 8) 門脇孝: M2内科系統講義「糖尿病の病態・分類・診断」. 2009. 06. 03, 東京大学
- 9) 門脇孝: 糖尿病・肥満・メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略. 生理学講義 [内分泌 (11)]. 2009. 07. 09, 慶應義塾大学
- 10) 門脇孝: 分子医学的手法を用いた2型糖尿病・代謝内科の基本的理解 (Fundamental understanding of type 2 diabetes by molecular genetics strategy). (東大大学院特別講義). 2009. 10. 29, 国立遺伝学研究所 (静岡)
- 11) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略ーインクレチンへの期待ー【分子内分泌・糖尿病内科学教室学術講演会-糖尿病治療の新時代-】. 横浜市立大学大学院医学系研究科. 2009. 11. 27, 横浜

- 12) 門脇孝: 医薬品の研究開発: 生活習慣病治療の最先端. EMP第3期プログラム. 2009. 11. 28, 東京大学
- 13) 門脇孝: アディポネクチンとその受容体. 医学系共通講義「受容体とシグナル伝達入門」. 2009. 12. 22, 東京大学
- 14) メリッサ・メルビー: Politics of Food and Nutrition in the US. . 跡見学園女子大学. 2009. 01. 29, 埼玉県新座市
- 15) メリッサ・メルビー: Politics of Food and Nutrition in the US. 東京農業大学. 2009. 07. 03, 東京都世田谷区
- 16) 江崎治: 食事摂取基準 各論 主要栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物). 日本人の食事摂取基準(2010年版)ブロック別講習会. 2009. 10. 04, 東京ビッグサイト(東京)
- 17) 矢野友啓: コネキシンによる癌抑制機構について. 静岡県立大学大学院生活健康科学研究科特別講義. 2009. 05. 15, 静岡県立大学
- 18) 石見佳子: 運動生化学講義. 早稲田大学スポーツ科学学術院. 2009. 07. 02, 所沢
- 19) 東泉裕子: 食と健康学入門. 大妻女子大学「食と健康学入門」講義. 2009. 07. 18, 埼玉
- 20) 永田純一: 食品機能学. 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業. 2009. 08. 21, 高知大学(高知)
- 21) 矢野友啓: 食品由来の機能性成分による生活習慣病予防・治療の可能性. 東洋大学市民大学講座. 2009. 10. 10, 東洋大学板倉キャンパス
- 22) 石見佳子: 食品機能学. 神奈川県立保健福祉大学. 2010. 02. 14, 横須賀
- 23) 石見佳子: 食品機能学. 神奈川県立保健福祉大学. 2010. 02. 15, 横須賀
- 24) 石見佳子: 食品機能学. 神奈川県立保健福祉大学. 2010. 02. 20, 横須賀
- 25) 梅垣敬三: 「健康食品」の問題点と専門職に求められる対応. 慶應義塾大学公開講座C. 2009. 11. 29, 東京
- 26) 梅垣敬三: 健康食品とサプリメントの検証. 日本薬科大学健康薬学科. 2010. 03. 31
- 27) 三好美紀: 国際社会と医療活動「途上国における栄養問題と評価手法」. 聖母大学. 2009. 04. 30, 東京
- 28) 三好美紀: 国際保健・栄養協力論. 県立広島大学大学院. 2009. 08. 10, 広島
- 29) Miyoshi M: "Roles of dietitian in Japan" and "Nutritional Assessment in the field: Dietary Surveys". JICA(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修, JICA帯広国際センター. 2009. 12. 07, 帯広
- 30) Miyoshi M: Community Empowerment and Participatory Nutrition Education. JICA(集団)「健康と栄養改善のための女性指導者研修, JICA帯広国際センター. 2009. 12. 18, 帯広
- 31) 笠岡(坪山)宜代: 『海外の食生活』. 目白大学栄養学演習. 2010. 01. 22, 目白大学、東京

- 32) 笠岡(坪山)宜代: 「日本人の食事摂取基準(2010年版)」. 東京医療福祉大学 総合演習II. 2010. 02. 18, 東京医療福祉大学、東京
- 33) 徳留信寛: 栄養・食事とがん予防. 天使大学看護栄養学部. 2009. 10. 12, 北海道札幌市
- 34) 徳留信寛: 生活習慣病としてのがんの予防とコントロール. 第61回北海道公衆衛生学会「特別講演・抄録」. 2009. 11. 12, 北海道札幌市

【大学・研究所における研究セミナー等】

- 1) 森田明美: 日本人の食事摂取基準(2010年版). 東京慈恵会医科大学付属病院4機関臨床栄養研究会. 2009. 07. 22, 東京都港区
- 2) 田畑泉: エネルギー. 新しくなった食事摂取基準—改定の要点と策定理論— 主催 平成20年度厚生労働省循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「日本人の食事摂取基準の改定するためのエビデンス構築に関する研究」班. 2009. 06. 13, ホテル法華クラブ函館(北海道函館市)
- 3) 宮地元彦: 特定保健指導の実際、運動・身体活動指導のポイント. 平成21年度生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修. 2009. 07. 28, 国立保健医療科学院(埼玉県)
- 4) Tabata I: 健康づくりのための運動基準2006と健康づくりのための運動指針2006(エクササイズガイド2006). スポーツと健康を推進する国際シンポジウム. 2009. 10. 15, 北京体育大学(中国北京市)
- 5) 宮地元彦: 生活習慣病予防に関する保健指導—運動・身体活動—. 特定健診・保健指導実践育成研修会、富山県保険協議会. 2009. 10. 26, 富山県市町村会館・富山県下野995-3
- 6) 門脇孝: 疾患とその治療(生活習慣病). KAST, 教育講座. 2009. 06. 16, 東京・医科研
- 7) 門脇孝: Overview of research on metabolism and associated diseases. Max-Planck Society- University of Tokyo Joint Symposium Session I. 2009. 12. 03, 東京大学
- 8) 石見佳子: 特別用途食品の現状と制度の改正. 城西国際大学主催第2回食品機能学セミナー(NRフォローアップセミナー). 2009. 12. 06
- 9) 石見佳子: 大豆の機能性成分と健康. フードフォーラムつくば ファイトケミカル分科会「骨の健康と食品成分」. 2010. 03. 05, (独)農研機構 食品総合研究所
- 10) 梅垣敬三: 健康食品の安全性と有効利用—昨今の問題事例を中心に—. 第1回食品機能学セミナー. 2009. 05. 17, 城西国際大学
- 11) 西信雄: イントロダクション. 第17回疫学セミナー「相関構造を考慮した疫学データ分析の理論と実践」. 2010. 01. 08, 埼玉

【地方自治体、栄養士会等主催の講演会等】

- 1) 森田明美: 食事摂取基準の今後と考え方. 社団法人長野県栄養士会 第32回通常総会特別講演. 2009. 05. 23, 長野県松本市

- 2) 由田克士：栄養アセスメント 食事調査理論・食事調査演習。日本体育協会・日本栄養士会公認スポーツ栄養士専門講習会。2009.06.07, 東京
- 3) 森田明美：日本人の食事摂取状況と食事摂取基準。さいたま市保健所 食事摂取基準に関する研修会。2009.06.09, 埼玉県さいたま市
- 4) 由田克士：日本人の健康・栄養の現状～平成18・19年国民健康・栄養調査の成績から～。平成21年度福島県栄養士会生涯学習研修会。2009.07.11, 郡山
- 5) 由田克士：栄養調査の企画と結果の比較 特に集団における栄養素摂取量の評価について。平成21年度兵庫県保健所栄養士協議会研修会。2009.07.12, 神戸
- 6) 由田克士：健康・栄養調査の設計・企画・実施ー結果のまとめと事業の評価ー。群馬県栄養士会 生涯学習研修会。2009.07.26, 前橋
- 7) 由田克士：給食施設で健康づくり支援策を！。平成21年度中野区特定給食施設管理者講習会。2009.07.28, 東京
- 8) 由田克士：特定給食施設支援・指導の目指す方向性。平成21年度全道栄養担当者研修会。2009.08.05, 札幌
- 9) 森田明美：新しい「食事摂取基準」について。社団法人広島県栄養士会 生涯学習研修会。2009.08.09, 広島県広島市
- 10) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）基本的概念と活用の留意点。茨城県栄養士会栄養学術講習会。2009.08.23, 水戸
- 11) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）について。（社）東京都栄養士会行政部会 平成21年度東京都栄養士会行政部会研修会。2009.08.24, 東京都豊島区
- 12) 森田明美：食事摂取基準（2010年版）要点と改正のポイント。東京都多摩府中保健所 平成21年度栄養管理講習会。2009.09.04, 東京都調布市
- 13) 森田明美：「日本人の食事摂取基準2010年版」を学ぶ。東京都南多摩保健所 平成21年度第5回特定給食栄養管理講習会。2009.09.09, 東京都多摩市
- 14) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）の活用と評価について。平成21年度熊本県管理栄養士・栄養士研修会。2009.09.14, 熊本
- 15) 由田克士：特定給食施設（事業所）における食事摂取基準を活用した栄養・食事計画について。平成21年度熊本県管理栄養士・栄養士研修会。2009.09.14, 熊本
- 16) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）。板橋区保健所 栄養管理講習会。2009.09.15, 東京都板橋区
- 17) 森田明美：改定「日本人の食事摂取基準」（2010年版）について。東京都社会福祉保健医療研修センター 平成21年度福祉保健局・病院経営本部研修「栄養士（病院・保健所等）」。2009.09.16, 東京都文京区
- 18) 森田明美：2010食事摂取基準の概要、2010食事摂取基準の活用法。社団法人福井県栄養士会生涯学習研修会。2009.09.27, 福井県福井市
- 19) 森田明美：「日本人の食事摂取基準（2010年版）」について ～正しく理解し、活用しよう～。東京都西多摩保健所 特定給食施設栄養管理講習会。2009.10.07, 東京都羽村市
- 20) 由田克士：働き盛りの方への栄養支援 ～ポピュレーションアプローチへの取り組み～。（財）東京都高齢者研究・福祉振興財団 健康づくり事業推進指導者養成研修。2009.10.14, 東京
- 21) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）の活用 ー給食管理で活用する場合の留意点ー。平成21年度神戸市特定給食施設研修会。2009.10.16, 神戸
- 22) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）概要、日本人の食事摂取基準（2010年版）理論。社団法人北海道栄養士会 平成21年度秋期全道栄養士研修大会。2009.10.17, 北海道札幌市
- 23) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）～概要と活用法～。東京都栄養士会 栄養ケア・ステーション人材養成講座。2009.10.18, 東京
- 24) 野末みほ：栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」の概要及び操作方法方法について。東京都福祉保健局。2009.10.26, 東京
- 25) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）の活用について。平成21年度 島根県市町村栄養士等食育推進研修会。2009.10.26, 松江
- 26) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）の策定の考え方とその活用について。神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所 平成21年度特定給食施設栄養管理講習会。2009.10.26, 神奈川県茅ヶ崎市
- 27) 由田克士：地域評価や特定保健指導等に必要健康・栄養調査について。平成21年度 第1回富山県健康づくりのための食環境整備講習会。2009.10.27, 富山
- 28) 由田克士：日本人の食事摂取基準の改定と給食施設における栄養管理。平成21年度 名古屋市食と健康講演会。2009.10.28, 名古屋
- 29) 由田克士：働き盛り世代の減塩対策。健康ビジネスサミットうおぬま会議2009。2009.10.29, 新潟県湯沢町
- 30) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）について。墨田区保健所向島保健センター 平成21年度給食施設栄養管理技術講習会。2009.10.29, 東京都墨田区
- 31) 由田克士：「食育」を推進するために学校・家庭・地域はどう連携すべきか ～南房総市栄養調査の結果や国の動向を踏まえて～。千葉県南房総市立和田中学校研修会。2009.11.10, 南房総市
- 32) 荒井裕介：職場でいかせる、調査方法・評価方法。新潟県栄養士会魚沼支部。2009.11.14, 新潟県南魚沼市
- 33) 由田克士：健康をつくる食習慣・生活習慣・食

- 環境. すみだ食育推進リーダー育成講習会. 2009. 11. 16, 東京
- 34) 由田克士: 「日本人の食事摂取基準 (2010年版)」の基礎と活用. 神奈川県栄養士会 平成21年度栄養学術研修会. 2009. 11. 25, 横浜
- 35) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 解説. 平成21年度 練馬区特定給食施設等栄養管理者講習会. 2009. 12. 01, 東京
- 36) 由田克士: 「日本人の食事摂取基準 (2010年版)」改定のポイント及び活用について. 平成21年度 世田谷区特定給食施設講習会. 2009. 12. 02, 東京
- 37) 森田明美: 給食施設における日本人の食事摂取基準 (2010年版) を活用した食事計画について. 横浜市健康福祉局保険事業課. 2009. 12. 02, 神奈川県横浜市
- 38) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 姫路市社会福祉研修. 2009. 12. 03, 姫路
- 39) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) とその活用. 平成21年度 宮崎県栄養士会新生涯研修会. 2009. 12. 05, 宮崎市
- 40) 由田克士: 「日本人の食事摂取基準 (2010年版)」改定のポイントと望ましい活用を考える. 平成21年度 神奈川県小田原保健福祉事務所 特定給食施設等栄養管理者講習会および食生活支援担当者研修. 2009. 12. 08, 小田原市
- 41) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 京都府健康福祉部健康対策課 平成21年度栄養業務推進研修会. 2009. 12. 11, 京都府京都市
- 42) 由田克士: 職場でいかにせる、最新耳寄り情報～日本人の食事摂取基準 (2010年版) について～. 新潟県栄養士会魚沼支部研修会. 2009. 12. 12, 南魚沼市
- 43) 由田克士: 事業所給食から従業員の健康を考える. 平成21年度 神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所 働く人の健康づくり講演会及びシンポジウム. 2009. 12. 14, 茅ヶ崎市
- 44) 由田克士: 最近の国民健康・栄養調査の結果と栄養施策. 平成21年度 兵庫県市町栄養士連絡協議会研修会. 2009. 12. 22, 神戸
- 45) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) の策定の考え方と活用について. 神奈川県足柄上保険福祉事務所 平成21年度特定給食施設等栄養管理講習会. 2010. 01. 08, 神奈川県足柄上郡
- 46) 森田明美: 「日本人の食事摂取基準 (2010年版)」の活用. 中央区保健所 平成21年度給食施設担当者講習会. 2010. 01. 12, 東京都中央区
- 47) 由田克士: コメディカル向け データのまとめ方～具体例を用いた検討～. 日本循環器病予防学会 コメディカルセミナー 「学会発表のためのデータのまとめ方」. 2010. 01. 16, 東京
- 48) 由田克士: 給食を活用した喫食者への健康・栄養教育. 平成21年度広島県特定給食施設等給食関係者研修会. 2010. 01. 18, 広島
- 49) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 改定の内容 ―特定給食施設等での留意点を中心として―. 平成21年度東京都多摩小平保健所栄養管理講習会. 2010. 01. 20, 東京
- 50) 森田明美: 2010年版 食事摂取基準の活用. 特別区職員研修所 平成21年度専門研修「栄養士」. 2010. 01. 20, 東京都千代田区
- 51) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) . 高知県、社団法人高知県栄養士会 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 研修会. 2010. 01. 22, 高知県高知市
- 52) 由田克士: 特定給食施設等における食事計画について ～日本人の食事摂取基準 (2010年版) の活用～. 平成21年度 北九州市給食施設栄養士研修会. 2010. 02. 03, 北九州
- 53) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) の基礎と活用. 宮城県石巻保健所日本人の食事摂取基準 (2010年版) に関する研修会. 2010. 02. 05
- 54) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 荒川区保健所 平成21年度特定給食施設栄養士講習会. 2010. 02. 10, 東京都荒川区
- 55) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) と活用について. 石川県能登中部保健福祉センター栄養士研修会. 2010. 02. 16, 七尾市
- 56) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) と活用について. 石川県能登北部保健福祉センター栄養士研修会. 2010. 02. 17, 輪島市
- 57) 森田明美: 「日本人の食事摂取基準 (2010年版) について」. さいたま市保健所、さいたま市保健所管内給食研究会 合同研修会. 2010. 02. 18, 埼玉県さいたま市
- 58) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 社団法人栃木県栄養士会 日本人の食事摂取基準講習会. 2010. 02. 20, 栃木県宇都宮市
- 59) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) 施設での活用について. 栃木県栄養士会 日本人の食事摂取基準講習会. 2010. 02. 20, 宇都宮市
- 60) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) の活用～給食施設で適切に活用するために気をつけて欲しいポイント～. 平成21年度仙台市給食施設研修会. 2010. 02. 23, 仙台市
- 61) 森田明美: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 東京都北区保健所 平成21年度特定給食施設栄養管理講習会. 2010. 02. 24, 東京都北区
- 62) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2010年版) ～推定エネルギー必要量の求め方とモニタリング～. 平成21年度練馬区特定給食施設等技術講習会. 2010. 02. 24, 東京
- 63) 森田明美: 行政栄養士が活用する日本人の食事摂取基準 (2010年版) について. 社団法人日本栄養士会 平成21年度全国行政栄養士協議会新任者研修会. 2010. 02. 26, 東京都千代田区
- 64) 森田明美: 2010年版 食事摂取基準の活用. 新宿区健康部健康推進課 特定給食施設管理講習会. 2010. 02. 26, 東京都新宿区

- 65) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）策定の考え方と活用について．平成21年度藤沢市特定給食施設等栄養士講習会．2010.02.26, 藤沢市
- 66) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）とその活用について．大田区特定給食施設講習会．2010.03.03, 東京
- 67) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）について．渋谷区保健所 栄養管理講習会．2010.03.05, 東京都渋谷区
- 68) 森田明美：食事摂取基準2010年版について．社団法人日本栄養士会 平成21年度全国研究教育栄養士協議会研修会．2010.03.06, 福岡県福岡市
- 69) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）について．社団法人栃木県栄養士会 第2回日本人の食事摂取基準講習会．2010.03.07, 栃木県宇都宮市
- 70) 由田克士：日本人の食事摂取基準（2010年版）施設での活用について．栃木県栄養士会 日本人の食事摂取基準講習会．2010.03.07, 宇都宮市
- 71) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）について～「食事改善」と「給食管理」を目的に、食事摂取基準を活用するポイント等～．目黒区保健所 平成21年度第2回特定給食管理講習会．2010.03.08, 東京都目黒区
- 72) 由田克士：保育所における日本人の食事摂取基準の活用．石川県保育所給食担当栄養士等業務検討会．2010.03.10
- 73) 森田明美：日本人の食事摂取基準（2010年版）の基礎と活用．宮城県塩釜保健所、宮城県仙南保健所 平成21年度食事摂取基準研修会．2010.03.24, 宮城県仙台市
- 74) 宮地元彦：特定健診・保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講座 財団法人健康・体力づくり事業財団．2009.05.17, 埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま(埼玉県)
- 75) 高田和子：消費エネルギー量の算定理論・演習．日本体育協会公認スポーツ栄養士専門講習会．2009.06.04, 東京
- 76) 村上晴香：特定健診・特定保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講習会「基礎講座」、(財)健康・体力づくり事業財団．2009.06.14
- 77) 宮地元彦：特定健診・保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講座 財団法人健康・体力づくり事業財団．2009.06.27, 中島体育センター(北海道)
- 78) 田畑泉：健康づくりのための運動指針2006（エクササイズガイド2006）について．健康づくり提唱のつどい、奈良県栄養士会．2009.07.03, 奈良県文化会館（奈良市）
- 79) 宮地元彦：特定健診・保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講座．2009.07.04, エル大阪(大阪府 財団法人健康・体力づくり事業財団)
- 80) 宮地元彦：特定健診・保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動実践指導者養成講習会 財団法人健康・体力づくり事業財団．2009.07.27, クロスウェーブ府中(東京都)
- 81) 宮地元彦：特定健診・保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講座、財団法人健康・体力づくり事業財団．2009.08.01, 兵庫県民会館(兵庫県)
- 82) 宮地元彦：特定健診・保健指導について．特定健診保健指導ならびに福利厚生セミナー、株式会社ベネフィットワン．2009.08.04, 株式会社パソナセミナールーム(東京都)
- 83) 田畑泉：食事摂取基準とエネルギー．平成21年度短期研修公衆栄養研修、国立保健医療科学院．2009.08.26, 国立保健医療科学院（和光市）
- 84) 高田和子：地域で支える栄養ケア．特定給食施設栄養技術講習会、東京都北区保健所．2009.09.10, 東京
- 85) 村上晴香：国の施策の現状及び健康運動指導士の役割．健康運動指導士登録更新講習会「基礎興亜」、(財)健康・体力づくり事業財団．2009.09.26
- 86) 村上晴香：特定健診・特定保健指導、介護予防等の理論と実際．健康運動指導士登録更新講習会「基礎講座」、(財)健康・体力づくり事業財団．2009.09.26
- 87) 高田和子：アスリートの栄養・食事．公認コーチ養成講習会、日本体育協会．2009.09.29, 東京
- 88) 高田和子：食生活の保健指導．特定検診・保健指導実践者育成研修会、栃木県保険者協議会．2009.09.30, 栃木
- 89) 田畑泉：健康づくりと運動．平成21年度全国食生活改善推進員団体リーダーブロック研修会、(財)日本食生活協会．2009.10.02, メルパルク岡山（岡山市）
- 90) 宮地元彦：メタボ予防・改善のための運動・身体活動．特定保健指導実践者育成研修会、秋田県保険協議会．2009.10.07, 秋田県市町村会館、秋田県秋田市山王4-2-3
- 91) 宮地元彦：健康アクション佐賀21県民会議．無理なく続ける健康づくり・佐賀県健康増進課．2009.10.21, アバンセ・佐賀県天神3-15-18
- 92) 村上晴香：自分にできる”ちょこっとエクササイズ”で健康に！．健やか山梨21推進大会、山梨県福祉保健部．2009.11.08
- 93) 田畑泉：「日本人の食事摂取基準（2010年）基本と応用」．平成21年度児童福祉施設給食担当者研修会、茨城県栄養士会．2009.11.12, 茨城県学校給食会（水戸市）
- 94) 宮地元彦：特定健診保健指導の効果的な運動指導のあり方．生活習慣病予防のための健診・保健指導のあり方、長野県北信保健福祉事務局．2009.11.13, 長野県飯山庁舎、長野県飯山市大字静間1340-1
- 95) 田畑泉：健康づくりと運動．平成21年度全国食生活改善推進員団体リーダーブロック研修会、

- (財)日本食生活協会. 2009. 11. 19, 岩沼屋(仙台市)
- 96) 村上晴香: 国の施策の現状及び健康運動指導士の役割. 健康運動指導士登録更新講習会「基礎講座」、(財)健康・体力づくり事業財団. 2009. 11. 21
- 97) 村上晴香: 特定健診・特定保健指導、介護予防等の理論と実際. 健康運動指導士登録更新講習会「基礎講座」、(財)健康・体力づくり事業財団. 2009. 11. 21
- 98) 田畑泉: 日本人の食事摂取基準2010年版. 健康づくり提唱の集い, 秋田県栄養士会. 2009. 11. 21, 秋田市民会館(秋田市)
- 99) 宮地元彦: 生活習慣病予防と介護予防における体力の重要性. 壮年体力づくり指導者講習会、(財)健康体力づくり事業財団. 2009. 11. 27, 熊本県総合体育館、熊本県熊本市
- 100) 宮地元彦: 生活習慣病予防と介護予防における体力の重要性. 壮年体力づくり指導者講習会、(財)健康体力づくり事業財団. 2009. 12. 11, いしかわ総合スポーツセンター・石川県金沢市
- 101) 田畑泉: メタボリックシンドローム症候群の健康づくりと運動指針. 平成21年度実践保健指導・栄養指導ブラッシュアップセミナー, 日本栄養士会. 2009. 12. 12, 大阪府社会福祉会館(大阪市)
- 102) 宮地元彦: ライフサイクルからみた女性の健康問題. 健康相談従事者基礎研修会、静岡県厚生部健康増進室長. 2009. 12. 14, 静岡県掛川市徳育保健センター・静岡県掛川市御所原9-28
- 103) 高田和子: 食生活に関する保健指導. 特定健診・保健指導実践者育成研修会(実技編)、栃木県保険者協議会. 2010. 01. 14, 栃木
- 104) 田畑泉: 健康づくりと運動. 平成21年度全国食生活改善推進員団体リーダーブロック研修会、(財)日本食生活協会. 2010. 01. 21, サンライズ九十九里(千葉県山武郡)
- 105) 宮地元彦: ライフサイクルからみた女性の健康問題. 健康相談従事者基礎研修会、静岡県厚生部健康増進室長. 2010. 01. 26, 東レ総合研修センター、静岡県三島市末広町21-9
- 106) 宮地元彦: 生活習慣病予防と介護予防における体力の重要性. 壮年体力づくり指導者講習会、(財)健康体力づくり事業財団. 2010. 01. 29, 千葉市スポーツ科学センター・千葉県千葉市
- 107) 田畑泉: 健康づくりと運動. 平成21年度全国食生活改善推進員団体リーダーブロック研修会、(財)日本食生活協会. 2010. 02. 05, 城山観光ホテル(鹿児島市)
- 108) 宮地元彦: 女性のヘルスケア. ウーマンズヘルスケア横須賀講習会、横須賀市保健所. 2010. 03. 06, ヨコスカベイサイドポケット、神奈川県横須賀市本町3-27
- 109) 田中茂穂: 新食事摂取基準におけるエネルギー必要量 関連の話題. 関東信越国立病院管理栄養士協議会研修会. 2010. 03. 06, 国立国際医療センター戸山病院
- 110) 田中茂穂: 日本人の食事摂取基準(2010年版)について. 東京都施設給食協会 平成21年度第2回栄養技術講習会. 2010. 03. 09, 東京自治会館(東京)
- 111) 門脇孝: 糖尿病治療において栄養士に期待すること. 東京都病人栄養研究会総会創立60周年特別記念講演. 2009. 06. 13, 東京
- 112) 門脇孝: メタボリックシンドローム. 第13回練馬区民健康づくりセミナー. 2009. 06. 14, 東京
- 113) 門脇孝: 生活習慣病の成因・治療のエビデンスと管理栄養士の使命. 第13回日本病態栄養学会. 2010. 01. 09, 京都
- 114) 饗場直美: 行動変容に関する理論・保健指導を支えるカウンセリング. 群馬県栄養士会. 2009. 05. 10, 前橋市
- 115) 饗場直美: 効果的な特定保健指導について. 保健師研修会 群馬県看護協会. 2009. 06. 19, 群馬県伊勢崎市
- 116) 饗場直美: 地域で食育に取り組もう～給食施設に期待すること～. 特定給食施設従事者講習会、神奈川県藤沢市保健所. 2009. 06. 23, Oslo
- 117) 饗場直美: メタボリックシンドロームの予防の栄養管理. 給食施設従事者講習会、神奈川県厚木保健福祉事務所. 2009. 06. 24, 神奈川県厚木市
- 118) 饗場直美: 子どもの食育とその評価. 神奈川県栄養士会福祉栄養士協議会研修会. 2009. 06. 25, 神奈川県横浜市
- 119) 饗場直美: 成長期の栄養と食に関する指導. 江戸川区小学校教育研究会講演会、江戸川小学校教育研究会. 2009. 07. 27, 東京都江戸川区
- 120) 饗場直美: 栄養士の役割と課題. 専門職研修「栄養士研修」、東京都市町村職員研修所. 2009. 08. 10, 東京都府中市
- 121) 饗場直美: 「特定健診・特定保健指導の効果的実施に向けて」一適切な評価を考える一. 平成21年度保健衛生研修、神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所. 2009. 08. 25, 神奈川県茅ヶ崎市
- 122) 饗場直美: 生涯にわたる食育を進めるための栄養士の役割. 高津区給食施設等栄養士研修会、川崎市高津区役所保健福祉センター. 2009. 09. 15, 川崎市高津区
- 123) 饗場直美: 朝食と生活リズム朝食と生活習慣の見直し. 生活リズム公開講座、東京都江戸川区立清新第一中学校. 2009. 10. 16, 東京都江戸川区
- 124) 饗場直美: お母さんも元気のでる食育の提案. 学校保健委員会講演会、東京都新宿区立新宿養護学校. 2009. 11. 11, 東京都新宿区
- 125) 饗場直美: なぜいま食育～食教育のいろいろ～. 食育事例発表会・講演会、横浜市青葉福祉保健センター. 2009. 12. 14, 横浜市青葉区
- 126) 饗場直美: かしくく食べて免疫力アップー身体を守る仕組みと食生活を考える一. 健康大学第6回教養講座、目黒区健康推進部健康推進課. 2010. 01. 15, 東京都目黒区

- 127) 饗場直美：子どもの食育とその評価～保育と食育のつながりかた～. 平成21年度第3回保育研修会, 海老名市児童福祉課. 2010. 01. 19, 神奈川県海老名市
- 128) 饗場直美：楽しく食育、おいしく食育. 平成21年度食育支援担当者等講習会, 小田原市保健福祉事務所. 2010. 01. 29, 小田原市
- 129) 饗場直美：生涯を通じた健康づくり～食育～. 第2回学校保健委員会（いきいき子育て講演会）、東京都北区立西浮間小学校. 2010. 02. 10, 東京都北区
- 130) 饗場直美：“食”で育む ひとつづくり まちづくり. 平成21年度八王子食育シンポジウム、八王子市保健所. 2010. 02. 13, 八王子市
- 131) 饗場直美：免疫力と食生活について. 介護予防指導・育成事業にかかわる研修会・高津保健福祉センター. 2010. 02. 22, 川崎市
- 132) 饗場直美：地域で進める食育について. 高津区健康づくり推進会議・食育分科会. 2010. 02. 23
- 133) 栗澤元晴：小学生の食事. 北牧小学校（長野県）. 2010. 02. 24
- 134) 石見佳子：更年期女性の健康づくりー食生活と運動ー. 目黒区碑文谷保健センター. 2009. 06. 05, 東京
- 135) 石見佳子：骨づくりとカルシウム. 日本体育協会・栄養士会公認スポーツ栄養士専門講習会. 2009. 06. 06, 東京
- 136) 竹林純：食品の抗酸化性を生かした機能性食品開発. 機能性食品講習会、(財)かがわ産業支援財団 香川県産業技術センター 香川県食品研究会. 2009. 11. 27, 香川県産業技術センター（香川県高松市）
- 137) 石見佳子：今日から始める骨元気生活ー骨粗鬆症ってどんな病気？ー. 杉並区介護予防健康講座. 2010. 01. 21, 東京
- 138) 石見佳子：日本人の食事摂取基準（2010年版）ミネラルを中心に. 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会（財）健康・体力づくり事業財団・日本フィットネス協会主催. 2010. 03. 08, 東京
- 139) 梅垣敬三：健康食品・サプリメントの賢い使い方. 食品安全セミナー、秋田県生活衛生課. 2009. 06. 10, 秋田
- 140) 梅垣敬三：食品表示と「健康増進法」について. 平成21年度消費生活セミナー、(社)札幌消費者協会. 2009. 07. 23, 札幌
- 141) 梅垣敬三：健康食品・サプリメントの適切な使用の考え方. 食品安全フォーラムinとやま、富山県農林水産部農産食品課. 2009. 08. 25, 富山
- 142) 梅垣敬三：新たな特別用途食品制度について. 九州国立病院管理栄養士協議会研修会. 2009. 09. 05, 福岡
- 143) 梅垣敬三：ここにご注意！「健康食品」・サプリメント. 消費者講座、大田区立消費者生活センター. 2009. 10. 19, 大田区
- 144) 梅垣敬三：健康食品の正しい選び方・使い方. 江戸川区消費者講座、江戸川区消費者センター. 2009. 11. 20, 江戸川区
- 145) 梅垣敬三：日本人の食事摂取基準2010版について（総論）. 平成21年度東京都栄養担当者会議、東京都福祉保健局. 2009. 12. 11, 東京
- 146) 梅垣敬三：特定保健用食品と健康増進法. 神奈川県県民部消費生活課. 平成21年度食品表示・安全分野研修会. 2010. 01. 13, 厚木
- 147) 梅垣敬三：特定保健用食品と健康増進法. 神奈川県県民部消費生活課、平成21年度食品表示・安全分野研修会. 2010. 01. 19, 横浜
- 148) 梅垣敬三：健康食品・サプリメントの適切な使用の考え方. 食の安全フォーラム、さいたま市. 2010. 01. 26, 埼玉市
- 149) 梅垣敬三：賢い健康食品の使い方. 第7回食の安全シンポジウム、和歌山県環境生活部県民局食品・生活衛生課. 2010. 02. 06, 和歌山市
- 150) 梅垣敬三：サプリメント・健康食品とどうつき合うの. 熊本県薬剤師会県民公開講座、熊本県薬剤師会. 2010. 02. 07, 熊本市
- 151) 梅垣敬三：健康増進法について. 平成21年度消費生活相談員専門分野別研修会. (社)札幌消費者協会. 2010. 02. 13, 札幌
- 152) 梅垣敬三：サプリメント・トクホについて. 栄養指導講習会、港区みなと保健所. 2010. 02. 23, 港区
- 153) 梅垣敬三：健康食品を正しく知ろう. 第4回食品表示を学ぶセミナー、(社)北海道消費者協会. 2010. 02. 25, 函館
- 154) 梅垣敬三：健康食品とサプリメントの検証. 長野県栄養士会諏岡支部研修会. 2010. 02. 27, 諏訪市
- 155) 梅垣敬三：健康食品と健康増進法について. 特別区保健所栄養士会専門部会. 2010. 03. 29, 品川区
- 156) 笠岡(坪山)宜代：日本人の食事摂取基準（2010年版）～策定の基礎理論・各論～. 東京都栄養士会 生涯学習研修会. 2009. 08. 01, 昭和女子大学、東京
- 157) 笠岡(坪山)宜代：日本人の食事摂取基準 2010年版 各論. 東京都栄養士会医療部会 1日セミナー. 2009. 11. 21, 東京慈恵会医科大学、東京
- 158) 笠岡(坪山)宜代：「日本人の食事摂取基準」（2010年版）について. 台東区台東保健所 栄養管理講習会. 2009. 12. 01, 台東保健所、東京
- 159) 笠岡(坪山)宜代：『「日本人の食事摂取基準（2010年版）」の理解と活用』. 東京都多摩府中保健所 市町村等支援研修. 2009. 12. 08, 東京都多摩府中保健所、東京
- 160) 笠岡(坪山)宜代：『日本人の食事摂取基準（2010年版）～策定と活用～』. 江戸川保健所給食施設従事者講習会. 2009. 12. 11, 江戸川保健所、東京
- 161) 笠岡(坪山)宜代：『日本人の食事摂取基準』（2010年版）～策定と活用～. 川崎市健康福祉局 給食施設講習会. 2010. 02. 24, 川崎市産業

振興会館、神奈川

- 162) 笠岡(坪山)宜代:「日本人の食事摂取基準(2010年版)の策定の考え方と活用について」. 鎌倉保健福祉事務所 栄養・食生活対策担当者研修. 2010.02.26, 鎌倉保健福祉事務所、神奈川
- 163) 笠岡(坪山)宜代:「日本人の食事摂取基準2010年版」について. 北区健康福祉部 北区楽しい食の推進員. 2010.03.02, 健康増進センター、東京
- 164) 笠岡(坪山)宜代:「新たな特別用途食品制度について」. (社)東京都施設給食協会 栄養技術講習会. 2010.03.09, 東京自治会館、東京

【研究所が主催・共催するセミナー等】

- 1) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.27, 宇都宮市
- 2) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.27, 宇都宮
- 3) 由田克士: 健康・栄養調査の企画・評価概論. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.27, 宇都宮
- 4) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.30, 米子市
- 5) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.30, 米子
- 6) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.31, 高松市
- 7) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.07.31, 高松
- 8) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.03, 金沢市
- 9) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.03, 金沢
- 10) 由田克士: 健康・栄養調査の企画・評価概論. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.03, 金沢
- 11) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.06, 札幌市
- 12) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.06, 札幌
- 13) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.20, 熊本市
- 14) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.20, 熊本
- 15) 由田克士: 健康・栄養調査の企画・評価概論. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.20, 熊本
- 16) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」利用方法について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.21, 熊本市
- 17) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」データ処理について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.21, 熊本市
- 18) 野末みほ: 適切な食品番号の選択、調理による変化や栄養素が強化されている食品の考え方について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.27, 東京
- 19) 由田克士: 健康・栄養調査の信頼性を高めるー標準化・精度管理の必要性ー. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.27, 東京
- 20) 由田克士: 健康・栄養調査の企画・評価概論. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.27, 東京
- 21) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」利用方法について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.29, 東京
- 22) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」データ処理について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.08.29, 東京
- 23) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」利用方法について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.09.09, 大阪
- 24) 野末みほ, 荒井裕介, 由田克士: 栄養摂取状況調査集計ソフト「食事しらべ」データ処理について. 健康・栄養調査技術研修セミナー. 2009.09.09, 大阪
- 25) 森田明美: 「総論」, 「ライフステージ」. 厚生労働省健康局総務課 日本人の食事摂取基準(2010年版)ブロック別講習会. 2009.09.28, 大阪府大阪市
- 26) 森田明美: 「総論」, 「ライフステージ」. 厚生労働省健康局総務課 日本人の食事摂取基準(2010年版)ブロック別講習会. 2009.10.04, 東京都江東区
- 27) 森田明美: 「総論」, 「ライフステージ」. 厚生労働省健康局総務課 日本人の食事摂取基準(2010年版)ブロック別講習会. 2009.10.11, 宮城県仙台市
- 28) 森田明美: 「ライフステージ」. 厚生労働省健

- 康局総務課 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会. 2009. 11. 10, 福岡県福岡市
- 29) 森田明美: 「健康食品」の必要性—新しい食事摂取基準に照らして—. 第11回一般公開セミナー. 2010. 1. 30, 東京
- 30) 田畑泉: エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会. 2009. 09. 28, 大阪厚生年金会館（大阪市）
- 31) 田中茂穂: 食事摂取基準 各論 エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会（関東ブロック）. 2009. 10. 04, 東京ビッグサイト（東京）
- 32) 田畑泉: エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会. 2009. 10. 11, 仙台国際センター（仙台市）
- 33) 田畑泉: エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会. 2009. 11. 10, 福岡国際会議場（福岡市）
- 34) 田中茂穂: 食事摂取基準 各論 エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会（中四国ブロック）. 2009. 11. 15, 川崎医療福祉大学（倉敷市）
- 35) 田畑泉: エネルギー. 日本人の食事摂取基準（2010年版）ブロック別講習会. 2009. 11. 29, 名古屋国際会議場（名古屋市）
- 36) 宮地元彦: メタボリックシンドロームを予防・改善する身体活動. NR研修会. 2009. 10. 25, 名古屋
- 37) 田畑泉: 身体活動と「健康食品」. 第11回一般公開セミナー. 2010. 1. 30, 東京
- 38) 石見佳子: 特別用途食品の現状と制度の改正. NR研修会. 2009. 11. 29, 岡山
- 39) 石見佳子: 特別用途食品の現状と制度の改正. NR研修会. 2010. 01. 23, 東京
- 40) 石見佳子: パネルディスカッション「健康食品」の適切な情報提供について. 第11回一般公開セミナー. 2010. 1. 30, 東京
- 41) 梅垣敬三: 健康食品の安全性確保. NR研修会. 2009. 10. 04, 仙台
- 42) 梅垣敬三: 健康食品の安全性確保. NR研修会. 2009. 12. 05, 福岡
- 43) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全な利用法. 第11回一般公開セミナー. 2010. 01. 30, 東京
- 44) 芝池伸彰: パネルディスカッション「健康食品」の適切な情報提供について. 第11回一般公開セミナー. 2010. 1. 30, 東京
- 45) 徳留信寛: 生活習慣病の予防とコントロール. NR研修会. 2009. 10. 18, 大阪
- 46) 徳留信寛: 生活習慣病の予防とコントロール. NR研修会. 2009. 12. 12, 東京
- 47) 徳留信寛: 生活習慣病の予防とコントロール. NR研修会. 2010. 1. 23, 東京
- 日循協認定生活習慣改善保健指導士制度委員会教育研修. 2009. 06. 06, 横浜
- 2) 由田克士: 栄養・食生活の基礎知識及び今日の課題と対策. 平成21年度日本家族計画協会・結核予防会 特定保健指導「食生活改善指導担当者」養成セミナー. 2009. 07. 10, 横浜
- 3) 森田明美: 2010年食事摂取基準の概説. (財)若さの栄養学協会 第39回栄養学連続講義. 2009. 08. 01, 大阪府大阪市
- 4) 森田明美: 食事摂取基準改定 2010年版. 日本食品添加物協会 第34回食品添加物技術フォーラム. 2009. 08. 04, 東京都千代田区
- 5) 由田克士: 対象・目的に応じた食事調査の方法と標準化. 日本栄養改善学会 第2回実践栄養学研究セミナー（基礎編）. 2009. 09. 26, 京都
- 6) 由田克士: 対象・目的に応じた食事調査の方法と標準化. 日本栄養改善学会 第2回実践栄養学研究セミナー（基礎編）. 2009. 09. 27, 東京
- 7) 森田明美: 日本人の食事摂取基準（2010年版）～変更点と活用ポイント～. 社団法人日本メディカル給食協会 関東信越ブロック栄養士会研修会. 2009. 11. 11, 東京都新宿区
- 8) 森田明美: 高齢者と新食事摂取基準、特に資質の関わりについて. 社団法人日本植物油協会 2009年植物油栄養懇話会. 2009. 11. 20, 東京都千代田区
- 9) 由田克士: 健康をつくる食習慣・食生活. 能美市商工会工業部会. 2010. 02. 12, 能美市
- 10) 森田明美: 日本人の食事摂取基準（2010年版）の概要およびその活用法. AFIN(国際栄養食品協会) 2009年度 第3回教育セミナー. 2010. 03. 16, 東京都新宿区
- 11) 田中茂穂: エネルギー消費と肥満. 第4回 味の素KK”健康基盤”サイエンスセミナー. 2009. 09. 16, 丸ビル コンファレンススクエア
- 12) 宮地元彦: メタボ予防・改善のための運動・身体活動. 特定保健指導の現状と今後の課題、セルフメディケーションを支援する会事務局. 2009. 09. 25, 大正製薬本社、東京都豊島区高田3-24-1
- 13) 宮地元彦: 健康づくりのトレーニング手法Ⅱ. スポーツサイエンステクノロジー2009セミナー、スポーツサイエンステクノロジー事務局. 2009. 10. 03, 東京ビックサイト、東京都江東区有明3-21-1
- 14) 田畑泉: 健康づくりと運動ガイドライン. 立命館大阪オフィス講座, 立命館大学大阪オフィス. 2009. 10. 14, 立命館大学大阪オフィス（大阪市）
- 15) 宮地元彦: 生活習慣病予防と運動・食事. 生活習慣病対策展における特別講演、日本能率協会. 2009. 11. 11, 東京ビックサイト、東京都江東区有明3-21-1
- 16) 田畑泉: 新食事摂取基準の概要. 植物油栄養懇話会, (社)日本植物油協会. 2009. 11. 20, 如水会館（千代田区）

【その他の講演会等】

- 1) 由田克士: 特定健康診査・保健指導の効果を高めるための職種間の連携強化と協働を考える.

- 17) 宮地元彦: 生活習慣病予防と身体活動. 第2回メタボ研究会、大正製薬. 2010. 02. 10, 大正製薬本社、東京都豊島区高田3-24-1
- 18) 田畑泉: 日本における健康づくり政策: ポスト健康運動指導士日本21. 平成21年度鹿屋体育大学生涯スポーツセンター協力者会議, 鹿屋体育大学生涯スポーツセンター. 2010. 02. 16, 鹿屋体育大学 (鹿屋市)
- 19) 田中茂穂: 身体活動量の定量法とその実際. 平成21年度 第1回特定保健指導に係る運動指導担当者研修. 2010. 03. 01, 安全衛生総合会館 (東京)
- 20) 宮地元彦: 職場における身体活動・運動に関する保健指導. 板橋区医師会保健指導研究会/産業研修会、板橋区医師会. 2010. 03. 04, 板橋区医師会館、東京都板橋区大和町1-7
- 21) 田畑泉: わが国の健康づくり施策とエクササイズガイドの活用. 健康・スポーツセミナー (指宿市雇用創造協議会). 2010. 03. 06, 指宿総合体育館 (鹿児島県指宿市)
- 22) 宮地元彦: メタボリックシンドローム. 町田市市民講座、町田市医師会. 2010. 10. 03, 町田市市民ホール、町田市森野2-2-36
- 23) 窪田直人, 窪田哲也: 【My boss, My colleague and My research】兄弟で取り組む、心血管イベント抑制に向けた包括的研究. Trans-BEAT no. 4. 2009. 04.
- 24) 窪田直人, 門脇孝: 2型糖尿病の分子メカニズムの解明〜遺伝子操作動物を用いて. 第1回 Brainstorming Medical Conference. 2009. 04. 18, 東京
- 25) 門脇孝: 2型糖尿病の原因と病態—インスリン抵抗性と脂肪細胞の研究. 第2回JSDEIセミナー. 2009. 04. 19, 東京
- 26) 門脇孝: 糖尿病・メタボの仕組みとその予防・治療—健康な生活習慣と新しい薬の開発. 公開講座「先端科学創造シンポジウム」. 2009. 05. 15, 東京
- 27) 門脇孝: 高血圧合併症糖尿病の治療戦略. 千葉ARBフォーラム〜プロブレス発売10周年記念. 2009. 05. 26, 千葉
- 28) 門脇孝: 2型糖尿病の成因に関する最新知見と治療戦略. 第89回新潟内分泌代謝同好会. 2009. 05. 30, 新潟
- 29) 門脇孝: 糖尿病の合併症管理—日常診療を向上させる7つのポイント. 東京糖尿病合併症セミナー. 2009. 06. 12, 東京
- 30) 門脇孝: 糖尿病の病態と治療戦略〜最近の大規模臨床試験を踏まえて〜. 第21回一糖会. 2009. 06. 19, 福岡
- 31) 門脇孝: 医薬品の研究開発—生活習慣病治療の最先端—. EMP第2期プログラム講義. 2009. 06. 20, 東京大学
- 32) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいstrategy. Diabetes Speakers Forum. 2009. 06. 21, 東京
- 33) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療を向上させる7つのポイント. 第1回実地医家の為の糖尿病セミナー. 2009. 06. 28, 福岡
- 34) 門脇孝: 糖尿病と心血管病—疫学と成因—. 北海道フォーラム ザ・ファイナル. 2009. 07. 03, 札幌
- 35) 窪田直人, 窪田哲也, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 血管内皮細胞インスリンシグナルの糖代謝調節における役割の解明. 第15回成人病の病因・病態の解明に関する研究会. 2009. 07. 04, 軽井沢
- 36) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. The 2nd INCRETIN CIRCLE Meeting. 2009. 07. 12, 東京
- 37) 門脇孝: 糖尿病の下肢障害の診断と治療. 船橋地区整形外科セミナー. 2009. 07. 17, 船橋
- 38) 門脇孝: 21世紀の糖尿病医療の希望と挑戦—医療スタッフの役割—. 第9回大阪糖尿病教育担当者研究会. 2009. 07. 18, 大阪
- 39) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. Diabetes Speaker Forum. 2009. 07. 19, 東京
- 40) 門脇孝: 日本人2型糖尿病の病態と治療戦略. キッセイメディアフォーラム. 2009. 07. 29, 東京
- 41) 門脇孝: わが国の糖尿病患者の心血管予防をいかに進めるか—J-D0IT3の現状と将来展望. 財) 国際協力医学研究振興財団「糖尿病予防のための戦略研究」. 2009. 07. 30
- 42) Naoto Kubota, Kadowaki T: The role of hepatic IRS-1 and IRS-2 in the regulation of glucose and lipid metabolisms. MEET THE SPECIALIST 2009. 2009. 08. 21, 東京
- 43) 門脇孝: 糖尿病合併症と危険因子. 第26回糖尿病UP・Date賢島セミナー. 2009. 08. 22, 志摩
- 44) 窪田哲也, 窪田直人, 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 骨格筋のインスリン感受性調節における血管内皮細胞のインスリンシグナルの役割の解明. 第14回アディポサイエンス研究会. 2009. 08. 22, 大阪
- 45) 門脇孝: 早期からの血糖管理と合併症予防の治療戦略. Diabetes Professional Meeting. 2009. 08. 25, 埼玉
- 46) 門脇孝: 早期からの血糖コントロールによる合併症抑制をめざして〜BOTの重要性〜. 横浜糖尿病講演会. 2009. 09. 07, 横浜
- 47) 門脇孝: 糖尿病治療におけるパラダイムシフト〜アクトスの有用性をふまえて〜. 十勝学術講演会. 2009. 09. 11, 北海道
- 48) 門脇孝: 生活習慣病の分子機構と創薬戦略. 第20回新薬創製談話会. 2009. 09. 17, 熱海
- 49) 門脇孝: 糖尿病—基礎研究と臨床研究の最前線. 糖尿病アカデミー. 2009. 09. 24, 岩手
- 50) 門脇孝: 糖尿病と合併症—予防と治療の進め方. 健康教育講座. 2009. 09. 25, 東京
- 51) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療を向上させる7つのポイント. 第11回三河糖尿病内分泌研究会. 2009. 09. 26, 豊橋

- 52) 門脇孝: 糖尿病治療の現状と課題～インクレチン薬への期待～. 練馬区医師会学術部 糖尿病治療研究会. 2009. 10. 08, 東京
- 53) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療戦略～最新の知見～. 第1回Current Topics Lecture in Endocrinology & Metabolism. 2009. 10. 28, 米子
- 54) 門脇孝: メタボリックシンドロームの基礎と臨床 (Basic and clinical aspects of metabolic syndrome). 第18回腸内フローラシンポジウム. 2009. 10. 30
- 55) 門脇孝: 患者背景に合わせたインスリン注射療法の選択とステップアップ. 多摩インスリン治療検体会2009. 2009. 10. 30, 東京
- 56) 門脇孝: 糖尿病診断基準改訂の国際的情勢. 糖尿病の診断基準とHbA1cの国際標準化に関するシンポジウム. 2009. 11. 01, 東京
- 57) 門脇孝: 糖尿病患者における積極的・多角的治療介入 -その意義と実践: J-DOIT3から. 第13回長崎循環器フォーラム. 2009. 11. 04, 長崎
- 58) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理-日常診療を向上させる7つのポイント. 第2回南多摩地区糖尿病合併症講演会. 2009. 11. 05, 東京
- 59) 門脇孝: アンチエイジング、メタボリックシンドローム予防の新時代(基調講演). 日経ヘルスビジネスカンファランス2009. 2009. 11. 12, 東京
- 60) 門脇孝: 糖尿病、メタボの病態と治療法・予防法-基礎から最新情報まで. (社)日本能率協会主催「生活習慣病対策展2009」. 2009. 11. 12, 東京
- 61) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. 西埼玉糖尿病フォーラム. 2009. 11. 12, 埼玉
- 62) 門脇孝: 2型糖尿病の病態と治療のパラダイムシフト. 秋田アクトス10周年記念講演会. 2009. 11. 13, 秋田
- 63) 門脇孝: 糖尿病予防(市民公開講演会). 世界糖尿病Dayフォーラムin東京. 2009. 11. 15, 東京
- 64) 門脇孝: 臨床医の立場から(市民公開講演会). 世界糖尿病Dayフォーラムin東京. 2009. 11. 15, 東京
- 65) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. 生活習慣病インターネット講演会. 2009. 11. 16, 東京
- 66) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. CHIBA Forum. 2009. 11. 18, 千葉
- 67) 門脇孝: 20年後の臨床医は、糖尿病に対して何をしているか?～2030年の糖尿病の予防・診断・治療(合併症を含めて)～. 第2回糖尿病WG会議(NEDO創薬・診断技術戦略に関する調査事業). 2009. 11. 25, 東京
- 68) 門脇孝: インクレチンをターゲットにした2型糖尿病治療の新しいStrategy. ジャスピア錠学術講演会. 2009. 11. 26, 京都
- 69) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略-インクレチンへの期待-. 第2回Incretin & Islet Initiative. 2009. 11. 28, 東京
- 70) 門脇孝: 臨床医学からの提言. 第2回日本の創薬力向上シンポジウム. 2009. 12. 04, 東京
- 71) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略-インクレチンの投与意義を中心に-. 宮崎糖尿病治療研究会. 2009. 12. 11, 宮崎
- 72) 門脇孝: 糖尿病・メタボの仕組み. 第5回筑駒医師の会. 2009. 12. 29, 東京
- 73) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略-インクレチンへの期待-. 筑後ブロック内科医会学術講演会. 2010. 01. 15, 福岡
- 74) 門脇孝: 2型糖尿病の新しい治療戦略-インクレチンへの期待-. インクレチンフォーラムin 三重. 2010. 01. 19, 三重
- 75) 門脇孝: 2型糖尿病の病態と治療のパラダイムシフト. アクトス10周年記念講演会. 2010. 01. 21, 大阪
- 76) 門脇孝: インクレチンをターゲットとした2型糖尿病治療の新しいStrategy. Sitagliptin発売記念講演会. 2010. 01. 26, 岡山
- 77) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療戦略～最新の知見～. 第4回徳島Vascular Endocrinology Conference. 2010. 02. 04, 徳島
- 78) 門脇孝: 2型糖尿病治療におけるパラダイムシフト. 千葉糖尿病フォーラム. 2010. 02. 05, 千葉
- 79) 門脇孝: ビクトーザによる日本人2型糖尿病治療のパラダイムシフト. プレス ビクトーザ勉強会. 2010. 02. 16, 東京
- 80) 門脇孝: 糖尿病の病態と治療法・予防法～基礎から最新情報まで～. 日刊工業新聞主催シンポジウム 今こそセルフコントロール糖尿病. 2010. 02. 22, 東京
- 81) 門脇孝: 糖尿病の病態と治療の進め方-最近の考え方-. 高槻市糖尿病アカデミー. 2010. 02. 24, 京都
- 82) 門脇孝: 糖尿病の病態と心血管イベント抑制における集学的治療の重要性. Tama Regression Forum. 2010. 02. 26, 東京
- 83) 門脇孝: 糖尿病を理解するための基礎知識4: 糖尿病とは. 第44回糖尿病学の進歩. 2010. 03. 05, 大阪
- 84) 門脇孝: 合併症抑制に向けた糖尿病治療戦略(ランチョンセミナー). 第44回糖尿病学の進歩. 2010. 03. 06, 大阪
- 85) 門脇孝: 糖尿病をめぐる最近の話題-診断基準改訂とHbA1c国際標準化を含めて. 第36回糖尿病センターとの医療連携の会. 2010. 03. 10, 東京
- 86) 門脇孝: 合併症抑制をめざす糖尿病の治療戦略. 城南インスリンセミナー. 2010. 03. 13, 東京
- 87) 饗場直美: 日本の食育の推進. 海外ジャーナリスト食育講演会・ヤクルト株式会社主催. 2009. 05. 19, 東京都
- 88) 饗場直美: 特定保健指導の実践の仕方について. 保健指導実践者研修講座-スキルアップコース-, NPO 特定非営利活動法人 学習支援センター. 2009. 05. 27, 福島県白河市
- 89) 饗場直美: 特定保健指導の実践の仕方について.

保健指導実践者研修講座ースキルアップコース
ー、NPO 特定非営利活動法人 学習支援センタ
ー. 2009. 07. 16

- 90) 江崎治: 「2010年版食事摂取基準の脂質についてートランス脂肪酸を中心にー」. 第17回 加工油脂栄養研究会. 2009. 10. 24, 石和温泉 ホテルふじ (山梨県)
- 91) 永田純一: 健康食品の機能について. 健康食品管理士会四国支部研修会. 2009. 05. 31, 香川県立保健医療大学大学 (高松)
- 92) 石見佳子, 卓興鋼, 梅垣敬三, 山内淳: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的レビューとその検証に関する研究 (第2報) (特定研究). 不二たん白質研究振興財団研究報告会. 2009. 06. 01, 大阪
- 93) 石見佳子: 日本型食事が大豆イソフラボンの代謝及び骨代謝に及ぼす影響. 日本豆乳協会奨励寄附研究報告会. 2009. 07. 17, 東京
- 94) 石見佳子: 大豆成分の生活習慣病予防効果の系統的レビューとメタ分析. 第49回近畿アグリハイテクシンポジウム. 2010. 01. 15, 京都
- 95) 梅垣敬三: 医薬品と健康食品の相互作用. わかさの栄養学春の講演会、(財)若さの栄養学協会. 2009. 06. 15, 横浜
- 96) 梅垣敬三: 健康食品フォーラムー健康食品を巡る最近の問題. 健康食品管理士協会. 2009. 07. 26, 東京
- 97) 梅垣敬三: 食の安全. 教養文化セミナー「食の安全」、東京金属基金友の会. 2009. 08. 11, 東京
- 98) 廣田晃一: 生活習慣病について. 東京土建一般労働組合世田谷支部講演会. 2009. 09. 13, 世田谷区
- 99) 梅垣敬三: 「国民の健康と健康食品の考察」行政からみた健康食品の問題点. 第18回健康食品フォーラム、財団法人医療経済研究・社会保健福祉協会. 2009. 10. 05, 東京
- 100) 梅垣敬三: 高齢者とサプリメント. 藍の会の講演会. 2009. 10. 10, 東京
- 101) 梅垣敬三: 保健機能食品について. ホントのことを知りたい学習会シリーズ「トクホ」と「エコナ」学習会、全国消費者団体連絡会. 2009. 10. 23, 千代田区
- 102) 梅垣敬三: 健康食品の正しい利用法・健康食品は本当に効果があるの. (社)消費者関連専門家会. 2009. 11. 18, 東京
- 103) 梅垣敬三: 特定保健用食品について. 第4回食品の安全にかかわる組合員リーダー向け連続セミナー、日本生活協同組合連合会. 2009. 12. 16, 東京
- 104) 梅垣敬三: 健康食品とその適切な利用のあり方. 「特定保健食品 (トクホ) と健康食品を通して食と健康の在り方を考える」公開シンポジウム、NPO法人「くらしとバイオブラザ21」. 2010. 01. 25, 渋谷区
- 105) 梅垣敬三: 健康食品の有効性と安全性をめぐる問題. 健康食品管理士協会研修会. 健康食品管

理士協会. 2010. 02. 21, 沖縄

5. 政府関係機関審議会、委員会等 【厚生労働省等政府関連】

- 1) 由田克士: 文部科学省児童生徒の給食食事摂取基準策定に関する調査協力会議. 文部科学省スポーツ・青少年局長. 2009.
- 2) 由田克士: 日本人の食事摂取基準活用検討会構成員. 厚生労働省. 2009.
- 3) 由田克士: 児童生徒の学校給食摂取基準策定に関する調査協力者会議. 文部科学省. 2009.
- 4) 森田明美: 日本人の食事摂取基準策定検討委員. 厚生労働省健康局. 2009.
- 5) 森田明美: 国民健康・栄養調査企画解析検討会構成員. 厚生労働省健康局. 2009.
- 6) 森田明美: 食品安全委員会添加物専門調査会専門委員. 内閣府食品安全委員会. 2009.
- 7) 森田明美: 「食品分野におけるナノテクノロジー利用の安全性評価情報に関する基礎的調査」検討会委員. 内閣府商品安全委員会事務局. 2009.
- 8) 宮地元彦: 特定健診・保健指導の実施に関するワーキンググループ 委員. 厚生労働省保険局国民健康保険課長 (平成20年) 1月18日. 2009.
- 9) 田中茂穂: 「日本人の食事摂取基準」活用検討会 食事バランスガイドの検証に関する作業部会. 厚生労働省健康局 (2009年8月). 2009.
- 10) 田畑泉: 科学研究費委員会専門委員. 独立行政法人日本学術振興会研究事業部長 (平成21年12月22日). 2009.
- 11) 田畑泉: 連携会員. 日本学術会議. 2009.
- 12) 田畑泉: 「日本人の食事摂取基準」活用検討会. 厚生労働省健康局長. 2009.
- 13) 高田和子: 管理栄養士国家試験委員. 平成21年8月23日. 2009.
- 14) 門脇孝: 食品の安心・安全確保推進研究事前評価委員会委員. 厚生労働省. 2009.
- 15) 門脇孝: 科学研究費委員会専門委員. 日本学術振興会. 2009.
- 16) 門脇孝: ターゲットタンパク研究プログラムプログラム連絡委員. 文部科学省. 2009.
- 17) 門脇孝: 平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会 若手科学者賞審査部会委員. 文部科学省. 2009.
- 18) 饗場直美: 消費者委員会新開発食品評価調査会. 内閣府消費者委員会. 2009.
- 19) 饗場直美: 食育推進会議専門委員. 内閣府. 2009.
- 20) 石見佳子: 食品安全委員会新開発食品専門調査会専門委員. 内閣府食品安全委員会 平成19年10月1日. 2009.
- 21) 石見佳子: 食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員. 内閣府食品安全委員会 平成19年10月1日. 2009.
- 22) 石見佳子: 科学技術・学術審議会専門委員 (資源調査分科会). 文部科学省 平成18年10月11日. 2009.
- 23) 卓興鋼: 消費者庁食品表示課 業務協力 (特定

- 保健用食品の表示許可に係る審査に関する助言等). 消食表第58号(平成21年10月26日). 2009.
- 24) 梅垣敬三: 薬事・食品衛生審議会専門委員. 2009. 1. 24-2011. 1. 23. 2009.
 - 25) 梅垣敬三: 内閣府食品安全委員会専門委員. 2009. 10. 1-2011. 9. 30. 2009.
 - 26) 笠岡(坪山)宜代: 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会 活用ワーキンググループ構成員. 2009.
 - 27) 徳留信寛: 消費者委員会臨時委員. 内閣府消費者委員会事務局. 2009.
 - 28) 徳留信寛: 薬事・食品衛生審議会臨時委員. 厚生労働省薬食品局. 2009.
 - 29) 徳留信寛: 平成21年国民・栄養調査企画解析検討会. 2009. 厚生労働省健康局. 2009. 5. 28-2010. 3. 31
 - 30) 徳留信寛: 食品衛生分科会員. 2009. 6. 23-2010. 1. 23
 - 31) 徳留信寛: 新開発食品調査部会会員. 2009.
 - 32) 徳留信寛: 検討員. 環境省総合環境制作局環境保健部. 2009.
 - 33) 徳留信寛: 平成21年度ジフェニルアルシン酸に係る健康影響等についての臨床検討委員. 環境省環境保健部環境安全課
- 員. (社)日本能率協会. 2009. 6. 18-2010-1. 31
- 6) 宮地元彦: 「健康増進総合支援システム情報提供事業」情報評価委員. (財)健康・体力づくり事業財団. 2009.
 - 7) 宮地元彦: 「高齢者のQOLを支える運動開始・継続を促す健康づくり・環境実態調査事業」委員. (財)健康・体力づくり事業財団. 2009. 8. 5-2010. 3. 31
 - 8) 田中茂穂: (独)日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員. 2009
 - 9) 田中茂穂: 「子どもの発達段階に応じた体力向上プログラムの開発」事業における調査研究協力者会議委員. (財)日本体育協会. 2009. 7. 9-2010. 3. 31
 - 10) 田中茂穂: 国立大学法人筑波大学戦略イニシアティブ推進機構イニシアティブ分野別評価委員. 国立大学法人筑波大学. 2009. 6. 4-2010. 3. 31
 - 11) 田中茂穂: 「良いシーズをつなぐ知の連携システム」外来専門家. (独)科学技術振興機構. 2009.
 - 12) 田中茂穂: 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会. (財)日本体育協会. 2009. 6. 4-2010. 3. 31
 - 13) 高田和子: 平成21年度スポーツ医・科学研究事業研究協力者. (独)日本スポーツ振興センター. 2009.
 - 14) 饗場直美: 栄養成分等情報提供検討委員会委員. (財)食生活情報サービスセンター
 - 15) 饗場直美: 国立極地研究所プロジェクト研究・開発研究・萌芽研究. 情報・システム研究機構国立研究機構. 2009.
 - 16) 江崎治: (独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所における人間を対象とする生物医学的研究倫理委員会 倫理委員会委員. (独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所(平成18年4月1日～平成22年3月31日). 2009.
 - 17) 江崎治: (独)農業・食品産業技術総合研究機構「新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業」平成21年度終了議題に係る事後評価専門委員. (独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所 生物系特定産業技術研究支援センター. 2009.
 - 18) 山崎聖美: 客員研究員. (独)国立環境研究所. 2009. 8. 25-2010. 3. 31
 - 19) 梅垣敬三: 新商品開発促進環境整備事業検討委員会. (社)日本酪農乳業協会. 2009.
 - 20) 梅垣敬三: 医薬品医療機器総合機構専門委員. (独)医療機器総合機構. 2009.
 - 21) 梅垣敬三: 野菜等健康機能調査小委員会委員. (財)食生活情報サービスセンター. 2009.
 - 22) 梅垣敬三: 商品テスト分析・評価委員会委員. (独)国民生活センター. 2009.
 - 23) 西信雄: 健康研究推進における基盤設備のための疫学研究(コホート研究)の実態に関する調査研究. アドバイザリーボード・メンバー. 日本総合研究所. 2009. 12. 1-2010. 3. 31
 - 24) 西信雄: 放射線疫学調査解析検討会委員会委員. 財団法人放射線影響協会. 2009.
- 【地方自治体等】
- 1) 田中茂穂: 東京都「子供の体力向上専門家会議」委員. 東京都(2009年7月). 2009.
 - 2) 田畑泉: 子供の体力向上推進本部 委員. 東京都教育委員会. 2009.
 - 3) 宮地元彦: 3033生涯スポーツ推進会議委員. 神奈川県教育委員会教育局. 2009.
 - 4) 高田和子: スポーツ科学委員会専門委員会委員. 群馬県体育協会. 2009.
 - 5) 門脇孝: 東京都糖尿病医療連携協議会 会長. 2009.
 - 6) 梅垣敬三: 東京都食品安全情報評価委員会委員. 2008. 7. 10-2010. 4. 30. 2009.
 - 7) 梅垣敬三: 東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会委員. 2008. 7. 10-2010. 4. 30. 2009.
- 【その他】
- 1) 由田克士: 保健指導・食育活動根拠整備事業「企画運営部会」委員. (社)日本栄養士会. 2009
 - 2) 由田克士: 企業、団体等野菜等摂取普及啓発検討小委員会. (財)食生活情報サービスセンター. 2009.
 - 3) 由田克士: 健康増進総合支援システム情報提供事業 情報評価委員. (財)健康・体力づくり事業財団
 - 4) 宮地元彦: 介護予防に関する科学的知見の収集及び分析分科会「運動部門」レビュー委員. (財)日本公衆衛生協会. 2009.
 - 5) 宮地元彦: 生活習慣病対策室2009実行委員会委

- 25) 水野正一：疫学調査タスク委員. 原子力安全研究協会. 2009. 6. 29-2010. 3. 25
- 26) 徳留信寛：(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所アドバイザー・ボード委員. (独)農業・食品産業技術総合研究機構. 2009.
- 27) 徳留信寛：(財)健康・体力づくり事業財団. 理事. 2009. 6. 1-2010. 5. 31

6. 関連学術団体等への貢献

【理事等の役員】

- 1) 由田克士：日本循環器病予防学会（日本循環器管理研究協議会）理事. 2009.
- 2) 高田和子：日本スポーツ栄養研究会 理事. 2009.
- 3) 田畑泉：東京体育学会 理事. 2009.
- 4) 門脇孝：日本糖尿病学会（理事長）. 2009.
- 5) 門脇孝：日本内分泌学会（理事）. 2009.
- 6) 門脇孝：日本糖尿病協会（理事）. 2009.
- 7) 門脇孝：日本病態栄養学会（常任理事）. 2009.
- 8) 門脇孝：日本糖尿病・肥満動物学会（理事長）. 2009.
- 9) 門脇孝：日本糖尿病合併症学会（幹事）. 2009.
- 10) 門脇孝：日本体質医学会（常任理事）. 2009.
- 11) 門脇孝：日本肥満学会（理事）. 2009.
- 12) 門脇孝：日本臨床分子医学会（評議員）. 2009.
- 13) 門脇孝：日本適応医学会（評議員）. 2009.
- 14) 門脇孝：日本再生医学会（評議員）. 2009.
- 15) 門脇孝：日本内科学会. 2009.
- 16) 門脇孝：日本生化学会. 2009.
- 17) 門脇孝：日本分子生物学会. 2009.
- 18) 門脇孝：American Diabetes Association. 2009.
- 19) 矢野友啓：コネキシン研究会世話人. 2009.
- 20) 梅垣敬三：日本栄養・食糧学会. 2010.
- 21) 笠岡(坪山)宜代：日本栄養士会 研究運営部会 部会長. 2009.
- 22) 西信雄：日本疫学会 監事. 2010.

【学会誌等の雑誌編集委員】

- 1) T. Utsugi M: Public Health Nutrition雑誌編集委員. 2007-. 2009.
- 2) 熊江隆：体力・栄養・免疫学雑誌 編集委員. 2009年8月22日 第19回体力・栄養・免疫学会大会 理事会・編集委員会. 2009.
- 3) 高田和子：日本栄養改善学会誌編集委員. 2009.
- 4) 田畑泉：日本体育学会編集 体育の科学 編集委員. 2009年4月1日. 2009.
- 5) Tabata I: Open Physiology, Associate Editor. 1-1-2009. 2009.
- 6) 門脇孝：J. Clin. Invest, Editorial Board. 2009.
- 7) 門脇孝：Metabolic Syndrome and Related Disorders, Editorial Board. 2009.
- 8) 門脇孝：The Journal of Endocrine Genetics, Editorial Board. 2009.
- 9) 門脇孝：Diabetes, Obesity and Metabolism, Editorial Board. 2009.
- 10) 門脇孝：Current Diabetes Reviews, Editorial Board. 2009.

- 11) 門脇孝：Arteriosclerosis Thrombosis and Vascular Biology, Editorial Board. 2009.
- 12) 門脇孝：Endocrinology, Editorial Board. 2009.
- 13) 門脇孝：Diabetes Care, Editorial Board. 2009.
- 14) 門脇孝：The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial Board. 2009.
- 15) 門脇孝：Best Practice & Research Clinical Endocrinology & Metabolism, Editorial Board. 2009.
- 16) 門脇孝：Journal of Diabetes, Editorial Board. 2009.
- 17) Ezaki O: International Journal of Obesity, Editorial Board. 2006.10.1-. 2009.
- 18) 江崎治：日本肥満学会誌「肥満研究」編集委員 江崎治. H18.1.1-. 2009.
- 19) 永田純一：栄養学雑誌編集委員. 2009.
- 20) Ishimi Y: Journal of Bone and Mineral Metabolism, Editorial Board. 2009.
- 21) Nishi N: Journal of Epidemiology, Editorial Board. 2009.

【その他】

- 1) 田中茂穂：平成21年度(財)日本体育協会 スポーツ医・科学専門委員会「日本の子どもにおける身体活動・運動目標設定と効果の検証」研究班員. 2009.
- 2) 田中茂穂：平成21年度(財)日本体育協会 スポーツ医・科学専門委員会「子どもの発達段階に応じた体力向上プログラム」事業・調査研究協力者会議委員. 2009.
- 3) 矢野友啓：日本ビタミン学会編集委員会トピックス等担当委員. 2009.
- 4) 由田克士：日本栄養士会 平成21年度保健指導・食育活動拠点整備事業 企画運営部会 委員. 2009.
- 5) 由田克士：(財)健康・体力づくり事業財団 平成21年度健康増進総合支援システム情報提供事業 情報評価委員. 2009.
- 6) 由田克士：野菜等健康食生活協議会 平成21年度副菜摂取改善対策事業 企業・団体等野菜等摂取普及啓発検討小委員会 委員. 2009.
- 7) 笠岡(坪山)宜代：日本栄養士会 研究教育協議会 幹事. 2009.
- 8) 森田明美：科学研究課題及び学術研究助成対象者の選考審査における専門委員. (財)すかいらくフードサイエンス研究所. 2009.
- 9) 西信雄：放射線影響協会解析検討委員会 委員. 2009.

7. 併任、非常勤講師等

【厚生労働省等との併任】

- 1) 永田純一：厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室併任. 2009.
- 2) 卓興綱：厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室併任. 2009.

【大学の客員教授・非常勤講師等】

- 1) 由田克士：金沢医科大学非常勤講師 . 2009.
- 2) 由田克士：仁愛女子短期大学. 非常勤講師. 2009.
- 3) 野末みほ：女子栄養大学. 兼任教員. 2009.
- 4) 坪田恵：日本ウェルネス歯科衛生専門学校. 非常勤講師. 2009.
- 5) 河嶋伸久：日本ウェルネス歯科専門学校. 非常勤講師. 2009.
- 6) 山内 淳：日本女子大学 非常勤講師. 2009
- 7) 田畑泉：立命館大学. 教授. 2009
- 8) 宮地元彦：国立大学法人鹿屋体育大学. 常勤講師. 2009
- 9) 宮地元彦：早稲田大学先端・健康医療研究機構. 客員教授. 2009.
- 10) 宮地元彦：鹿屋体育大学. 客員教授. 2009.
- 11) 宮地元彦：静岡県立大学. 非常勤講師. 2009.
- 12) 田中茂穂：公共大学法人首都大学東京. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 9. 30
- 13) 熊江隆：東京農業大学、東京農業短期大学客員教授. 2009.
- 14) 熊江隆：関東学院大学. 非常勤講師. 2009.
- 15) 饗場直美：高崎健康福祉大学. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 7. 31
- 16) 中出麻紀子：日本ウェルネス歯科衛生専門学校. 非常勤講師. 2009. 10-2010. 3
- 17) 石見佳子：早稲田大学スポーツ科学学術院. 客員教授. 2009.
- 18) 永田純一：高知大学. 非常勤講師. 2009. 8. 21
- 19) 矢野友啓：千葉大学薬学部非常勤講師. 2009.
- 20) 梅垣敬三：十文字学園女子大学. 非常勤講師. 2009.
- 21) 梅垣敬三：慶応義塾大学薬学部. 非常勤講師. 2009. 5. 29-7. 3
- 22) 西信雄：国立大学法人愛媛大学. 非常勤講師. 2009. 10. 1-2010. 2. 28
- 23) 西信雄：公立大学法人県立広島大学. 非常勤講師. 2009. 10. 1-2010. 3. 31
- 24) 西信雄：日本赤十字広島看護大学. 非常勤講師. 2009. 10. 1-2010. 3. 31
- 25) 笠岡（坪山）宜代：城西大学. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 7. 31
- 26) 笠岡（坪山）宜代：人間総合科学大学大学院. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 7. 31
- 27) 三好美紀：聖母大学. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 9. 30
- 28) 三好美紀：県立広島大学. 非常勤講師. 2009. 4. 1-2009. 9. 30
- 29) 徳留信寛：公立大学法人名古屋市立大学医学. 非常勤講師. 2009. 5. 1-2010. 3. 31

【その他】

- 1) 由田克士：全道行政栄養担当者研究会講師. 2009. 8. 5
- 2) 野末みほ：国際共同疫学研究合同会議. 非常勤講師. 2009.
- 3) 田畑泉：健やか生活習慣国民運動実行委員会. 非常勤講師. 2009.

- 4) 熊江隆：(財)日本産業廃棄物処理振興センター. 非常勤講師. 2009.
- 5) 田畑泉：早稲田大学GCOEプログラム「アクティブライフを創造するスポーツ科学」 拠点リーダー. 2010.
- 6) 門脇孝：情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 客員研究部門客員教員. 2009.
- 7) 江崎治：(独)国立環境研究所 客員研究員. 2009.
- 8) 江崎治：国立国際医療センター. 治療登録医. 2009.
- 9) 梅垣敬三：助成金審査員. 株式会社山田養蜂場助成基金. 2009

8. 国際貢献

【海外への派遣による科学・技術協力】

- 1) 笠岡（坪山）宜代：米国 FDA, NIH など関係諸機関との共同研究・情報交換. FDA, NIH. 2009.

【海外からの研究者の受け入れ・指導】

- 1) 田畑泉：身体活動量が体力と健康に与える影響についての研究. 若手外国人研究者招へい事業. 2009 .
- 2) 饗場直美：効果的な栄養教育法に関する研究—子どもの食習慣確立に影響する因子と効果的な栄養教育法について. 若手外国人研究者招へい事業. 2009 .
- 3) 卓興鋼：中国の第二軍医大学大学院栄養と食品衛生（臨床栄養）専攻の博士課程3年生1人（中国の国費留学生）を研修生として受入れ、中国側の指導教授と研究の共同指導を担当. 2009 .
- 4) 西信雄，笠岡（坪山）宜代，森田明美，田畑泉，田中茂穂，石見佳子，三好美紀：JICA国別研修（イエメン共和国）「日本の中央・地方レベルにおける栄養行政制度とマネジメント」受入. (財)日本国際協力センター. 2010 .
- 5) 西信雄，笠岡（坪山）宜代，田畑泉，宮地元彦，田中茂穂，三好美紀：中国山東省疾病予防センター「日本の循環器疾患対策、栄養・運動指導についての見学」受入. 2010 .
- 6) 三好美紀：ベトナム国立栄養研究所より所長・副所長来所受入. 2010. 2. 4-2. 7

【国際会議への対応】

- 1) Nagata J, Nakamura A, Shirouchi B, Ishimi Y: Effects of Simultaneous Intake of Soybean Protein and Diacylglycerol on Lipid Profiles and Body Fat Accumulation in Rats and Mice.. 38th USA/Japan Cooperative Program in Natural Resources (UJNR). 2009, つくば.
- 2) 笠岡（坪山）宜代：NIH, Office of Dietary Supplements (ODS) Practicum. 2009.
- 3) 笠岡（坪山）宜代，三好美紀，西信雄：国際栄養シンポジウム「米国のビタミンD問題からアジアの糖尿病まで」開催. 2009.

9. 知的財産権等

- 1) 田畑泉：「糖尿病及び高血糖の予防治療飲料食品」特許出願審査請求. 2009
- 2) 斎藤衛郎, 久保和弘：「二重層リポソーム及びその製造方法」意見書提出(特願2002-210911). 2009
- 3) 梅垣敬三, 笠岡(坪山)宜代：商標登録：「FOSDU Net」登録第5297460号. 2010.
- 4) 梅垣敬三, 笠岡(坪山)宜代：商標登録：「HF Net」登録第5297461号. 2010.

IV 資 料

1. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標

独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 29 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を次のとおり定める。

平成 18 年 3 月 1 日

厚生労働大臣 川崎二郎

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関であることから、国民の健康・栄養状態及び QOL(生活の質)の向上に直接あるいは間接的に寄与することのできる調査及び研究を効率的に行い、国民の健康と福祉のために貢献することが重要である。

そのため、特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たすことを求める。

また、厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担うことを期待する。

第 1 中期目標の期間

独立行政法人通則法(以下「通則法」という。)第 29 条第 2 項第 1 号の中期目標の期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 3 号の国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項は、次のとおりとする。

1. 研究に関する事項

(1) 重点調査研究に関する事項

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要な不可欠な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行うこと。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項

ア 科学技術基本計画(仮称)に沿って、研究機関として独自性の高い基礎的・応用的研究を行うこと。

イ 研究の成果をより広く社会に還元するために、食育推進基本計画(仮称)に資する調査研究を推進し、専門家(管理栄養士等)への情報提供を行うこと。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項

ア 健康・栄養に関する施策、ガイドライン等の科学的根拠につながる質の高い研究を行い、研究成果を論文等を通じて社会に発信・還元を行うこと。

イ 調査・研究の成果を社会に還元するために、知的財産権の取得・開示を行うこと。

ウ 健康・栄養関連の専門家を対象としたセミナー、一般向けの講演会等を開催すること。

エ 研究所の一般公開を実施するとともに、中学校・高等学校等からの見学にも積極的に応じること。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項

ア 独立行政法人という組織形態の利点を最大限活かした研究資金等の運用及び人的資源の配置により、研究・業務の効率化を図ること。

イ 国内外の産業界を含む健康・栄養・食品関係の機関との共同研究の拡充等を目的として、研究所研究員の派遣及び他機関等の研究員の受入れをより積極的に行うこと。

ウ 大学及び民間企業等との連携・協力により、研究者の交流を進め、人材の養成と資質の向上を図ること。

エ 調査及び研究の円滑な実施が図られるよう、適切な措置を講ずるとともに、他機関との共同研究及び受託研究において、双方の研究施設及び研究設備の稼働状況に応じた共同利用を図ること。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項

ア 国民健康・栄養調査の実施に関する事務のうち、集計事務については、「健康日本 21」、都道府県健康増進計画等の政策ニーズに適切対応して、迅速かつ効率的に集計を行うこと。

また、外部委託のより積極的な活用、高度集計・解析システムの活用等により効率化を図る。

イ 厚生労働省が収去した特別用途表示及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確に実施する。また、特定保健用食品の関与成分等、新たな食品成分の分析技術及びそれらの分析に用いる食品成分の標準品等を規格化すること。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項

ア 関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握すること。

イ ホームページ等を通じて国民からのニーズを把握すること。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項

ア 国際栄養協力体制を充実強化し、特にアジア地域における国際貢献と学術的ネットワークの構築を行うことにより、国際社会における役割を果たすこと。

イ 産学連携推進機能の強化、寄附研究部門の充実等により、産学連携をより一層進め、研究成果の社会への還元と知的財産の獲得を目指すこと。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項

栄養情報担当者(以下「NR」という。)が社会的役割を果たすことができるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図るとともに、実際の業務内容のモニタリング等を行い、制度や研究所の関与のあり方について検討すること。

3. 情報発信の推進に関する事項

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うための体制を強化し、対外的な業務の推進を図ること。
- (2) 研究所の活動状況に関する情報をホームページを介して広く公開すること。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、研究所報告やニュースレターの刊行及び電子メディアでの配信により公開すること。
- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行うこと。

第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 2 号の業務運営の効率化に関する事項は次のとおりとする。

1. 運営体制の改善に関する事項

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡を密にし、執行体制を強化すること。
- (2) 研究企画及び評価に関わる機能及び体制の強化を図り、研究業務の包括的、計画的な実施を進めること。
- (3) 業務の確実な実施のため、各研究・業務に関する内部進行管理及び評価を行うこと。
- (4) 法人運営に関して透明性を確保するとともに、国民に向けての説明責任を全うするため、広報体制を強化し、迅速な情報公開に努めること。
- (5) 外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経

費節減や現況資源の有効利用を進めること。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項

- (1) 業務効率化の観点から、研究部組織体制の見直しを行い、その最適化を図ること。
- (2) 他機関との連携・交流を強化し、組織の活性化を目指すこと。

3. 職員の人事の適正化に関する事項

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づく業務に対して適切に職員を配置し、効率的に研究業務を行うこと。
- (2) 研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等、給与面に反映させること。
- (3) 研究職員の流動化計画に沿って原則公募制・任期制により採用を行い、研究者層の向上を図ること。
- (4) 事務職員についても適切に評価を行い、資質の向上と業務の効率化を図ること。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項

- (1) 業務の効率化を図るため、事務書類の簡素化、電子化、事務作業の迅速化を進めるとともに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を行うこと。
- (2) 事務職員については、研修会やマネジメントセミナー等を通じ、研究所経営への参加意識を高めるとともに、業務意識の高揚を図ること。
- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図ること。

5. 評価の充実に関する事項

- (1) 毎年度内部評価委員会において、主要な研究業務に関して内部評価を実施すること。
- (2) 第三者による外部評価委員会により、年度計画の事前及び事後評価を行うこと。
- (3) 評価に関する結果は、ホームページで公開すること。
- (4) 研究職員について自己点検・評価を行うとともに、できるだけ客観的な指標に基づく評価を毎年実施すること。

6. 業務運営全体での効率化

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費は除く。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 10%以上の削減を達成すること。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定)を踏まえ、平成 18 年度以降の 5 年間に於いて、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うこと。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを進めること。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 5%以上の削減を達成すること。

第 4 財務内容の改善に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 4 号の財務内容の改善に関する事項は、次のとおりとする。

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的獲得を図ること。
- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用及び研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の増加を図ること。

2. 経費の抑制に関する事項

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費も含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図ること。
- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の節減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費の削減を図ること。

第5 その他の業務運営に関する重要事項

通則法第29条第2項第5号のその他の業務運営に関する重要事項は、次のとおりとする。

(1) セキュリティの確保

情報セキュリティの強化と利用者への情報提供等の利便性の向上を図ること。

2. 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画

独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 29 条第 1 項の規定に基づき、平成 18 年 3 月 1 日付けをもって厚生労働大臣から指示のあった独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標を達成するため、同法第 30 条の規定に基づき、次のとおり、独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画を作成する。

平成 18 年 4 月 1 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所(以下「研究所」という。)は、人々の健康・栄養状態及び QOL(生活の質)の向上への貢献という目的を踏まえ、短期的・中期的・長期的な視点から重点的に行う研究課題を選択するとともに、研究所の社会的役割を踏まえつつ、独自性の高い研究や将来に向けて発展が期待される萌芽的・創造的な研究の推進に努める。

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要不可欠な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行う。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテラーメード予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた実験を行う。特に糖尿病及びメタボリックシンドロームの一次予防に資する調査及び研究に特化・重点化する。

a 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等について、実験的、疫学的な調査及び研究を行う。これにより食事摂取基準、運動基準等を作成するための科学的根拠の提示を行う。

b 遺伝子改変動物を用いて、運動や食事指導によってメタボリックシンドローム及び生活習慣病がいかに予防されるのかを、遺伝子解析等による分子レベルでの機序解明を試み、運動と食事指導による生活習慣病のテラーメード予防法の開発に資する科学的根拠を提示する。

c ヒトを対象として、基礎代謝量と遺伝素因の相互作用や遺伝子多型と各栄養素摂取量、身体活動量等との関係を明らかにし、生活習慣病発症の遺伝、環境リスクの相互関係を解明する。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する

栄養疫学的研究

日本人の食生活の多様性を科学的に評価するための指標及び調査手法を開発し、それが健康に及ぼす影響について疫学的な調査及び研究を行う。特に日本人の食事摂取基準等の科学的根拠となるデータの蓄積と「健康日本 21」の評価への応用という点を重点目標とする。

a 栄養に関する実践において最も基本的かつ重要な指針である「食事摂取基準」について、平成 20 年度に予定される改定作業に向け、系統的レビューを平成 19 年度まで重点的に行う。また、今後の改定に向けて、ヒトを対象とした疫学的研究及び基本的情報の収集等を継続的に行う。

b 「健康日本 21」推進のためには、効果的な運動・食事指導プログラムの開発と普及や、国及び地方自治体での適切な指導効果の評価の実施等が重要であることから、これらの手法の開発、国民健康・栄養調査の機能強化及びデータ活用に資する検討を行う。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

「健康食品」に含まれる食品成分の有効性及び健康影響に関して、実社会における使用実態等を把握するとともに、ヒトに対する影響を評価する手法を開発する。その結果を幅広く公開し、「健康食品」に関わるリスクコミュニケーションに資するデータベースの更新及び充実に継続して行う。

a 保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。

また、栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、そのヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。

b 「健康食品」に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 研究所の研究能力を向上させ、将来、その応用・発展的な展開を可能とするために、関連研究領域における基礎的・独創的・萌芽的研究を行う。

イ コホートを設定し、介入研究による栄養教育の成果を研究する。食育及び栄養ケアマネジメントに関して、行政、他機関と協力してエビデンス作りを図る。また、管理栄養士等保健従事者の教育及び情報の提供方法を研究する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

調査及び研究の成果の普及を図るため、学術誌への学術論文の投稿、シンポジウム、学会等での口頭発表を行う。

これらについては、中期目標期間内に、学術論文の掲載を 250 報以上、口頭発表を 750 回以上行う。

なお、口頭発表は、海外においても積極的に行う。

イ 知的財産権の活用

調査及び研究の成果については、それらが知的財産につながるかどうかのスクリーニングを行い、中期目標期間内に 20 件以上の特許出願を行う。

取得した特許権の実施を図るため、特許権情報のデータベースをホームページ上に公開する。

また、非公務員化の利点を活用し、研究所が所有する知的財産の活用、又は所有する情報等を用いた共同研究を民間企業及び大学等と積極的に行うこととし、毎年 2 件以上の増加を目標とする。

ウ 講演会等の開催

健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等をそれぞれ年 1 回以上開催し、調査及び研究の成果を社会に還元する。

また、関係団体が実施する教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。

一般及び専門家からの電話、メール等による相談を受けるとともに、それらの相談に適切に対応する。

エ 開かれた研究所への対応

幅広い人々に研究所の業務について理解を深めてもらうことを目的に、年 1 回オープンハウスとして研究所を公開する。

また、健康と栄養に興味を抱かせ、将来、栄養学研究を担う人材の育成に資するよう、「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学を積極的に受け入れる。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 研究・業務の効率的な実施という観点から、研究員、研究補助員の配置を戦略的に行う。

研究所として重点的に実施すべき調査及び研究並びに法律に基づく業務については、研究業務費を適切に配分し、確実な業務の執行に努める。

イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で従前から実施している共同研究に加え、新たな共同研究等を積極的に推進するため、民間企業、大学等へ研究所研究員を派遣するとともに、資質の高い研究員を受け入れる。

ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間 20 名程度受け入れ、研究所が所有する情報・技術等を提供するとともに、研究員を広く大

学院や関係機関等に年間 5 名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

また、国内外の若手研究員等の育成に貢献するため、博士課程修了者、大学院生、他機関に属する研究員等を継続的に受け入れるための体制の充実を図る。また、連携大学を増やし、兼任教授の派遣を行うとともに、若手研究員の指導・育成を行うため、求めに応じ、研究所研究員を他機関へ派遣する。

エ 施設・設備について、自らが有効に活用するとともに、「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に基づき、大学、他研究機関による共同研究等での外部研究者等の利用に供する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 国民健康・栄養調査の集計事務については、政策ニーズに対応した迅速かつ効率的な集計を行う。具体的には、当該年度の集計事務を調査票のすべてを受理してから 7 ヶ月を目途(ただし、調査項目に大幅な変更が生じない場合に限り。)に行う。

また、外部委託、高度集計・解析システムの活用等により、効率的な集計を行うことにより、経費の削減を図る。

さらに、都道府県等が行う健康・栄養調査に対する支援を含めて関連する技術的な事項について、研究所がより積極的に対応する。

特に、平成 22 年度に行われる都道府県等健康増進計画の最終評価に向けて、調査結果の活用、評価手法等について、平成 20 年度までに重点的に技術支援を行う。

イ 厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。

特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを 2 ヶ月以内に行うことを目指す。

また、分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分への技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等から直接的に研究所に対する要望等を伺う機会を年 6 回程度設け、社会的ニーズを把握する。さらに、業務関連行政部局との間で、定期的な情報及び意見等を交換する場を設け、行政ニーズを把握する。

また、国、地方自治体、国際機関等より、専門的な立場からの技術的な協力、指導等の求めには積極的に応じて研究員を派遣し、研究所における調査及び研究の成果が適切に施策等に反映できるよう努める。

イ 研究所に対する意見、要望等をホームページやセミナー等の参加者を通じて把握し、その内容を検討し、可能な限り業務に反映させる。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア諸国との間で、栄養調査、栄養改善及び健康づくり等に関する共同研究において中心的な役割を果たすとともに、WHO 西太平洋地域における協力センターの設置(平成 19 年度を目途)に向けての準備を行う。

また、研究者養成及び共同研究の促進を図るため、「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により、年間 2 名程度の若手研究者に研究所での研修機会を提供するとともに、アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行い、アジア地域における栄養学研究基盤の強化に寄与する。

イ 民間企業、大学等の複合的な連携を強化するとともに、寄附研究部門の充実を図る。

これにより、研究所の研究成果と社会ニーズの橋渡し、新たな展開・応用を図るとともに、知的財産の獲得を積極的に行う。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項を達成するための措置

栄養情報担当者(以下「NR」という。)が、保健機能食品等の利用に関して、消費者に適切に情報を提供し、消費者が気軽に相談できる者となれるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図る。

また、中期目標期間開始より 3 年以内に、NR の実際の業務内容、社会でのあり方についてモニタリングを行う。この結果に基づき、制度のあり方や研究所の係わりについて検討を行い、中期目標期間終了までに結論を得る。

NR 事務業務について、効率的かつ的確な業務が実施できるよう見直しを行う。また、外部委託が可能な業務については、アウトソーシングを行う。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うとともに、対外的な業務の推進を図るための組織整備を行う。
- (2) ホームページに研究所の活動状況を積極的に配信し、ホームページの掲載内容をより充実させる。ホームページアクセス件数は、中期目標期間中、毎年 50 万件程度を維持させる。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、毎年度 1 回研究報告としてとりまとめるとともに、最新の研究成果やトピックス等を紹介したニュースレターを年 4 回刊行する。

また、これらについては、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。

- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡調整を密にし、執行体制を強化する。
また、研究所運営に対する研究所職員の意識を高めるため、研究所運営に関する必要な情報の共有化を図る。
- (2) 研究部門間での連携を強め、異なる研究分野からの情報や研究手法を積極的に利用して戦略的な事業の立案・実施を図る。
- (3) 調査及び研究業務の効率的かつ確実な推進を図るため、所内報告会等により各業務の進捗状況を把握し、適切な評価を行い、その結果を計画的・効率的な業務の遂行に反映させる。
また、所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理等の効率化を図る。
- (4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)に則り、積極的な情報公開を行う。
- (5) 研究所の経営基盤の安定化のため、外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所が中期計画の中で重点的に行う調査及び研究並びに法律に基づく業務に関して、業務量や集散的に遂行すべき時期等を勘案しながら研究及び業務チームを組織する。
非公務員型の利点を生かして柔軟に組織の見直し・改編を行うこととし、従来の部体制から中期目標に掲げる業務を行うためのプログラム等を設け、各々が独立した形での業務運営を行う。
また、組織の見直し・改編後、毎年、その効果を検証する。
- (2) 民間企業、大学等との連携・交流を積極的に行い、研究員の交流を進め、人材の養成と資質の向上に努めることにより、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づき実施すべき業務については、業務運営の効率性を勘案しながらも、必要な人員を十分に担保した上で組織体制を構築する。
- (2) 非公務員型への移行のメリットを最大限に活かした柔軟な人事システムを構築し、研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等の処遇及び給与面に反映させる。
- (3) 研究員の採用に当たっては、「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則として公募制、任期付の採用を行う。

研究所が重点的に推進する調査及び研究業務が着実に成果が挙げられるよう、資質の高い人材を広く求める。また、資質の高い人材については、任期中の実績評価に基づき、任期を付さない形で採用を行う。

さらに、外国人及び女性研究者が業務に従事しやすい環境づくりを推進し、外国人及び女性職員の採用も可能な限り行う。

- (4) 事務職員の質の向上を図るため、研究員と同様に評価を行うこととし、その評価システムとして自己評価による評価を行い、その結果を昇給・昇任等に反映する。

※人事に関する指標

期末の常勤職員数は、期初の100%を上限とする。

- (参考1) 期初の常勤職員数 47名
期末の常勤職員数 47名(以内)
(参考2) 中期目標期間中の人件費総額
2,335百万円(見込)

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究組織体制の見直しに併せて、業務の効率化を図るため、事務部門の組織を見直す。この際、事務部門に研究員の研究成果の積極的な活用や、対外的な業務を担う業務課(仮称)を設け、研究員が最大限の成果を得られるようにする。

また、権限の明確化及び決裁プロセスの短縮化により、意志決定の迅速化を図るとともに、事務作業の迅速化、事務書類の簡素化、電子化等を進める。さらに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を進める。

- (2) 事務職員については、研究所で働く者として必要な法令・知識を習得するための各種研修会やセミナー等への参加を充実させ、職員が働きやすく自己能力を最大限発揮できるような職場環境の整備を推進する。

これにより、研究所経営への参加意識を高め、業務の質の向上及び効率化の一層の推進を図る。

- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

- (1) 毎年度内部評価委員会を開催し、主要な研究業務に関して、内部評価を実施し、研究業務の確実な実施及び効率化に資する。
- (2) 柔軟かつ競争的で開かれた調査及び研究環境の実現や経営資源の重点的・効率的配分に資するため、外部の専門家等の評価者による外部評価を毎年度2回程度実施する。
- (3) 内部及び外部評価結果は、ホームページ上で公表するとともに、組織や施設・設備の改廃等を含めた予算・人材等の資源配分に反映させる等、調査及び研究活動の活性化・効率化に積極的に活用する。

- (4) 研究員については、自己点検・評価を行うとともに、可能な限り客観的な指標に基づき評価を行う。また、理事長は自ら全研究員との面談を行い、適切かつ公平な評価を行う。

さらに、評価の結果は各職員にフィードバックするとともに、所内イントラネットを活用して、各研究の研究業績を公開し、評価の透明性の確保に努める。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。)については、中期目標期間中、毎年度、2%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として10%以上の削減を達成する。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、中期目標期間の最終年度までに平成17年度を基準として5%以上の削減を達成する。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを行う。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間中、毎年度、1%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として5%以上の削減を達成する。

第3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的な獲得を図り、外部研究資金、その他の競争的資金の募集等に積極的に参加し、その増加に努める。

- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用並びに研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の確保につなげる。

また、「独立行政法人国立健康・栄養研究所施設・設備等利用規程」に基づき、地域住民等への施設開放を行い、研究所の設備等の効率的な利用に努め、併せて自己収入の増加に寄与する。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費を含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図る。

- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の削減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費についても、法令集の追録購入中止等により削減を図る。

第4 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙1のとおり。

2. 収支計画

別紙 2 のとおり。

3. 資金計画

別紙 3 のとおり。

第 5 短期借入金の限度額

1. 限度額

100,000,000 円

2. 想定される理由

- ア 運営費交付金等の受入れの遅延等による資金の不足
- イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給
- ウ その他不測の事態により生じた資金の不足

第 6 重要な資産を譲渡、又は担保に供するときは、その計画

該当なし。

第 7 剰余金の使途

- ア 研究環境の整備に係る経費
- イ 職員の資質向上に係る経費
- ウ 知的財産管理、技術移転に係る経費 等

第 8 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

(1) セキュリティの確保

情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

(2) 施設及び設備に関する計画

該当なし。

(3) 積立金処分に関する事項

該当なし。

(別紙 1)

中期計画（平成 18 年度～平成 22 年度）の予算

(単位：百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業収入	189
寄附金収入	160
雑収入	21
計	5,359
支出	
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
計	5,359

〔人件費の見積り〕 期間中総額 2,335 百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過

勤務手当、教職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

〔運営費交付金の算定ルール〕：別紙 1-1

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 1-1)

運営費交付金の算定ルール

1. 平成 18 年度

平成 18 年度は、平成 17 年度運営費交付金の額に各経費にかかる効率化係数に基づき算出し、非公務員化に伴う新たな経費を加え、合理化額を減額し算出した。

2. 平成 19 年度以降

次の算定式による。

$\text{運営費交付金} = \text{人件費} + \text{一般管理費} + \text{業務経費} + \text{特殊要因} - \text{自己収入}$

○ 人件費＝当該年度基本給等 (A) ＋退職手当 (S)

A：基本給、諸手当、共済組合負担金等の人件費（退職手当を除く）をいい、次の式により算出する。

$$A = \{[(P1 \times \alpha \times \beta) + (P2 \times \beta) + P3] \times \gamma 1\} + (P4 \times \gamma 2)$$

A：当該年度基本給等

P1：前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けるもの
(労働保険料を除く)

P2：前年度の基本給中給与改定の影響を受けるもの

P3：前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けないもの

P4：労働保険料

α ：運営状況等を勘案した昇給原資率

β ：運営状況等を勘案した給与改定率

$\gamma 1$ ：効率化係数（人件費（労働保険料を除く））

$\gamma 2$ ：効率化係数（労働保険料）

○ 一般管理費＝（一般管理費 (B) $\times \gamma 3 \times \delta$ ）

B：前年度一般管理費

$\gamma 3$ ：効率化係数（一般管理費）

δ ：消費者物価指数

○ 業務経費＝（業務経費 (C) $\times \gamma 4 \times \delta$ ）

C：前年度業務経費

$\gamma 4$ ：効率化係数（業務経費）

δ ：消費者物価指数

○ 特殊要因＝法令等の改正等に伴い必要となる措置又は現時点で予測不可能な事由により発生する資金需要であって、毎年度の予算編成過程において決定する。

○ 自己収入＝知的財産権収入、印税収入等の直接事業を実施しない収入について、過去の実績を勘案し決定する。

〔注記〕

1. α 、 β 、 δ については、各年度の予算編成過程において、当該年度における計数値を決める。

2. 中期計画全般にわたる予算の見積に際しては、

①人件費のうち、退職手当については、定年退職者見込みによる。

② α 、 β 、 δ については、伸び率を 0 と仮定した。

③ $\gamma 1$ （人件費の効率化係数）については、節減額 5%分を▲1.02%と仮定した。但し、労働保険料については、節減額 5%分を平成 19 年度から 4 年で節減することから▲1.35%と仮定した。

④ $\gamma 2$ （一般管理費の効率化係数）については、節減額 10%分を▲2.1%と仮定した。

⑤ $\gamma 3$ （業務経費の効率化係数）については、節減額 5%を▲1.02%と仮定した。

⑥自己収入額については、平成 18 年度については平成 16 年度実績と同額とし、平成 19 年度以降は平成 17 年度の実績見込を基準とし、毎年一定額を増額させ算出した。

(別紙 2)

平成 18～22 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	5,444
経常費用	5,444
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
減価償却費	85
収益の部	5,444
運営費交付金収益	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
資産見返物品受贈額戻入	2
資産見返運営費交付金戻入	83
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給基準及び国家公務員退職手当法（昭和 28 年法律第 182 号）に準じて支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 3)

平成 18 ～ 22 年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	5,359
業務活動による支出	5,359
投資活動による支出	0
資金収入	5,359
業務活動による収入	5,359
運営費交付金による収入	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

3. 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画

平成 21 年度の業務運営について、独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 31 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画を次のとおり定める。

平成 21 年 3 月 31 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

a 運動基準、食事摂取基準等の改定のための科学的根拠の提示

①エクササイズガイドに示された運動・身体活動量の妥当性を検討するための大規模前向きコホート研究において、1,000 名を目標に被験者割付・介入を行う。

②介護予防と動脈硬化予防を両立させる筋力トレーニングの方法及び効果について検討する。

③平成 23 年度に予定されている「健康づくりのための運動基準」及び「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」改定のための科学的エビデンスの収集等を行う。

④小児を対象に、二重標識水法を用いて身体活動レベルを測定し、その標準値、及び個人間変動の要因を明らかにする。

⑤異なる職業や運動習慣を持つ成人における身体活動レベル推定のための調査票を作成するとともに、その妥当性を評価する。

⑥人間ドック受診者を対象に肥満や糖尿病リスク因子抽出のための大規模コホート研究を実施する。食事・身体活動・心理的要因及び健診・保健指導の受診状況を調査し、これらの生活習慣病発症への寄与について評価する。

b 生活習慣病予防のための科学的根拠の提示

①高脂肪食が、糖尿病・メタボリックシンドロームを発症する分子メカニズムを解明するために、新たな遺伝子操作動物あるいは既に樹立した遺伝子操作動物由来膵β細胞株を用いて当該遺伝子の発現調節メカニズムや膵β細胞の増殖メカニズムを検討する。また、脂質過剰摂取生活習慣病モデル動物に血管内皮機能改善薬を投与し、インスリン抵抗性の改善について検討する。

②運動の肥満・糖尿病予防機序、栄養素による脂肪肝・肥満発症機序とその予防法、エネルギー及びタンパク質摂取制限によって生じる生体適応及び適応破綻の機序を明らかにする。

c 生活習慣病と環境因子との関係解明

①罹患同胞対法を用いた全ゲノム解析で 2 型糖尿病感

受性領域としてマップされ、遺伝子の同定に至っていない染色体領域を解析し、新たな 2 型糖尿病感受性遺伝子を同定する。

②平成 20 年度に樹立した遺伝子欠損マウスの解析をさらにを行い、当該遺伝子のインスリン分泌機構における分子メカニズムについて明らかにする。

③これまでに明らかにした 2 型糖尿病感受性遺伝子のうち、その機能が未知のものについて、遺伝子操作マウスの作製及び解析を行い、2 型糖尿病感受性遺伝子の機能について明らかにする。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

a 栄養疫学的調査研究の実施

①「日本人の食事摂取基準(2010 年版)」の策定及び普及・啓発に積極的に参画する。「2005 年版」策定時からの関係基礎資料を分類整理し、データベースを構築する。今後の策定や普及・啓発事業において、当該データベースが十分活用されるよう、厚生労働省及び策定検討会に必要十分な資料や技術の提供を行う。

②食事摂取基準の策定に資する基礎資料を得るための、ヒトを対象とした栄養疫学研究を実施する。

③食事に関連する栄養成分の生体指標(バイオマーカー)を確立し、健康影響について、以下の研究を行う。
・閉経後女性を対象に、ビタミン K2 の長期摂取が骨代謝及び脂質代謝に及ぼす影響を評価する。

・大豆イソフラボン代謝産物の栄養生理学的意義に関する研究を継続する。

・生活習慣病予防におけるビタミン A 結合タンパク質(RBP4)の役割を明らかにする。

④地域在住高齢者及び介護施設入所者の栄養摂取状況やビタミン・ミネラル栄養状態を調査する。

b 国民健康・栄養調査の実施強化とデータ利活用のあり方に関する検討

・国や地方自治体の要請や必要性に応じて、国民健康・栄養調査ならびに地方自治体が独自に実施する健康・栄養調査の実施強化やデータ利活用に関する技術支援のあり方について検討する。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

a 保健機能食品等の素材成分に関する情報収集及び健康影響についての調査研究

①食品の抗酸化力の測定法の妥当性確認を他研究機関とともに引き続き行い、バリデーションを進める。

さらに、食事調査などの結果から抗酸化物質摂取量

を把握可能にする目的で、一般食品の抗酸化力及び含有抗酸化成分の包括的測定に基づくデータベース化を行う。

②微生物定量法が主となっているビタミン類の測定に関して、食品形態に対応した機器分析法の導入を検討する。

③ビタミン E 誘導体を中心に、健康の維持・増進への有効性等について、モデル動物を用いて詳細に検証するとともに、ヒトへの応用の可能性を探る。

④栄養素及び非栄養素成分、とくに構造脂質、大豆タンパク質、脂溶性ビタミン、ポリフェノール等について、新たな保健機能の開発を視野に入れながら、その有効性及び安全性の評価を行う。

ｂ 「健康食品」に関する公正な情報の提供

①食品成分等に関する科学的根拠のある公正な情報の提供、国が行っている保健機能食品制度の普及と適切な生活習慣の推進、「健康食品」が関連した健康被害の発生・拡大防止を目的に、最新の関連情報を継続的に収集・蓄積し、データベースの充実・更新を図り、「健康食品の安全性・有効性情報」のホームページに反映させる。

②消費者とのリスクコミュニケーションを図るため、NRなど現場の専門職の協力、他の組織や関係機関との連携が可能なシステム構築をさらに進める。

③新たに「特別用途食品・栄養療法に関するデータベース」の構築及び運用を開始する。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 研究能力の向上のための創造的研究の実施

・若手研究者による独創的で、次期中期計画において発展的に展開し得る研究課題のシーズとなるような研究を、所内公募による競争的な環境の下で行う。

その際、外部の専門家を含めた事前・事後の評価を行い、研究の質を確保する。

イ 効果的な栄養教育手法の開発

①生涯を通じた健康づくりを目指して、環境整備を含めた栄養教育実践のための研究を、食育、メタボリックシンドローム予防、高齢者支援の観点から研究を行う。

②メタボリックシンドローム予防のための行動科学的なアプローチによる栄養教育法について研究する。人間ドック受診者を対象にした大規模コホートの構築を進め、食習慣・運動習慣と肥満や糖尿病発症との関連を検討する。

③効果的な食育展開のための個人及び集団を対象とするアプローチ法及びその評価法を開発するための調査・研究を行う。

④高齢者の食介護の観点から、咀嚼・嚥下困難を伴った高齢者に対する食事提供のあり方について研究する。

⑤日本栄養士会等関連する職能団体や学会等と効果的な栄養教育・食育のあり方について検討し、栄養教育実践に向けて支援する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

①研究成果については、できるだけ国際的な場での発表を目指し、査読付き学術論文50報以上、口頭発表150回以上を行う。

②とくに若手研究者による優れた研究成果の発表に対しては、競争的な事前審査により課題を選定し、海外渡航費の付与を行う。

イ 知的財産権の活用

①知的財産権取得に適した研究について、その成果の学会及び論文発表の前に掘り起こしを行い、年間5件程度の特許出願を行う。

当研究所の特許等に関わる情報を、ホームページ上に公開し、民間企業等へ積極的に技術の紹介を行う。

②民間企業等との共同研究を年間10件程度行う。

ウ 講演会等の開催

①「日本人の食事摂取基準(2010年版)」が公表されることから、その普及・啓発のための講演会・セミナー等を厚生労働省等と連携して実施する。

②一般向けの公開セミナー(第11回)を東京で開催する。研究で得られた成果を社会に還元するため、専門家向けのセミナーを他機関との連携による開催を含め2回程度行う。

③管理栄養士・栄養士等の研修や生涯教育のプログラムに対し、職員を積極的に派遣するとともに、それらのプログラムの企画等への支援を行う。

④外部からの電話やメールに対する問い合わせに対して適切な対応に努めるとともに、問い合わせの多い事項についてはホームページ上のFAQに反映させ、また効率的な対応ができる体制の整備をさらに進める。

エ 開かれた研究所への対応

・オープンハウス(研究所公開)を実施し、運動実験施設等における体験コーナーや食事・体力診断等を含めて、当研究所の研究・業務内容をより多くの人々に身近に知ってもらえるよう努める。

また、中学・高校生等の「総合的な学習の時間」を活用した所内見学等に積極的に対応し、健康や栄養に関わる知識や関心の普及・啓発を図る。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 研究業務を効率的に実施するための効果的な人員・予算の調整・確保

①法律に基づく業務及び重点調査研究を確実に実施するために、予算の枠内で特別研究員及び研究補助員の重点配置を行い、効率的な研究実施体制を整える。

②プログラム／センターにおける調査研究業務に付随する事務的作業の効率化を図り、研究活動をより推進するために、事務部内の研究支援機能を充実させ、多様な研究業務に関わる内容等について、柔軟な運用、事務手続きの効率化や事務部門と研究部門との意識・情報の共有などにより、迅速かつ適切な対応を図る。

③運営費交付金については、四半期毎に各調査研究の進捗状況、支出など経費状況、及び新たに生じた重要課題等を勘案しつつ配分の調整を行い、メリハリのある予算配分及び執行を行う。

イ 産学連携の推進

①民間企業、大学、他の研究機関等との間で、研究者の相互交流、研究技術の交換、施設・設備の共同利用

を推進する。

②当研究所の研究員を大学、研究機関等へ積極的に派遣し、研究ネットワークの拡大を図る。

ウ 将来の研究人材の育成

①連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員等を年間100名程度受け入れるとともに、当研究所の研究員を大学院や関係機関等に年間30名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

②連携大学院について、兼任教員の派遣を行うとともに、互いの強みを活かした研究協力を行う。

③流動研究員制度や連携大学院制度を活用し、博士課程修了者等の若手研究者や大学院生を積極的に受け入れることにより、将来の研究人材の育成に資するとともに、研究所の研究機能の強化を図る。

エ 施設・設備の有効活用

①測定室、RI室、動物飼育室、運動トレーニング室等の各プログラムで共同で使用する施設・設備については、効果的に研究ができるよう環境を確保する。

②「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に従い、当研究所の施設・設備を利用して、他研究機関の研究者・運動指導者と共同して運動による健康増進効果に関する共同研究を実施する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 健康・栄養調査の効率的実施

①国民健康・栄養調査の集計業務については、引き続き、正確かつ効率的な集計を通して、結果公表までの迅速化を図るとともに、調査対象者への結果の返却を速やかに行うよう努める。

②技術講習、情報提供、標準的な調査ツールの提供などを通じて、データ収集に携わる行政の担当者等に対する積極的な技術支援を行う。

③健康・栄養調査の効率化を目指した専用ソフト「食事しらべ®」の確定版を作成し、希望する自治体へ配布する。

イ 収去食品等の分析

①厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の分析業務を適正かつ効率的に実施する。

②厚生労働省の特別用途表示の許可等に関わる申請に基づく試験業務及びそのヒアリングに適切に対応する。

③特定保健用食品関与成分の分析法、標準品の妥当性等について検討する。また、試験検査機器の有効利用及び整備の充実を図る。

④検査精度向上のため、標準作業書の策定及び外部精度管理に参加する。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 社会的・行政ニーズの把握

①社会的ニーズを把握するため、健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年6回程度実施する。とくに、当研究所は国民生活に密着した分野を対象としており、国民に研究成果を還元することが重要であることから、第一線で活躍している管理

栄養士等から、具体的なニーズ等の把握に努める。

②消費者庁設置の動向を注視しつつ、行政ニーズを適時把握するために、厚生労働省生活習慣病対策室、食品安全部、内閣府食育推進担当等と情報・意見交換を行う。

③国、地方自治体、国際機関等からの技術的な協力依頼に応えるとともに、行政ニーズを把握するため、各種審議会、検討会の専門委員等として職員を派遣する。

イ ホームページを活用した国民ニーズの把握

・外部から国民、栄養専門職等からの意見、要望等を広く効率的に把握するため、コミュニケーションチャンネル「健康・栄養フォーラム」等のインターネットサイトの一層の充実を図る。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア地域における学術的ネットワークの構築

①アジア諸国との間で、栄養学研究の発展につながる共同研究及び人材育成を積極的に行う。研究交流を推進する観点から、国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業を活用し、年間2名（韓国1名、中国1名を予定）の若手研究者を受け入れる。また、フォローアップ共同研究助成事業により、これまで受け入れた研修生との共同研究や継続的支援を推進する。

②WHO、CODEX等との協力関係を強化し、関連する会議に研究員を派遣する。

③アジア諸国、とくにベトナムにおける栄養士養成のあり方について調査・検討に着手する。

④WHO研究協力センターとして指定を受けて、アジア西太平洋諸国への協力活動の充実を図る。

⑤当研究所の研究成果、わが国の栄養、運動施策上の重要なガイドライン等について、英語版ホームページ上での情報発信に努め、海外からのニーズに的確かつタイムリーに応える。

イ 産学連携による研究成果等の社会還元

・健康・栄養や食品開発等に関連する研究機関、民間企業等との共同研究や受託研究、特許等の実用化等により、当研究所の研究成果やノウハウを具体的な商品開発やサービスを通じて、社会に還元できるよう努める。

(4) 栄養情報担当者（NR）制度に関する事項を達成するための措置

①NRは、平成20年度までに3,480名を輩出している。NRのスキルアップを図るとともに、社会的なニーズに対応した内容やトピックスを含む、最新の情報提供等を行うため、全国6カ所において研修会を実施する。

②NR認定試験等は、外部有識者の協力の下、適正かつ公正に実施する。また、管理栄養士養成施設等からのNR養成講座指定の要望に対して、適切な対応・認定を行う。

③引き続き健康食品管理士認定協会との協力を深め、認定・更新に必要な単位の取得機会を増やすとともに、NRの認知度の向上、職域の拡大を含め、NR支援の強化を図る。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措

置

(1) 総合的な情報発信及び対外的な業務の推進

・情報センターにおいて、所内各プログラムにおける研究成果及び研究所内外の関連情報を集約・精査し、国民が適切な運動・食生活を実践するために必要な情報提供を引き続き積極的に行う。

(2) ホームページによる活動状況の配信

・当研究所の活動内容・成果等をホームページやメールニュースを介して引き続き積極的に配信する。またホームページの掲載内容を整理しつつ、最新情報の追加・更新に努める。

(3) 研究・業務実績の情報提供

・当研究所の活動及び研究業績を年 1 回研究報告として刊行する。また、研究所のプロジェクト紹介や研究成果を『健康・栄養ニュース』を介して年 4 回（季刊）刊行し、ホームページ上で公開するとともに、電子媒体による配信を行う。

(4) ホームページ等を活用した積極的な情報開示

・ホームページ等を活用して、当研究所の研究成果や関連情報、研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示を積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な組織運営のための執行体制の強化

①意志決定の迅速化を図るため、権限と責任を明確にした組織運営を行う。

②人員や研究資源の配置を適正に行うことを含めて、当研究所の重要な経営判断に関する審議は、役員及び研究企画評価主幹、各プログラムリーダー、事務部長等から構成される運営会議で行う。

③研究成果が最大限挙げられるよう、各プログラムで行われている業務の特性を理解し、効率的、効果的な研究支援体制を構築する。

④経営管理に関する理念と運営について研究員の理解を促すとともに、各種委員会や所内 LAN を一層活用し、管理部門と研究部門との情報の共有化を促進する。また、研究及び技術的事項について、プログラム相互の連携を強化するため、定期的にプログラムリーダー会議を開催する。

⑤プログラムリーダー／センター長は、研究所の方向性、学術動向、社会的ニーズを理解した上で、プログラム／センターで実施されている業務について、何を目標にいかに関心を進めるべきか、プロジェクトリーダー及びスタッフに共通認識を持たせるよう努める。

⑥管理部門及び各プログラムの実務者レベルの打ち合わせを毎月実施し、コミュニケーションを図る。また、各種会議の運営について、開催時間の設定、アジェンダの明確化等について改善を図るとともに、議事録を迅速に作成し、関係者へのフィードバック及び情報共有に努める。

⑦所内の現場から抽出された課題について横断的かつ具体的に改善・解決を協議する業務改善委員会（仮称）を設置するとともに、課題が生じた場合に迅速か

つ適切に対応するための仕組みとして相談窓口を設置し、円滑な業務の推進を図る。

(2) 研究の企画及び評価機能の強化

①各研究者がプログラム／センターの枠を超えて、研究内容や成果について相互に理解し、連携を図るとともに、国内外の最新の研究成果等を知る機会が得られるよう、所内及び外部の研究者を講師として「研究所セミナー」を毎月 1 回程度定期的に開催する。

②プログラムリーダー／センター長会議を定期的に開催するなどにより、研究部門間相互の意志疎通を図るとともに連携体制を強化し、戦略的な研究の企画立案及び効率的・効果的实施に努める。

(3) 円滑な組織運営のための業務の進捗管理及び評価

①各プロジェクトにおける研究及び業務については、それらを総括するプログラムリーダーが進捗状況を把握し、プログラムリーダー会議や運営会議において、報告を行う。

②研究所セミナー等において、各プロジェクトにおける研究の進捗、成果を報告するとともに、評価を行う。さらにプログラムリーダーからの報告会（年 2 回）及びプロジェクトリーダーからの報告会（年 1 回）を所内公開で行う。

③所内 LAN を活用し、業務の進捗状況管理を行うとともに、各プログラム／センター間、事務部門との情報の共有を促進する。

(4) 情報公開による透明性の確保

・独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）に則り、文書を適正に管理するとともに、適正な情報公開を行う。

(5) 積極的な外部資金の獲得及び資源の有効活用

①当研究所の経営基盤の安定化を図るため、競争的研究資金や受託研究など外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。

②経費の節減や当研究所の所有する設備等の有効活用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な調査研究業務を実施するための組織の最適化

①第二期中期計画を遂行するために抜本的に組織再編を行った 6 プログラム及び 2 センターについて、引き続き各部門における常勤職員の人件費を含めたコスト管理及び研究業務について経営的な視点を併せ持ちながら運営を行うとともに、より効率的な事業実施のために、組織のあり方の検討及び必要に応じて見直しを行う。

②とくに、平成 22 年度中に予定されている医薬基盤研究所との統合を見据え、国際産学連携センター、情報センターについて、効率化の観点から、組織の在り方について具体的な検討を行う。

③新たに構築する「特別用途食品・栄養療法データベース」などを効率的に運用するための体制整備を行う。

(2) 他機関との連携・交流による組織の活性化

・国内外の民間企業、大学、他研究機関との研究協力を推進し、研究者の受け入れ及び研究所研究員の派遣

を行うことにより、人材養成及び資質の向上、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究・業務等を推進するための適正な人員配置

①重点的に行う調査研究及び法律に基づき確実に実施すべき業務については、重点プロジェクトとして位置づけ、研究員、研究補助員等を適切に配置するとともに、外部の客員研究員、協力研究員等を活用することにより、効果的・効率的な研究・業務の推進を図る。

②一部の職員への過重な負担とならないよう、研究・業務等の適正配分に努めるとともに、必要に応じて見直しを行い、健康の維持・増進につながる職場環境づくりを目指す。

(2) 研究員の業務の適正な評価

①大学、民間企業等との多様な形態の連携が可能となるよう、起業を含め、民間企業、団体等との兼業についても、当研究所の目的、理念に合致したものについては積極的にを行い、成果の社会還元を促進する。

②各研究員の個人業績及び各プロジェクトの実績を適正に評価し、昇給・昇任等に反映させる。

(3) 有能な研究員の登用

①「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、研究員の採用にあたっては、引き続き原則公募制、任期付の採用を行う。

②任期付研究員については、任期中の実績評価を適正に行い、任期を付さない職員としての採用を検討する。任期付研究員の採用にあたっては、流動化計画に則る一方、当研究所の長期的な展望との均衡を図りつつ、研究や業務の性質、行政及び社会的ニーズに応じて、柔軟な運用を行う。

③女性研究員の採用を積極的にに行うとともに、研究業務に従事しやすい環境づくりとして、引き続きフレックスタイム制の活用をはじめ、産休や育児休業等の各種制度の活用を進める。

(4) 事務職員の適正な評価

・事務職員についても、あらかじめ自己の達成目標を設定させるとともに、達成目標を含む業務全般に対しての自己評価を行う人事評価制度に基づき、個人面接を行い、直属上司及び総括上司の二段階評価を実施する。評価の結果は、昇給・昇任等に反映させる。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

(1) 事務業務の効率化

・独立行政法人の整理合理化計画（平成19年12月24日閣議決定）に示された方向性を踏まえて、管理部門（主に事務部）の組織及び業務の効率化並びに合理化について検討する。その検討結果に基づき、各種事務手続きの簡素化、迅速化、電子化を図るとともに必要に応じて業務を見直し、可能かつ適切な業務については外部委託を進める。

(2) 事務職員の資質向上

・事務職員の資質向上を図るため、業務上必要とされる知識（知的財産、安全管理、会計・契約等）の技術

取得ができるよう、自己啓発や能力開発のための研修に積極的に参加させる。また、職員が働きやすく自己能力が最大限発揮できるよう、職場環境の整備を充実する。

(3) 業務システムの効率化

・業務の効率化を図るため、情報総括責任者（CIO）を中心に、業務・システムの最適化・効率化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

(1) 内部評価の実施

・各プログラム／センターの報告会を年2回、全プロジェクトの報告会を年1回行い、それらを踏まえて中間及び年度の内部評価を実施する。中間評価結果に基づき、年度途中において研究業務を必要に応じて見直し、効果的な実施につなげる。

(2) 外部評価の実施

・外部有識者による評価委員会については、平成21年度における当研究所の主要な研究業務の進捗状況、成果の社会への還元、将来の発展性という観点から、また研究所の組織運営に関しては、とくにより良い研究環境の構築という視点から、評価（事後評価）を受ける。

また、平成22年度計画についても外部評価委員による事前評価を受ける。

(3) 評価結果の公表

①内部及び外部評価の結果はホームページ上で公開するとともに、非常勤職員を含めた職員全員に対して結果を伝え、当研究所が求められている方向性や課題等について共通理解を促し、研究及び業務内容の改善などにつなげる。

②理事長等役員及び管理職は、これらの評価結果を予算・人材等の研究資源の配分等に反映させ、調査・研究活動を効率・活性化を図る。

(4) 研究業績等の自己点検及び評価

①各研究員においては、社会及び当研究所で求められている自らの役割を十分認識した上で、当該年度における自らの調査研究及び業務の成果について、点検を行う。その際、成果を客観的に整理・分析するために、所内LANによる「業績等登録システム」を活用する。

②各研究員の評価は、主にプログラム内での貢献及び十分な成果の達成という視点から各プログラムリーダー／センター長、研究企画評価主幹及び理事長が行う。なお、任期付研究員については、任期中の実績評価を行い、その結果をその後の採用等に反映させる。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

・一般管理費（運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。）については、光熱水料等の削減に努め、平成17年度に比べ8%以上（対20年度比2%）の削減を図る。

・人件費（退職手当及び法定福利費等を除く。）については、適正な人員配置に努め、平成17年度に比べ4%以上の削減を図ることを基本とする。

・業務経費（運営費交付金を充当して行う事業に係るもの）については、業務の効率化、コストの削減に努

め、平成 17 年度に比べ 4 % 以上の削減を図る。

第 3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

(1) 外部研究資金の獲得

①厚生労働省、文部科学省等の各府省や科学技術振興機構等の機関が実施する公募型研究への課題の応募を積極的に行う。その際、当研究所の目的等を勘案し、競争力の高い研究課題であるか、また、他の研究機関等との共同研究の中核となる課題であるかを重視する。

②健康・栄養に関する調査・研究及び国、民間企業等からの受託研究や共同研究、その他の業務については、当研究所の目的やその後の発展性及び交付金事業として行う研究を勘案しながら、それらに合致するものについては積極的に受け入れ、自己収入の増加を図る。

(2) 知的財産の活用等による自己収入の確保

・自己収入の確保という点だけでなく、ヒトを対象とした研究への参加、地域住民の健康づくりという視点を踏まえ、施設開放について検討を行う。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

(1) 効率的な資金の運用・管理

・各プログラム／センターにおいて、常勤職員の人件費を含めた業務費のコスト管理を四半期毎に行う。その結果については、運営会議、役員会等で分析を行い、効率的な運用を図るとともに、研究職員のコスト意識の高揚を図る。

(2) 研究業務の集約化

・各プログラムにまたがる研究の実施や施設整備、スペース等の共有利用により人的資源にかかるコスト削減を推進する。データ入力、検体の定期検査などの人的コスト削減につながる定型的な業務については、引き続きアウトソーシング化を推進するとともに、調達案件に係る契約については、一般競争入札を原則としコスト削減を図る。

第 4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙 2 のとおり

2. 収支計画

別紙 3 のとおり

3. 資金計画

別紙 4 のとおり

第 5 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

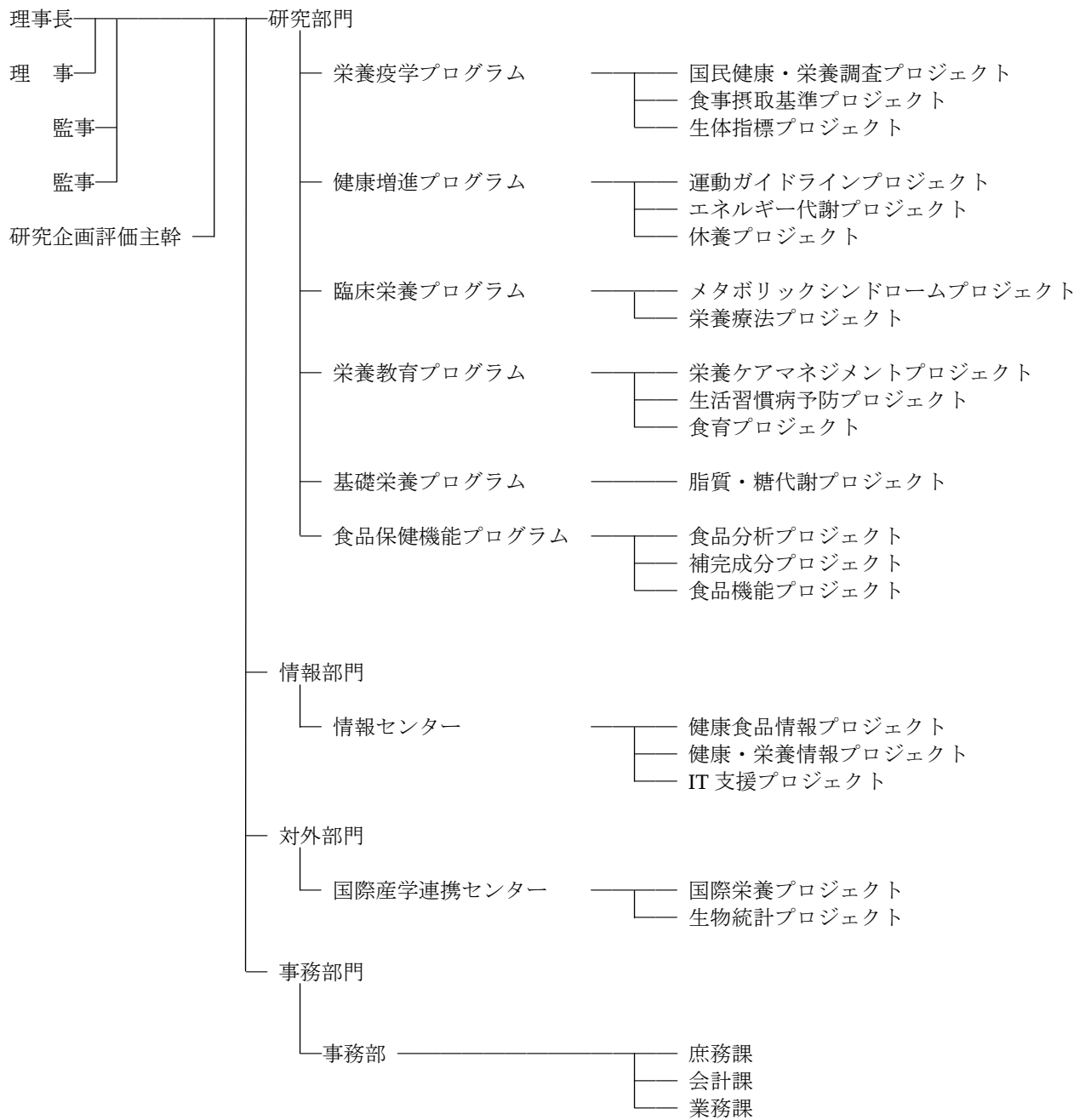
(1) セキュリティの確保

・情報セキュリティの確保に努め、「セキュリティ対策実施手順書」の見直しなど、現状に即したより適切な対応に努める。

第 6 平成 21 年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

別紙 5 のとおり

(別紙 1)



(別紙 2)

年度計画（平成 21 年度）の予算

(単位：百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	789
手数料収入	6
受託収入	45
栄養情報担当者事業収入	36
雑収入	5
計	881
支出	
人件費	551
うち 基本給等	515
退職手当	36
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	87
業務経費	156
国民健康・栄養調査に関連する サーベイランスプログラム	12
食品収去試験等業務	6
栄養疫学プログラム	17
健康増進プログラム	17
臨床栄養プログラム	8
基礎栄養プログラム	12
食品保健機能プログラム	10
創造的研究	19
国際栄養協力事業	9
健康食品安全情報ネットワーク事業	25
健康栄養情報事業	21
受託経費	87
特別用途食品表示許可試験費	6
受託経費	45
栄養情報担当者事業経費	36
計	881

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 3)

平成 21 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	881
人件費	551
うち 基本給等	515
退職手当	36
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	87
業務経費	156
国民健康・栄養調査に関連する サーベイランスプログラム	12
食品収去試験等業務	6
栄養疫学プログラム	17
健康増進プログラム	17
臨床栄養プログラム	8
基礎栄養プログラム	12
食品保健機能プログラム	10
創造的研究	19
国際栄養協力事業	9
健康食品安全情報ネットワーク事業	25
健康栄養情報事業	21
受託経費	87
特別用途食品表示許可試験費	6
受託経費	45
栄養情報担当者事業経費	36
減価償却費	0
収益の部	881
運営費交付金収益	789
手数料収入	6
受託収入	45
栄養情報担当者事業経費	36
雑収入	5
資産見返物品受贈額戻入	0
資産見返運営費交付金戻入	0
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給規程及び職員退職手当規程に基づき支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙 4)

平成 2 1 年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	881
業務活動による支出	881
投資活動による支出	0
資金収入	881
業務活動による収入	881
運営費交付金による収入	789
手数料収入	6
受託収入	45
栄養情報担当者事業経費	36
雑収入	5
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(別紙5)

平成21年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

平成21年 4月	
5月	
6月 7日(日) 13日(土)～14日(日) —	○ 第6回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定実施試験 ○ 第4回食育推進全国会議(島根県) ○ 「平成20年度業務実績報告」を厚生労働省独立行政法人評価委員会に、「平成20年度財務諸表等」を厚生労働大臣にそれぞれ提出。 ○ 「健康・栄養ニュース」(第28号)の発行
7月 —	○ 第6回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定試験合格者発表
8月	
9月 —	○ 「健康・栄養ニュース」(第29号)の発行 ○ 研究所一般公開(オープンハウス)
10月	
11月 —	○ 第7回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験
12月 — —	○ 「健康・栄養ニュース」(第30号)の発行 ○ 第7回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験合格発表
平成22年 1月	
2月 — —	○ 第11回研究所主催一般公開セミナー・研究所公開業務報告会(東京) ○ 独立行政法人国立健康・栄養研究所指定栄養情報担当者養成講座の指定 ○ 第7回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験実施要綱の公表
3月 — — —	○ 外部評価委員会 ○ 平成22年度計画を厚生労働大臣へ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第31号)の発行

- ◎ 運営会議は8月を除く毎月第2木曜日に開催する。
◎ 健栄研セミナーは原則、毎月第3木曜日に開催する。
◎ 専門家向け公開セミナーを東京及び地方にて開催する。
※ 実施日については、諸般の都合により変動があり得る。

4. 平成 21 年度予算額

支出

(単位：千円)

事 項	平成 20 年度 予 算 額	平成 21 年度 予 算 額	増△減額
人件費	549,666	550,901	1,235
基本給・諸手当	466,089	461,335	▲ 4,754
共済組合負担金	47,957	47,468	▲ 489
児童手当拠出金	511	506	▲ 5
労働保険料	5,752	5,674	▲ 78
退職手当	29,357	35,918	6,561
一般管理費	83,711	82,531	▲ 1,180
業務経費	157,161	155,558	▲ 1,603
栄養疫学プログラム	26,909	27,409	500
国民健康・栄養調査プロジェクト	11,409	11,409	0
食事摂取基準プロジェクト	9,000	9,500	500
生体指標プロジェクト	6,500	6,500	0
健康増進プログラム	25,706	25,202	▲ 504
運動ガイドラインプロジェクト	12,268	11,900	▲ 368
エネルギー代謝プロジェクト	12,292	12,192	▲ 100
休養プロジェクト	1,146	1,110	▲ 36
臨床栄養プログラム	8,632	8,632	0
メタボリックシンドロームプロジェクト	8,132	8,132	0
栄養療法プロジェクト	500	500	0
栄養教育プログラム	8,910	8,910	0
栄養ケア・マネジメントプロジェクト	2,000	2,000	0
生活習慣病予防プロジェクト	4,100	4,100	0
食育プロジェクト	2,810	2,810	0
基礎栄養プログラム	9,351	9,351	0
脂質・糖代謝プロジェクト	9,351	9,351	0
食品保健機能プログラム	19,100	16,000	▲ 3,100
食品分析プロジェクト	14,000	12,000	▲ 2,000
補完成分プロジェクト	3,000	2,000	▲ 1,000
食品機能プロジェクト	2,100	2,000	▲ 100
創造的研究費	14,500	12,500	▲ 2,000
情報センター	33,583	34,584	1,001
健康食品情報プロジェクト	15,609	17,634	2,025
健康・栄養情報プロジェクト	3,300	3,300	0
IT 支援プロジェクト	14,674	13,650	▲ 1,024
国際産学連携センター	10,470	12,970	2,500
国際栄養プロジェクト	7,054	10,054	3,000
生物統計プロジェクト	916	916	0
NR・セミナー業務	2,500	2,000	▲ 500
受託経費	108,166	91,723	▲ 16,443
特別用途食品表示許可試験費	10,320	6,364	▲ 3,956
受託経費	51,352	45,228	▲ 6,124
栄養情報担当者事業経費	41,619	35,500	▲ 6,119
その他	4,875	4,631	▲ 244
支出計	898,704	880,713	▲ 17,991

収入

(単位：千円)

事 項	平成 20 年度 予 算 額	平成 21 年度 予 算 額	増△減額
運営費交付金	790,538	788,990	▲ 1,548
手数料収入	10,320	6,364	▲ 3,956
受託収入	51,352	45,228	▲ 6,124
栄養情報担当者事業収入	41,619	35,500	▲ 6,119
その他の収入	4,875	4,631	▲ 244
収入計	898,704	880,713	▲ 17,991

5. 平成 21 年度所内研究セミナー

期日	演 題	氏 名 (所 属)
2009/4/16	フラボノイド類の生体内における抗酸化性の評価 -茶カテキンをモデルとした検討-	梅垣 敬三 (情報センター)
	中学生の身体活動量	高田 和子 (健康増進プログラム)
	閉経後女性の骨減少における抽出大豆イソフラボンの効果-無作為化プラセボ比較試験のメタ分析-	卓 興鋼 (情報センター)
5/14	効果的な栄養教育法に関する研究-子どもの食習慣確立に影響する因子と効果的な栄養教育法について-	Yu-Jin Oh (栄養教育プログラム)
	食品の抗酸化機能に関する研究-抗酸化の観点からみた野菜 1 日 350g-	竹林 純 (食品保健機能プログラム)
	レジスタンストレーニングが脂質酸化能に及ぼす影響	田中 茂穂 (健康増進プログラム)
6/18	糖尿病と血中レチノール結合タンパク質 (RBP)	山内 淳 (栄養疫学プログラム)
	SCOP (Saku Control Obesity Program) に於ける遺伝子多型分析について	山田 晃一 (栄養教育プログラム)
	日本人の食事摂取基準 (2010 年版) (エネルギーを中心に) について	田畑 泉 (健康増進プログラム)
	身体活動量が体力と健康に与える影響についての研究	Wang Xintang (健康増進プログラム)
7/16	日本人在宅高齢者における高次生活機能低下に関わる要因	坪田 恵 (栄養疫学プログラム)
	飽和脂肪酸を多く含む食事による脂肪肝発症機序と予防法	山崎 聖美 (基礎栄養プログラム)
	トコトリエノール安定化による抗がん活性への影響	矢野 友啓 (食品保健機能プログラム)
	Do our genes determine our waist circumference, or our success in the athletics field, or do we have a say in the matter?	Robert Scott (Intergrative&Systems Biology, Faculty of Biomedical and Life Sciences, University Of Glasgow, UK)

9/24	高齢者施設での食介護の現状について	饗場 直美 (栄養教育プログラム)
	職域で実施したメタボリックシンドローム改善のための減量プログラムの効果について	由田 克士 (栄養疫学プログラム)
	健康づくりに向けた「食育」取組データベースの構築について	荒井 裕介 (栄養疫学プログラム)
	睡眠時エネルギー代謝の変動要因	徳山 薫平 (筑波大学大学院 人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻)
10/15	食事制限による脳卒中への影響-SHRSP を用いた検討-	千葉 剛 (基礎栄養プログラム)
	「2010 年版食事摂取基準 (脂質)」の策定経過	江崎 治 (基礎栄養プログラム)
	ウェブ上の栄養情報における評価と信頼性	廣田 廣一 (情報センター)
11/19	エクオール含有食品の骨代謝および脂質代謝に対する有効性及び安全性の評価	石見 佳子 (食品保健機能プログラム)
	諸外国の栄養士養成と栄養士の活躍の場に関する研究-500 時間問題を中心に-	笠岡 (坪山) 宜代 (国際産学連携センター)
	血管内皮細胞のインスリンシグナルによる骨格筋の糖取り込み調節機構	窪田 哲也 (臨床栄養プログラム)
12/17	固相抽出法を用いたビタミン B12 分析法の開発	松本 輝樹 (食品保健機能プログラム)
	フード法による安静時代謝量測定における測定精度の呼吸器モデルを用いた検討	熊江 隆 (健康増進プログラム)
	運動しても脂肪を燃やせないマウス	三浦 進司 (基礎栄養プログラム)
	骨格筋の収縮による糖輸送促進調節	藤井 宣晴 (首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 ヘルスプロモーションサイエンス学域)
2010/1/14	健康づくり・生活習慣病予防のための「食育研究データベース」の構築につい	三好 美紀 (国際産学連携センター)
	生活習慣病:CKD 進展予防と (低) たんぱく食効果	水野 正一 (国際産学連携センター)
	アクティブビデオゲームの活動強度:メタボリックチャンバー研究	宮地 元彦 (健康増進プログラム)

2/5	Nutrition in Viet Nam-Current situation, challenges and overcoming strategies.	Dr. Le Thi Hop (Director, National Institute of Nutrition) Dr. Le Bach Mai (Vice Director, National Institute of Nutrition)
	Host and Environmental Factors and the risks of Stomach Cancers in Vietnam.	Dr. Le Tran Ngoan (Associate Professor, Department of Occupational Health, Hanoi Medical University)
2/18	アシタバ摂取の有効性とアシタバ抽出物の機能性に関する研究	永田 純一 (食品保健機能プログラム)
	地域メッシュ統計からみた低収入世帯の割合とがん罹患率・死亡率の関連	西 信雄 (国際産学連携センター)
	食事調査に用いられる青果物の目安量に関する検討	野末 みほ (栄養疫学プログラム)
3/18	ラット終板器官周囲部におけるノルアドレナリンおよび一酸化窒素によるエネルギー消費抑制と体温低下作用	大坂 寿雅 (健康増進プログラム)
	栄養疫学研究から食事摂取基準の策定へ	森田 明美 (栄養疫学プログラム)
	国民健康・栄養調査集計業務に携わって	荒井 裕介 (栄養疫学プログラム)
	国民健康・栄養調査に関わる取り組みを振り返る	由田 克士 (栄養疫学プログラム)
	国立健康・栄養研究所で学んだこと	田畑 泉 (健康増進プログラム)
	中高齢者の運動器疾患—予防と悪化防止のための運動と栄養—	吉村 典子 (東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター 関節疾患総合研究講座)

6. 食品分析リスト（特別用途食品の分析）

平成 20 年度において、特別用途食品の許可表示取得のために提出されたものについて分析した結果は次のとおりである。分析方法等は健康増進法に記載されている。

[illegible]

分析担当者：山田和彦、永田純一、松本輝樹、竹林 純、小林 香、二井千日、佐賀加奈子、中村 礼、
矢野友啓、佐藤洋美、梅垣敬三、石見佳子、山内 淳

7. 海外出張

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
永田 純一	食品保健機能プログラム	米国（フロリダ州・カリフォルニア州）	H21. 5. 2-5. 10	100th AOCS Annual Meeting 及びアメリカ農務省研究所（West Pacific Area）訪問、共同研究打合せと見学
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国、テキサス州・ワシントン州	H21. 5. 25-5. 29	米国テキサス大学にて情報収集並びにアメリカスポーツ医学会への参加・情報収集
田畑 泉	健康増進プログラム	米国・ワシントン州	H21. 5. 26-6. 1	アメリカスポーツ医学会第56 回年次集会参加
曹 振波	健康増進プログラム	米国・ワシントン州	H21. 5. 26-6. 1	アメリカスポーツ医学会第56 回年次集会参加
朴 鍾薫	健康増進プログラム	米国・シアトル	H21. 5. 26-6. 1	the ACSM Annual Meeting での発表
笠岡 宣代	国際産学連携センター	米国・ワシントン DC	H21. 5. 30-6. 10	米国 NIH、ODS プラクティカム受講及び調査研究
三浦 進司	基礎栄養プログラム	米国・ルイジアナ州	H21. 6. 4-6. 11	第 69 回アメリカ糖尿病学会での発表
石見 佳子	食品保健機能プログラム	米国・ワシントン州	H21. 6. 14-6. 18	エクオール、大豆、更年期研究会への参加および発表
田畑 泉	健康増進プログラム	ベトナム・ハノイ	H21. 7. 13-7. 16	ベトナム国立栄養研究所 Dr. Nguyen Quang Dung、との共同研究
森田 明美	栄養疫学プログラム	フランス・パリ	H21. 7. 5-7. 10	19th IAGG Congress of Gerontology & Geriatrics への出席及び研究発表
河嶋 伸久	栄養疫学プログラム	フランス・パリ	H21. 7. 5-7. 10	19th IAGG Congress of Gerontology & Geriatrics への出席及び研究発表
徳留 信寛	理事長	インドネシア・マカッサル	H21. 8. 7-8. 15	東南アジアにおける胃ガン予防のための研究調査、 "ECOLOGICAL STUDY ON STOMACH AND COLORECTAL CANCER"
卓 興鋼	情報センター	米国・コロラド州、ミネソタ州	H21. 9. 10-9. 20	アメリカ骨代謝学会 31st 年會に参加（ポスター発表）、米国ミネソタ大学 MS Kurzer 教授を訪問（共同研究の打合せ）

三好 美紀	国際産学連携センター	オランダ・アムステルダム、ハーグ、ユトレヒト	H21. 9. 22-9. 28	研究班に係る打合せ及び資料収集
石見 佳子	食品保健機能プログラム	タイ・バンコク	H21. 9. 30-10. 10	第 8 回国際食品成分表会議における情報収集、19th International Congress of Nutrition 参加及び情報収集
卓 興鋼	情報センター	タイ・バンコク	H21. 10. 3-10. 10	19th International Congress of Nutrition ポスター発表及び参加
徳留 信寛	理事長	タイ・バンコク	H21. 10. 3-10. 9	19th International Congress of Nutrition 参加
野末 みほ	栄養疫学プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 4-10. 10	19th International Congress of Nutrition 参加
東泉 裕子	食品保健機能プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 4-10. 10	19th International Congress of Nutrition 発表及び参加
高田 和子	健康増進プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 4-10. 8	19th International Congress of Nutrition での研究発表
三好 美紀	国際産学連携センター	タイ・バンコク	H21. 10. 4-10. 9	19th International Congress of Nutrition 発表及び参加
田畑 泉	健康増進プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 5-10. 10	19th International Congress of Nutrition 発表及び参加
由田 克士	栄養疫学プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 5-10. 8	19th International Congress of Nutrition 発表及び情報収集
永田 純一	食品保健機能プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 6-10. 10	19th International Congress of Nutrition 参加
城内 文吾	食品保健機能プログラム	タイ・バンコク	H21. 10. 6-10. 10	19th International Congress of Nutrition 参加
笠岡 宜代	国際産学連携センター	タイ・バンコク	H21. 10. 6-10. 9	19th International Congress of Nutrition での研究発表

田畑 泉	健康増進プログラム	中国・北京	H21. 10. 15-10. 18	北京体育大学主催 “スポーツと健康を維持する国際シンポジウム” 参加
田中 茂穂	健康増進プログラム	米国・ワシントンDC	H21. 10. 23-10. 28	第 27 回北米肥満学会 (Obesity2009) への参加・発表
渡邊 昌	栄養教育プログラム	米国・ルイジアナ州	H21. 11. 7-11. 12	日米医学栄養代謝部会参加
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国・フロリダ州	H21. 11. 14-11. 19	American Herart Association Scientific Session 2009 にて発表・討議
三好 美紀	国際産学連携センター	フィリピン・マニラ	H21. 11. 22-11. 24	国際医療研究委託事業「途上国における糖尿病予防・治療の実態把握および患者数増加要因に関する研究」に係る調査データ分析作業
高田 和子	健康増進プログラム	韓国・天安	H21. 11. 26-11. 29	韓国運動栄養学会参加
朴 鍾薫	健康増進プログラム	韓国・天安	H21. 11. 26-11. 29	韓国運動栄養学会参加
山崎 聖美	基礎栄養プログラム	米国・フロリダ州	H21. 12. 7-12. 11	胎児プログラミング発達毒性に関する国際会議
三好 美紀	国際産学連携センター	ベトナム・ハノイ	H21. 12. 27-12. 30	国際医療研究委託事業「我が国の国際保健人材の栄養分野の研究能力強化とベトナムにおける栄養士教育制度に関する研究」に係る打合せ作業
卓 興鋼	情報センター	中国・香港	H22. 1. 27-1. 31	the 1st international congress on abdominal obesity にてポスター発表
西 信雄	国際産学連携センター	イギリス、フランス、スウェーデン	H22. 1. 31-2. 6	株式会社日本総合研究所のヒアリングに同行
西 信雄	国際産学連携センター	シンガポール	H22. 2. 9-2. 11	株式会社日本総合研究所のヒアリングに同行

8. 人事異動

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名 (転入、転出先)
H21. 4. 1	併任	大森豊緑	研究企画評価主幹 (食品保健機能プログラムリーダー併任)
H21. 4. 1	採用 (転入)	吉田光男	事務部長
H21. 4. 1	採用 (転入)	澤栗 茂	事務部庶務課人事・厚生係長
H21. 4. 1	採用 (転入)	高橋康大	事務部業務課NR担当係長 (産学担当係長併任)
H21. 4. 1	採用 (転入)	庄野誠二	事務部会計課契約管理係長
H21. 4. 1	併任	石見佳子	栄養疫学プログラム生体指標プロジェクトリーダー (食品保健機能プログラム食品機能プロジェクトリーダー併任)
H21. 4. 1	併任	門脇 孝	臨床栄養プログラムリーダー (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授)
H21. 4. 1	併任	手嶋登志子	栄養教育プログラム栄養ケア・マネジメントプロジェクトリーダー (浜松大学健康プロデュース学部健康栄養学科教授)
H21. 5. 1	併任解除	大森豊緑	研究企画評価主幹 (食品保健機能プログラムリーダー併任解除)
H21. 5. 1	昇任	石見佳子	食品保健機能プログラムリーダー
H21. 5. 1	併任	森田明美	栄養疫学プログラムリーダー (生体指標プロジェクトリーダーに併任)
H21. 7. 1	採用	井上真理子	臨床栄養プログラムメタボリックシンドロームプロジェクト研究員 (任期付)
H21. 7. 6	採用 (再任)	芝池伸彰	理事
H21. 7. 31	退職 (転出)	大森豊緑	研究企画評価主幹 (厚生労働省大臣官房付、名古屋市立大学へ)
H21. 8. 1	採用 (転入)	阿部重一	研究企画評価主幹
H21. 8. 10	配置換 (併任)	笠岡宜代	国際産学連携センター国際栄養プロジェクト (国際産学連携センター調整担当に併任)
H21. 9. 1	併任・併任解除	石見佳子	食品保健機能プログラムリーダー (食品分析プロジェクトリーダー併任、食品機能プロジェクトリーダー併任解除)
H21. 9. 1	配置換	永田純一	食品機能プロジェクトリーダー
H21. 9. 1	配置換	松本輝樹	食品保健機能プログラム食品分析プロジェクト (任期付)
H21. 9. 1	配置換	竹林 純	食品保健機能プログラム食品分析プロジェクト (任期付)
H21. 9. 1	配置換	城内文吾	食品保健機能プログラム食品機能プロジェクト (特別)
H21. 10. 1	併任解除	芝池伸彰	理事 (国際産学連携センター長及び国際栄養プロジェクトリーダーの併任解除)
	採用 併任	西 信雄	国際産学連携センター長 (国際産学連携センター国際栄養プロジェクトリーダー併任)

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名（転入、転出先）
H 21. 10. 1	採用 (転入)	岡元英晃	事務部会計課主事
H 21. 11. 1	併任解除	西 信雄	国際産学連携センター国際栄養プロジェクトリーダー併 任解除
H 21. 11. 1	配置換	笠岡宜代	国際産学連携センター国際栄養プロジェクトリーダー
H 22. 2. 1	併任	山内 淳	栄養疫学プログラム生体指標プロジェクト上級研究員（食 品保健機能プログラム上級研究員併任）
H 22. 3. 30	退職 (転出)	荒井裕介	栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクト研究 員（厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室、千葉県立 保健医療大学）
H 22. 3. 31	退職	田畑 泉	健康増進プログラムリーダー（立命館大学）
H 22. 3. 31	退職	由田克士	栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリー ダー（大阪市立大学）
H 22. 3. 31	退職	矢野友啓	食品保健機能プログラム補完成分プロジェクトリーダー （東洋大学）
H 22. 3. 31	退職 (転出)	秋本若夫	事務部会計課長（厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対 策室）
H 22. 3. 31	退職 (転出)	永田幸子	事務部会計課経理係長（国立感染症研究所総務部業務管理 課）
H 22. 3. 31	退職 (転出)	箕浦正之	事務部庶務課主査（成田空港検疫所検疫課）

9. 特別研究員

氏 名	所 属 部	期 間
河嶋 伸久	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 30
村上 晴香	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 30
朴 鍾薫	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 30
河合 智子	臨床栄養プログラム	H 21. 10. 1～22. 3. 30
中出 麻紀子	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 30
大瀧 裕子	食品保健機能プログラム	H 21. 4. 1～21. 6. 30
城内 文吾	食品保健機能プログラム	H 21. 4. 1～22. 2. 28
勝浦 彩	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 30
佐藤 陽子	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 30

10. 名誉所員

氏 名	授与年月日	在職当時の職名
印南 敏	H 10. 4. 1	食品科学部長
宮崎 基嘉	H 10. 4. 1	基礎栄養部長
宇津木良夫	H 10. 4. 1	病態栄養部長
山口 迪夫	H 10. 4. 1	食品科学部長
市川 富夫	H 10. 4. 1	応用食品部長
伊東 蘆一	H 10. 4. 1	老人健康・栄養部長
板倉 弘重	H 10. 4. 1	臨床栄養部長
池上 幸江	H 11. 4. 1	食品科学部長
小林 修平	H 11. 7. 1	所長
江指 隆年	H 12. 4. 1	応用食品部長
澤 宏紀	H 13. 4. 1	所長
戸谷 誠之	H 13. 4. 1	母子健康・栄養部長
樋口 満	H 15. 4. 1	健康増進研究部長
岡 純	H 16. 4. 1	応用栄養学研究部長
増田 和茂	H 16. 8. 1	理事
田中 平三	H 17. 4. 1	理事長

11. 客員研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
太田 篤胤	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	骨粗鬆症予防における栄養学研究
呉 堅	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病予防を目的とした食品成分と運動の併用効果に関する研究
佐々木 敏	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	栄養疫学研究
藤井 康広	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	大豆胚芽発酵物の栄養疫学的研究
山本 祐司	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病におけるレチノール結合タンパク質の動態解析
家光 素行	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
川中健太郎	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	運動が骨格筋糖代謝に及ぼす影響
木村 靖夫	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	高齢者の運動と食事に関する自己効力感を維持・向上させるプログラムの開発に関する研究
真田 樹義	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
田中 千晶	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	子どもの日常生活での身体活動量
寺田 新	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	運動による骨格筋代謝機能向上のメカニズム解明
引原 有輝	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	加速度計を用いた総エネルギー消費量及び身体活動強度の評価法の提案
二見 順	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	ヒューマンカロリメーターによるエネルギー消費量測定に関する研究
吉武 裕	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	高齢者の身体的自立に必要な体力および身体活動量水準に関する研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
谷本 道哉	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
福 典之	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
緑川 泰史	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	エネルギー消費量の変動要因に関する基礎的研究
山元 健太	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
大島 秀武	健康増進プログラム	H 21. 5. 1～22. 3. 31	加速度計による身体活動量の推定法の検討
大森 豊緑	健康増進プログラム	H 21. 8. 1～22. 3. 31	身体活動・運動・食事の改善による生活習慣予防に関する研究
門脇 弘子	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	肥満・糖尿病予防と治療のために、食後高血糖の改善を得る食事内容の確立
野田 光彦	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	メタボリックシンドロームにおける栄養摂取と膵島の代謝・インスリン分泌の関連に関する研究
原 一雄	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討・基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究
石渡 尚子	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発
金田 雅代	栄養教育プログラム	H 21. 4. 6～22. 3. 31	食育における栄養教諭の役割に関する研究
渡邊 昌	栄養教育プログラム	H 21. 4. 16～22. 3. 31	人間ドッグコホートを使った生活習慣病発症にかかる要因に関する研究
亀井 康富	基礎栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	骨格筋の遺伝子発現調節に焦点をおいた生活習慣病の分子機構解明

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
高橋真由美	基礎栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	日本人糖尿病患者に於ける食事、運動量の評価のための予備的研究
渡辺 光博	基礎栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	分子制御によるメタボリックシンドロームへのアプローチ
鈴木 靖志	食品保健機能プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	機能性油脂の体内動態と有効利用に関する研究
梅國 智子	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 31	W e b 上の栄養情報教育に関する研究
江指 隆年	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 31	栄養素の栄養機能代謝に関する研究
久保 和宏	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 31	脂質の機能特性に関する研究
橋本 洋子	情報センター	H 21. 4. 1～22. 3. 31	子供のサプリメント使用に関する調査研究

12. 協力研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
宇田川孝子	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	都道府県健康・栄養調査の実態に関する検討
王 新祥	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	骨粗鬆症の予防治療を目的とした天然素材の検索に関する研究
小松 久美	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	地域における栄養モニタリングについて
佐藤 七枝	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	カルシウムと食生活に関する研究
猿倉 薫子	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	栄養調査及び栄養の指導者側のマニュアル作成やその評価
千葉 大成	栄養疫学プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	柑橘系フラボノイドに着目した骨粗鬆症予防に関する研究
高市 麻貴	栄養疫学プログラム	H 21. 6. 15～22. 3. 31	栄養全般が糖尿病、代謝に与える影響につき、検討すること
片山 利恵	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値定を目的とした大規模介入研究
鈴木 洋子	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	視床下部性肥満マウスの病態
別所 京子	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	エネルギー消費量に関する研究
安田 剛	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	フィットネスクラブにおけるプログラム開発における指導・研究
大賀 英史	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量体力基準値の策定を目的とした大規模介入研究
島田 美恵子	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量体力基準値の策定を目的とした大規模介入研究
高山 光尚	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体的活動量体力基準値の策定を目的とした大規模介入研究

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
松尾 知明	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	加速度計を用いた身体活動量測定に関する研究
河野 寛	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	生活習慣病一次予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的とした大規模介入研究
上野 優子	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	エネルギー消費量の評価について
呉 泰雄	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	地方在住の 20 代から 60 代におけるエクササイズと体力との関係
劉 莉莉	健康増進プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	健康づくりのための運動基準ならびに運動指針作成のための文献収集
曹 振波	健康増進プログラム	H 21. 10. 1～22. 3. 31	身体活動・運動による健康増進効果に関する研究
大石由美子	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～21. 8. 20	メタボリックシンドローム発症の分子機構の解明
窪田 直人	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討・基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究)
松下 由実	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	メタボリックシンドロームのプロジェクト (各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討・基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究)
眞鍋 一郎	臨床栄養プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	エネルギー代謝の分子機構
石田 淳子	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	食介護に関する調査研究
川上 純子	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	高齢者の食介護に関する研究
山田 五月	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	食育の効果的な展開法に関する研究
吉田 智	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	食事療法、食生活における QOL の評価
平川あずさ	栄養教育プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	栄養教育・食育に関する情報収集
木戸和貴子	食品保健機能プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	大豆由来の機能性成分の機能性の評価

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
佐藤 洋美	食品保健機能プログラム	H 21. 4. 1～22. 3. 31	抗中皮腫活性を持った食品機能性成分に関する研究
菊地 有利子	国際産学連携センター	H 21. 6. 1～22. 3. 31	米国における栄養学研究・栄養士制度の最新の動向調査
細川 裕子	国際産学連携センター	H 21. 6. 1～22. 3. 31	メタボリックシンドロームを対象として実食型フードモデルの有効性の検討
桑木 泰子	国際産学連携センター	H 21. 9. 1～22. 3. 31	諸外国における栄養士制度に関する研究

平成 2 2 年 3 月 3 1 日 発行

発 行 者 独立行政法人 国立健康・栄養研究所

〒162-8636
東京都新宿区戸山 1-23-1
TEL. 03-3203-5721 (代)
